

秘

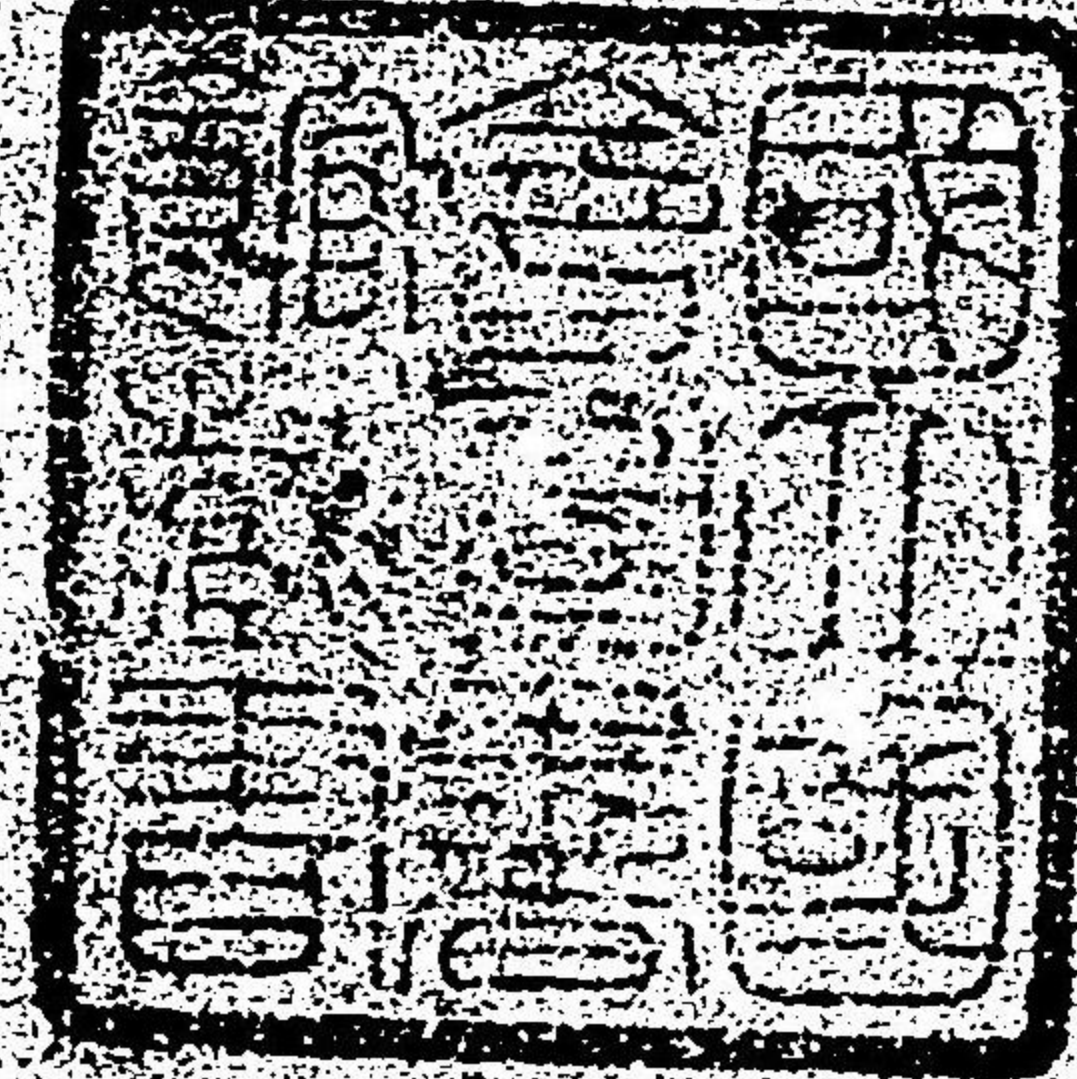
滿洲軍倉庫業務報告

第三卷

滿洲軍倉庫業務報告

自明治三十八年三月
至同 年五月

395
M178m



32852

滿洲軍倉庫業務報告第三卷

第一篇 滿洲軍倉庫

第二章 滿洲軍本倉庫(續)

三月一日 遼東守備軍經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

野戰經理長官ヨリ守備軍經理部長宛電報午後四時二十分大連着

本年所要ノ夏服ヲ滿洲軍倉庫へ追送セントス。格納上差支ナキヤ返待ツ。

同上午後五時二十分大連着

兵庫豫備倉庫ヨリ酒ノ粕約四千貫滿洲軍倉庫へ追送セシム。適宜交付方取計ヒアレ。

右夏服格納上ノ件ニ就テハ翌二日守備軍經理部長ヨリ左ノ如ク返電セラレ。滿洲軍倉庫ニハ夏服ノ格納場アリ。追送差支ナシ。

三月一日 一等主計兒玉清信着任ス。

同日 遼東守備軍經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

野戰經理長官ヨリ守備軍經理部長へ電報。

戰地ノ秣ハ主トシテ現地ニ依リ、其補足トシテ總馬數ニ對シ、定量約三分ノ一ヲ追送セリ。本年モ同一方針ニヨリ準備セントス。右追送量ニ對シ増減ノ必要ナキヤ。意見承知致度。

右ニ付、前田金子兩支庫長へモ其旨移電シ、且ツ意見ヲ申出ヅベク電命セリ二日午前十一時三十分大連發

但、前田支庫長へハ左ノ一項ヲ加フ○増田農學士ニモ取調べサセ貴官ノ意見ヲモ含メテ此地ニ來ル準備セシメヨ。

前項ニ對シテ金子支庫長ヨリ左ノ電報アリ二日午前九時大連受

答、農業ノ關係上粟稈等ノ代用品ヲ昨年ト同一ニ得ラル、ヤ疑ハシ。多少増加ノ必要ヲ認ムレドモ、輸送力ノ關係上昨年通リトスルノ外ナカラン。

右ニ對シ、更ニ金子支庫長へ左ノ如ク電報ス二日午前十時大連發

電見タ○本年夏秋ノ間ニ於テ其支庫ニテ干草ヲ集メテ壓搾シ、之ヲ軍ノ補給ニ充ツルノ方法ハナキヤ。獸醫ノ意見ヲ徵シ、取調べ返。

右ニ對スル金子支庫長ヨリノ返電二日午後九時十分大連受

干草ノ調辨ハ見込ナシ。粟稈ノ壓搾ハ器械アレバ出來ル。

遼陽前田支庫長ヨリ遼電二日午後二時三十分大連受

十分ナル事ヲ望ムル秣三分ノ一追送ヲ要スベキモ、如何セン今日ノ輸送力ノ程度ニテハ之ヲ前送シ得ルノ見込ナシ。故ニ本年ノ爲メニハ遼河ノ沿岸太子河潭河ヲ含ム及遼陽以北ノ鐵道沿線ニ草、粟稈壓搾工場ヲ設ケ、全ク現地調辨ニヨルヲ可トスル意見ナリ。之レガ爲メ今ヨリ其準備ニ着手アラシコトヲ希望ス。○當地方ハ草少ナキ故粟稈ヲ以テ代用ス。

三月二日 金子營口支庫長へ電報午前十時大連發

軍司令官ノ認可ヲ得テ太子河ニ使用スル爲メ、仁川ニアル小蒸汽船「サツキ」五

月九日(開電)九ノ二隻ヲ合計壹萬五千圓以内ニテ江南哲夫ヨリ買入ノ相談ヲ始メタリ。○此地ニ來リ居リシ同人ハ遼陽支庫ノ用辨ヲ濟マセテ昨日カ今日貴地ニ行ク筈。同人ニ面會シテ買入ノ事務ヲ續行セヨ。仁川ヨリ營口ヘノ輸送ハ今其筋ト協議中○乗組員ハ貴地ニテ雇入レノ準備アリタシ○橋十臺丈ケ買入レ出來ル丈ケノ試験ヲ支庫ニテ行ハレヨ。

三月二日 宇品貨物廠長ヨリ麴室蓋二十一梱加賀丸ニ搭載五日大連着トノ電報アリ。依テ遼陽營口兩支庫長ヘ左ノ如ク電報ス午後三時二分大連發

大野ヨリ電(前項全文)○着セバ半分其地ヘ送ル。

同日 參謀次長ヨリ電報午後四時五分大連發

遼東守備軍司令部附看護長二名庫手十六名滿洲軍倉庫ニ轉屬セシメラル。

同日 輜重兵一等蹄鐵工長稻葉仙助支庫附トシテ到着セリ。依テ遼陽支庫附ヲ命ジ即日出發ス。

同日 大野宇品貨物廠長ヨリ左ノ書面ニ接ス貨被六〇號二月二十二日付

來ル三月上旬ヨリ夏衣袴及襦袢ヲ漸次追送ノ計畫ニ有之候處貴地到着以後ノ輸送ニ就テハ甚ダ苦心致候就テハ先般御申越ノ次第モ有之候條貴倉庫ノ手ヲ經テ野戰各部隊ヘ交付致度此段豫メ及御依頼置候也。

參考

一 一回ノ發送數ハ二個師團分宛位此ノ梱包約二千五百

二 一個師團ニ約下士一卒二宛附スル見込依テ貴倉庫ニ在テハ此ノ宰

領者ヲ使用セラレ度コト。

三 第一ノ如ク規定スルモ大連揚陸ノ際ハ前後ノ分共混同ヲ免カレザルベシ。依テ適宜發送相成度コト。

右ニ對シ左ノ如ク電報ス午後六時大連發

答、貨被六〇號見タ。夏衣袴及襦袢追送ノ事ハ他ノ糧秣被服同様受取ルト同時ニ其支配權ハ一切本職ニ移ルト承知セラレタシ○此宰領ヲドコ迄使ヘトカ、ドコノ師團ヘ先キニヤレトノ條件ハ到底實行出來ス。ソナ事ナラ初メ

カラ御断リ申ス○返待ツ。

右ニ付、左ノ返電アリ三日午後八時
四十分大連受

答、夏服追送ノ件ハ其内所員出頭ノ上御協議ス。宜シク頼ム。

三月二日 鐵道提理部へ停車場内ノ取締方ニ付電話ニテ左ノ如ク照會ス(星野少佐受話)

一 貨物ノ置場所ニ就テハ滿倉出張員ト協議ノ上作業ノ妨害ニナラヌ様致サレタシ。

二 馬車、徒歩車トモ規定シアル出入口ヲ堅ク守ラシメ、出口ヨリハ必ズ入ルコトヲ禁ゼラレタダ、又入口ヨリ戻ルコトヲモ同様禁ゼラレタシ。

三 停車場内ノ荷物ノ置場所及整理方ニ注意シ、紛雜セザル様致サレタシ。
同日 金州ト三十里堡トノ間ニ於テ糧秣貨車二十三脱線顛覆セシ旨鐵道提理部ヨリ通報アリ。依テ其處分法ニ付同部へ打合セタルニ、右金州三十里堡間ニハ停車場ナキヲ以テ汽車ヲ廻ハスコト出來ズ。故ニ其糧秣ハ陸送セラレタ

シトノ事ナルヲ以テ、柳樹屯支庫長へ左ノ如ク電命セリ午後二時三十分
五分大連發

今朝金州ト三十里堡ノ間ニ於テ脱線ノ爲メ午後二時ト明朝三時其地發ノ分取消シトナル○右ニ付糧秣約二十車顛覆セシ由、其支庫ヨリ士官以下適宜ノ人員ヲ派遣シテ始末ヲ附ケシメヨ。

右汽車顛覆ノ件ニ付、翌三日鐵道提理部ヨリ左ノ照會アリ。

昨朝金州、三十里堡間ニ於ケル列車顛覆ノ原因ハ別紙中村技師電報寫ノ通り全ク積荷ノ墜落ニ基クモノナルコト判然致候從來積荷法ニ就テハ屢、申進置候事故夫々御注意アリシコト、ハ存候得共斯ノ如キ奇禍ヲ生ジ候事ハ深ク遺憾ニ存候就テハ將來一層ノ御注意ヲ以テ積載方十分御取締相成度此段及照會候也

(別紙)電報二日午後四時
二十分金州發

線路ハ五列車ヨリ開通ス。事故ノ原因ハ積荷ノ米俵落チテ貨車ノ「ダブリユー」ガードニ障害シ約百尺程引摺リ「ダブリユー」ガード「取付ケ」ボルト「折損

シ車輛ノ位置移動セシ爲メ終ニ該車ハ脱線顛覆シテソレニ障害セラレ其ノ以後ニ連結シタル二十三車輛悉皆顛覆シタルモノト認ム廢車トスベキ車輛二十三輛ナリ。

汽車積載法ニ就テハ倉庫ニ於テモ豫テ十分ナル注意ヲ拂ヒ常ニ研究ヲ怠ラザル所ナリシガ「ロップ」ノ不足ナルヨリシテ積荷ノ墜落センコトヲ恐レ、屢ニ屢其筋へ「ロップ」ヲ補充方ヲ請求シタルドモ遂ニ採用セラレズシテ斯ノ如キ奇禍ヲ生ズルニ至リシハ遺憾ナリ。

三月二日 鐵道提理部星野少佐ヨリ電話ニテ又左ノ通牒アリ。

是迄約束セシ汽車ハ二百四十車ナリ。然ルニ總司令部ヨリ彈藥ト補充兵ヲ一週間許輸送スベキ旨申來リシヲ以テ、糧秣輸送ノ爲メニハ百八十乃至二百車ヨリ出スコトヲ得ズ。併シ其輸送ヲ了リタル上ハ其間ニ生ジタル不足車數ヲ逐次償フベシ。

右ニ付、前田遼陽支庫長へ電報午後八時三十分大連發

總司令部ノ要求アリトテ今後七日程彈藥ト補充兵ヲ爲メ輸送力ヲ減ゼラルル故糧秣ニハ百八十カラ二百位ヨリ出テズ。此事終ラバ不足ハ補フテヤルトノ提理部ノ話。

必要ノ被服、衛生、獸醫材料ト加給品ノ一部ハ止メラレヌ故日量ノ補給ニ手加減アリタシ。

同日 大連本倉庫ニ於テ會報ヲ開ク。其事項左ノ如シ。

- 一 總テ業務ハ各主任ヨリ倉庫長へ直接報告シ、且ツ其指揮ヲ受クベキコト。報告ハ毎日午後九時トス。
- 二 停車場ノ積込ミニ就テハ毎日其日ノ業務ヲ報告シタル上翌日ノ計畫ヲモ報告スベキコト。
- 三 倉庫及集積場ノ事ニ就テハ擔任者清水主計ニ於テ意見ヲ立テ其旨申出ヅベキコト。

露西亞街倉庫ハ衛生材料係ニ於テ一般ノ取締ヲ爲スコト。

但、倉庫品ノ出納ハ衛生材料、獸醫材料ヲ除ク外、辻主計擔任ノコト。

四 途中ニ米、麥ノ梱包其他ノ散亂スルモノナキ様注意ヲ要ス。

五 野積ノ雨覆及積方等ニ缺陷ナキ様十分注意ヲ要ス。

六 糧秣掛ハ絶エズ、罐詰ヲ検査スルコト。之レガ爲メ常ニ打診棒、ガチャ、西

洋釘、板キ、罐切ヲ携フベキコト。

七 前送品ハ總テ古キヲ先ニスルコト。

但、損廢品ハ決シテ前送スベカラザルコト。

八 薪炭ノ納人、梱包ノ良否、寸尺ノ長短、量目、品質、産地、發送元。

干草中壓搾麥稈、麥稈ニ二種アリ、北海道ノ牧草、野草等ニ付其區別、品質、壓搾

ノ程度。

是等ノ點ニ就テ精細ナル觀察及検査ヲ要スルコト。

九 箱入ノ副食物中、中罐ノ有無及品質ヲ検査スルコト。

十 柳樹屯ヨリハ米ノ陸送ヲ止メ、他ノ物ヲ送ル様ニスルコト。

米、麥等ヲ倉入レスルニハ第一ニ米、次ニ麥、次ニ箱物トスルコト。

倉庫内ノ物品ハ一ヶ月ニ一回位積替ヘ、且ツ風ヲ入レルコト。

薪炭ハ野積ニシ十分ニ火氣ニ注意シ、干草ハ出來得ル限り庫入レヲナスコト。

十一 倉庫内ニテ酒ト米トヲ二所ニ置クベカラズ。

十二 被服ヲ格納スベキ倉庫ニハ棚ヲ造リ置クヲ要ス。

三月二日 大連ニ於ケル各倉庫ノ周圍ニ柵、矢來ヲ設クル爲メ、石井建築部ト協

議セシ事項左ノ如シ。

一 竹、矢來ノ工事ハ建築部ニ於テ擔當セラル、コト。

二 杉、丸太、竹ハ倉庫ニ受領シアルモノヲ建築部ニ引渡スコト。

三 針金ハ倉庫ニ現在スル十五把ヲ取敢ヘズ、引渡シ、其不足分ハ此程支庫ヘ

送付セシ分ヲ取戻シタル上、引渡スコト。亞鉛板モ同様。

四 釘ハ建築部ニ於テ辨ズルコト。

五 矢來ハ成ルベク倉庫ノ境界ト一致シテ取設ケラレタキコト。

三月三日 先キニ大江第三軍兵站經理榎長ヨリ寄贈毛布一萬枚ノ請求アリ。此件ニ付左ノ如ク返電セリ午前一時大連發

答、毛布ハ遼陽支庫ニアリト思フ。同支庫ヨリ受取ラレタシ。其他當倉庫ニ關スル事ハ一切遼陽支庫ヘ御懸合ヒ下サレバ手數省クテ早ク辦ズルカナシ。前田ニハ獨斷專行ノ實權ヲ與ヘ置ケル。

同日 梶塚糧秣廠長ヘ電報午前十一時四分大連發

當地買入品ノ値段調査ニ必要アリ(二月二十一日記事參照)貴廠ヨリ追送ノ鹽乾魚肉ト若布ノ買入値段詳細電報アリタシ。

右ニ對スル返電四日午後五時五分大連受

答、鹽鯊貳圓四拾錢、鹽鯊外國產七拾八錢、內地產八拾貳錢乃至九拾八錢、開罐壹圓五拾錢、干鰯壹圓五拾錢乃至壹圓七拾錢、干鯛貳圓乃至貳圓五拾錢、干鯖、鱈壹圓七拾五錢、晒若布壹圓參拾五錢、干若布五拾七錢ナリ。以上梱包費共。

同日 大野宇品貨物廠長ヨリ電報午後二時大連受

茶褐色外被四百二十梱加賀丸ニテ六日貴地ニ着ク筈。之レニテ三十四萬邊ヲ濟シ。

同日 每田柳樹屯支庫長ヨリ左ノ申出ゾアリ。

糧秣陸送ニ用キル牛馬車、運搬途中停止ノ際梱包ヲ喰ヒ破ルモノ多シ。今後ハ必ず口網ヲ附ケシムル様其向ヘ達シ方取計ヒアルタシ。

同日 金子支庫長ヨリ電報午後十時十分大連受

三日ヨ(米)四十五、(麥)三十七、(副食)百二十五、(携帯口糧)七日○現在ノコ、ム、フ、ケ、加給品等ヲ今ノ輸送方ニテ送ラバ約七日間ニテ空虚トナル(但、臺灣米、支那米ヲ除キテ)○米ヲ送リテヨキヤ、明後日輸送準備ノ都合アリ、返待ツ。

右ニ對シ、同十一時米ヲ送リテヨシト返電セリ。

同日 大孤山ヘ出張中ノ一等主計高橋豐太郎以下用濟ミ歸廳ス。

同日 營口支庫附雇員一(柳田磯)内地後送ノ旨大連兵站病院ヨリ通牒アリ。

同日 庫手高橋鈴太郎ハ來ル十日召集ニ付歸國セシメラレタキ旨陸軍獸醫

三月三日 先キニ大江第三軍兵站經理部長ヨリ寄贈毛布一萬枚ノ請求アリ、此件ニ付左ノ如ク返電セリ午前一時大連發

答、毛布ハ遼陽支庫ニアリト思フ。同支庫ヨリ受取ラレタシ。其他當倉庫ニ關スル事ハ一切遼陽支庫へ御懸念ヒ下サルレバ手數省ケテ早ク辦ズルカラシ。前田ニハ獨斷專行ノ實權ヲ與ヘ置ケリ。

同日 棍塚糧秣廠長へ電報午前十一時四分大連發 當地買入品ノ値段調査ニ必要アリ二月二十一日記事參照貴廠ヨリ追送ノ鹽乾魚肉ト若布ノ買入値段詳細電報アリタシ。

右ニ對スル返電四日午後五時五十分大連受 答、鹽蹄貳圓四拾錢、鹽蛙外國產七拾八錢、內地產八拾貳錢乃至九拾八錢、開鑿壹圓五拾錢、干鯛壹圓五拾錢乃至壹圓七拾錢、干鯛貳圓乃至貳圓五拾錢、干鯛、鱈壹圓七拾五錢、晒若布壹圓參拾五錢、干若布五拾七錢ナリ。以上梱包費共。

同日 大野宇品貨物廠長ヨリ電報午後二時大連受

茶褐色外被四百二十梱加賀丸ニテ六日貴地ニ着ク筈。之レニテ三十四萬磅ヲ濟シ。

同日 每田柳樹屯支庫長ヨリ左ノ申出デアリ。
糧秣陸送ニ用キル牛馬車、運搬途中停止ノ際梱包ヲ喰ヒ破ルモノ多シ。今後ハ必ズ口網ヲ附ケシムル様其向ヘ達シ方取計ヒアリタシ。

同日 金子支庫長ヨリ電報午後十時十分大連受 三日コ(米)四十五、ム(麥)二十七、フ(副食)百二十五、ケ(携帶口糧)七日〇現在ノコム、フ、ケ、加給品等ヲ今ノ輸送力ニテ送ラバ約七日間ニテ空虛トナル(但、臺灣米、支那米ヲ除キテ)〇米ヲ送リテヨキヤ、明後日輸送準備ノ都合アリ、返待ツ。

右ニ對シ、同十一時米ヲ送リテヨシト返電セリ。

同日 大孤山へ出張中ノ一等主計高橋豐太郎以下用濟ミ歸廳ス。
同日 營口支庫附雇員一(柳田磯)内地後送ノ旨大連兵站病院ヨリ通牒アリ。
同日 庫手高橋鈴太郎ハ來ル十日召集ニ付歸國セシメラレタキ旨陸軍獸醫

學校ヨリ電報アリ。

三月四日 大野宇品貨物廠長ヨリ室蓋百梱外二百四十八梱、安藝丸ニテ九日着ノ筈トノ電報アリ。

同日 午後四時二十分大野宇品貨物廠長ヨリ二軍送り日覆四萬(二十四梱)安藝丸ニテ九日貴地ニ着ク筈、急送頼ムトノ電報アリ。依テ直ニ二軍送り日覆着キ次第急送ス安心アレト返電セリ。

同日 遼東守備軍經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

野戰經理長官ヨリ守備軍經理部長宛電報二月五日着

綿メリヤス手套一萬九千、第四師團經理部へ急送セシメヨ(節略)。

右ニ對シ、經理部長ヨリ經理長官宛電報

目下輸送力少ナク、糧秣ノ如キ一部陸送シツ、アル有様ニ付、手套其他急送ヲ要スルモノ、融通トシテ、各軍ノ手許ニアル殘品ヲ振向ケルコトニセバ一舉兩得ナリ。右殘品ヲ此際滿洲軍倉庫へ返納セシムルカ、或ハ品目、員數ヲ此際

當部迄通報スル様御取計ヒアリタシ。然ルトキハ御指揮ヲ待チテ便宜ニ取計フベシ。各軍各師團ニハ隨分多數ノ殘品アル様存ゼラル。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後十時十分大連受

四日、貨車八十五、噸數五百三十五、大麥四千二百六十一石及衛生材料ヲ送レリ
○明日ハ精米、大麥ヲ送り、明後日ハ一列車牛罐ヲ送ル豫定。若干ノ精米ハ殘シ置クノ必要アリト考フ。其次ハ漬物加給品ヲ送ルニアラザレバ、列車ヲ遊バスコトニナル。一、二列車ヲ大石橋ニ使用シテハ如何。

同日 倉庫附一等主計今泉源次郎三等主計正ニ任ゼラル。

三月五日 前田遼陽支庫長ヨリ電報午前零時三十分大連受

酒保開始後ノ成績極メテ良シ○殘リノ酒保荷物受取ノ爲メニハ明日(五日)入ヲ出ス。

貴地ニ着シアル空樽千個分解シテ陸路輸送シタシ。爲シ得レバ酒保ノ荷物モ共ニ陸送取計ハレタシ。

右ニ對スル返電午前一時十分大連發

答、明日人ガ來ルナラバ酒保ノ残りハ送り得ルナラン。○樽ハ解キテハ再ビ粗立テルコト容易ナラズ。今ヨリ十日タテバ海路營口へ送り得ベシ。其レカヲ以テ北ハ解カズトモ其儘送り得ルナラン。前後ノ相數ト手數ヲ見込メバ海路ヲ取ル方便ト思フ。

三月五日 守備軍司令部ニ於ケル會報ノ際補充兵輸送ノ爲メ、營口遼陽間ノ糧秣汽車若干使用ノ件ニ付、柴參謀ヨリ協議アリテ承諾セリ。

右ハ提理部トモ打合セノ上、大連發十一列車ノ接續スル汽車ヲ七日ヨリ十日迄四日間使用ノ事ニ決定セラレシ旨同日午後六時三十分同參謀ヨリ電話ニテ通報アリ。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後二時十分大連發

守備軍經理部ヨリ當地兵站司令部ニ當支庫ヨリ麵麩三千六百貫ヲ受クベシトテ通牒アリ。渡シテヨキヤ○嚮ニ命ナリ。特ニ伺フ。

右返電午後七時四十分大連發

答、麵麩三千六百貫兵站へ交付シテヨシ。○通常糧秣ノ陸送ヲ見合スベシ。○遼陽支庫長ノ請求ニ應ジ、其他兵站司令部ト協議シ、薪炭ヲ送ルコトニセヨ。○場合ニヨリ干草ヲ送リテモヨシ。

同日 前田遼陽支庫長へ電報午後八時三十分大連發

營口貯藏品減少ノ結果、尋常糧秣ノ陸送ヲ止メ、薪炭ヲ送ラシム。○副食物、加給品、干草等適宜金子ニ要求アレ。代リニ柳樹屯ヨリハ總テ米若クハ麥ニ限ル事トセラレヨ。○兵站部ト打合セノ上ナラバ薪炭ノ輸送ヲ受負ハシムルモ本職ニ於テ異存ナシ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ夜一時八分大連受

電見タ。營口ハ僅ニ三日間ノ輸送量ヲ有スルノミ。速カニ該地ノ貨車數ヲ減ジ、貴地或ハ柳樹屯へ増加セラレタシ。然ラザレバ補給ノ見込ミ立タズ。若シ實行出來ザレバ馬糧代用品トシテ高粱ヲ當地及營口ニテ購買シ、開河ノ

時期ヲ待ツノ外ナカラシム○エキス十貨車急送セラレタシ○柳樹屯ヨリハ當分麥ヲ取ル。

三月五日 各支庫長へ左ノ如ク訓示ス。

軍役夫ヲ取扱フコトノ頗ル面倒ナルハ何人モ知ル所ナリ然ルニ近來諸種ノ原因ニヨリ犯則者續出セル爲メ解備處分ニ及ブモノ非常ニ多シ此情況ニシテ停止スルトコロナクンバ終ニハ業務ニ故障ヲ生ズルニ至ルヤモ亦知ルベカラズ是レ畢竟平素訓戒及監督ノ道ニ於テ猶十分周到ナラザルノ致ストコロニアラザルナキカ若シ夫レ彼等ニ擬スルニ解備ヲ以テ唯一ノ處分法トスルコトアラシカ歸國ノ念慮アルモノハ故意ニ事件ヲ構成スルガ如キ弊害ヲ醸スニ至ルヤモ知ルベカラズ故ニ彼等ニ對シテハ常ニ其ノ取扱ヲ親切ニシ能ク愛撫シ能ク訓戒シ能ク監督シテ以テ事ヲ未前ニ防止スル様一層深ク注意セラレンコトヲ望ム。

右訓示ス。

同五日 從來旅順へ送付シツ、アル生牛肉ノ件ニ付其狀況ヲ同地衛生委員ニ

問合セタルニ對シ、本日中名生軍醫正ヨリ左ノ電報アリ午後九時十分大連受

生肉ノ缺乏ハ十四日ヨリ十五日迄ノ間ニシテ、十六日千五百三貫、十七日八百九十九貫、本日七百九十九貫ノ牛肉受取支給シツ、アリ。明朝モ七百九十六貫受取ル筈。引續キ八百貫ツツ送ラレバ不足ナシ。此等ノ生肉ハ直接衛生委員ニ送り來レリ。故ニ中間ニテ減耗スルコトナク。好都合故此點ハ患者モ満足スルニ至レリ。

三月六日 旅順要塞經理部長ヨリ左ノ請求アリ三月一日付

挽割麥 四月以降毎月四百石宛

右ハ當要塞諸部隊ニ於テ挽割麥混用ノ事ニ相成候間毎月前書ノ通り需用ノ見込ニ付、前月二十五日迄ニ現品到着候様御交付相成度。

追テ三月分ハ當地糧餉部貯藏品ニテ支ヘ得ヘキ見込ニ付、此段申添候也。

同六日 金子營口支庫長ヨリ電報午後六時三十分大連受

前方ニ加給品必要ナルガ如シ。明後八日輸送セントス。是レモ亦一日ニテ無クナリ後ハ漬物、食鹽ヲ合シテ一日ノ輸送量アリ。其他ノ品モ薪炭ヲ除キ全ク空虛トナルニハ尙一日ノ輸送量アリ。

三月六日 第三軍竹島參謀長、大江兵站經理部長ヨリ電報午後三時五分大連受

當軍ニ要スル糧秣運搬ノ爲メ關外鐵道利用ニ關シ、兵站監ヨリ遼東守備軍參謀長ヘ依頼アリシ筈。其ノ實行ニ就テハ貴官ニ話アル筈。宜シク頼ム。

三月七日 金子營口支庫長ヨリ電報午後七時十分大連受

竹原ノ品物買上グルトシテ結局ノ處マデ談シタル結果左ノ如シ。

鹽鹼及若布拾七圓(一割五分引)、煎子貳拾圓(約三割引)、干鰯貳拾圓(二割引)、味噌八

圓(一割一分引)、炭貳圓五拾錢(二月二十二日記事參照)

同七日 前田遼陽支庫長ヘ電報午前九時五分大連發

總司令部ヨリ提理部ヘ糧秣ハ減リテモヨイ。補充兵ト彈丸ヲ送レト申來レル由ニテ、本日ヨリ來ル十六日迄十日間ハ

營口ヨリ 五十六車。

柳樹屯ヨリ 四十一車。

大連ヨリ 百十四車。

但、本日ヨリ四日間營口ヨリノ内二十八車ヲ補充兵ノ爲メニ減ゼラル〇予ハ今出發、營口ニ向フ。

同七日 庫手富岡喜七大連兵站病院ニ於テ死亡ス。

同七日 倉庫長ハ三等主計米田寬ヲ隨ヘ午前九時五十分汽車ニテ大連ヲ出發シ營口ニ向フ。

途中各兵站部ニ就キ陸路輸送ノ狀況ヲ視察シ米、麥ノ地上ニ堆積シアルモノハ薪又ハ其他ノ木材ヲ以テ下敷ヲ爲ラルベキ様各兵站司令官ニ注意セリ。陸路輸送ノ爲メ各兵站部ノ使用シツ、アル馬車一輛ノ賃銀左ノ如シ。

普蘭店ヨリ南瓦房店迄 五里半 五圓

南瓦房店ヨリ得利寺迄 五里半 四圓參拾錢

得利寺ヨリ北瓦房店迄	五里	五圓
北瓦房店ヨリ熊岳城迄	七里半	七圓
熊岳城ヨリ蓋平迄	八里	九圓
蓋平ヨリ大石橋迄	七里	九圓

三月八日 倉庫長以下午前一時四十分大石橋ニ到着シ、直ニ同地滿洲軍倉庫派出所及各倉庫ヲ巡視シ、午前七時十五分汽車ニテ出發、同九時營口支庫ニ到着セリ。

同八日 第三軍兵站監部竹島參謀長、大江經理部長へ電報午前十一時 家屯發

今着イタ○コレカラ準備ニ掛ル。
同八日 守備軍經理部長ヨリ電報午前十一時 家屯發

例ノ件、實行如何。見込丈ニテモ速ニ電報ヲ望ム○鐵道ノ方ハ營口ノミヨリシタルヲ、明日ヨリ先ヅ大石橋ノ分ヨリ先ニスルコトニ提理部へ協議濟ミ。夫レ故營口ノ分ハ大石橋ノ分ヲ送リ終リタル上從前ノ通リトナル。

右ニ對スル返電午後一時十五分 家屯發

答、今調査中ナリ。實行ノ見込ミアリ。

尙、大連本倉庫ヨリモ大石橋ノ糧秣ヲ明日ヨリ送り始メルコトニ就テハ辻村部長ヨリノ電話アリシ旨電報シ來レリ。依テ「大石橋ヨリノ品ヲ先キニ送ルコト承知ス猶倉庫ヨリモ提理部へ其旨話セヨ」ト電報セリ。然ルニ同日又大石橋ヨリハ毎日六十乃至七十車發スルコトニ提理部ト協議セル旨電報アリタレドモ、大石橋ヨリ六十車以上ヲ出タスコトハ困難ナルノミナラズ、此ノ如キハ大體ノ計畫ニ影響スルコトナルヲ以テ、速ニ其協議ヲ取消シ、且ツ爾來貨車數等ニ就テハ必ズ本職ノ指揮ヲ受クベキ旨電命セリ。

同八日 午後二時四十八分在小北河大江部長ヨリ電見タ成ルベク前送頼ム先方へハ受領員出シアリトノ電報アリ。

同八日 辻村經理部長ヨリ電報午後八時 家屯受

見込ミアリトノ快報見タ。此事ニ付與倉中佐モ配意セラレアリ。打合せラ

レタシ。右ニ付、貴地ノ糧秣ヲ減ゼザル方針ニテ大石橋ヨリ送ルノ件、明後十日ヨリ實行ノ事トナル。○鴨第一、第四軍方面ノ敵ハ今朝拂曉以來總退却ヲ始メ窮追中ナリ。貴官ノ任務ノ一日モ早ク實行セラレ、ノ快報ヲ望ムコト切ナリ。

三月八日 遼陽前田支庫長午後三時半營口支庫ニ來リ、金子營口支庫長ト共ニ本職ノ輸送計畫任務ニ參與ス。

三月九日 午後二時、營口支庫ニ於テ一等主計藤田順ニ左ノ訓令ヲ與フ。

藤田主計ニハ此任務ヲ與ヘンガ爲メ當日特ニ遼陽ヨリ招致シタルナリ。

此訓令ヲ與フル時ニ列席シタル者ハ遼陽前田支庫長、營口金子支庫長及筆記ノ爲メ列シタル米田三等主計ノ三名ナリ。

訓令

一 貴官ヲ新民屯ニ派遣ス其任務ハ關外鐵道ニ依テ輸送セラレベキ我糧秣ヲ該地ニ於テ集收シ之ヲ第三軍ニ交付スルニ在リ。

關外鐵道使用ニ關シ參謀次長ヨリ守備軍參謀長ヘノ電報左ノ如シ。

爾後第三軍用糧秣ノ大部ハ營口ヨリ關外鐵道ヲ利用シ新民屯ニ輸送セシメタシ其方法ハ商人ノ名義ヲ籍リ其實行ヲ監督セシムル爲メ、端末及途中ノ各要點ニモ變裝セル軍人ヲ派遣スルノ必要アリ、猶此ノ件ニ關シテハ大澤提理小畑兵站監トモ協議シ速ニ實行セシメラレタシ。

貴官ニ此全文ヲ示ス所以ノモノハ遠ク中立地ニ派遣セラレ特別ノ任務ニ服スル上ニ於テ事ノ大體ヲ呑ミ込ミ置クノ必要アルヲ以テナリ。

二 前項ノ主旨ヲ實行スルガ爲メニ在營口三井物産會社ニ内意ヲ傳ヘ其折衝ニ當ラシメントセシガ尙ホ鐵道當路者ノ關係上三井ノミニテハ不十分ナルコトヲ認ムル故更ニ此地ニ在ル外國人ト協同スルノ必要ヲ認メタリ
三井ト「ブツシユ」ガ昨日來ノ奔走ト殊ニ與倉軍政官ノ斡旋盡力ニ依リ、今日明日中ニ輸送ヲ實行スルナラントノ見込ナリ。

三 貴官以下此業務ニ關スル者ハ通常服ヲ着用スベシ。通常服ハ官ヨリ貸

與ス。

- 四 新民屯ニハ實際ノ出張所ヲ置クベシ但、名目ハ何處マデモ商人ノ支店ナリ。
- 出張所ノ設備ニ要スル物件ハ爲シ得ル限り彼地ニ於テ調辨スベシ止ムヲ得ザルモノハ追送ス。
- 五 鐵道掛員其他地方ノ吏員等ニ我ガ業務ノ圓滑ニ實行セラル、爲メニ必要ナル出費ハ適宜之ヲ支拂ヒ其ノ旨内報スベシ但、時機許ス場合ニハ本職ノ認可ヲ受クルヲ要ス。
- 六 貴官ハ此任務ヲ行フ爲メニスル携帶品並ニ用紙類等ニ至ル迄一切官用名ノモノヲ用ウベカラズ。
- 七 到着ノ糧秣ハ附近ニ在ル第三軍兵站經理部派出員ニ交付スベシ但、一回ノ交付ハ四個師團分ヲ標準トス。
- 八 糧秣ノ下敷及雨覆ハ勉メテ之ヲ集收シ今後來ルベキ雨期ニ對シ防雨手

段ヲ缺クベカラズ。

- 九 物資ヲ調査シ何時ニテモ其要ニ應ジ得ベキ準備ヲ爲シ置クベシ。
- 十 爲シ得ル限り報告ヲ提出スベシ最初ノ報告ニハ左ノ事項アルヲ望ム。
 - イ 關外鐵道ノ調査
 - ロ 新民屯及其附近ニ於ケル物資ノ調査
 - ハ 遼河右岸トノ連絡ニ關スル調査
 - ニ 新民屯附近ノ地圖但、爲シ得レバ新民屯附近ニ於ケル軍需品搭載馬車ノ調査
- 十一 貴官ニ左ノ人員ヲ附屬ス

下士	二等計手	中山	八之助
通譯		大田	垣市次
雇員		山崎	源逸
仲任			
	五		名

十二 必要ナル人員ハ此外ニ土人ヲ使用シ又其他臨時ニ備入レ爲シ得ル限
リハ其地方ノ情況ヲ知悉シ置クヲ要ス

十三 新民屯出張所ハ營口支庫長ノ監督ヲ受ケ其業務ニ服スルヲ通常トス
但、場合ニヨリ倉庫長ヨリ直接ニ命令スルコトアリ。

右藤田一等主計以下ハ直ニ變裝ヲナシ翌朝四時西營口發汽車ニテ新民屯ニ向
フベキ爲メ營口支庫ヲ出發セリ。

三月九日、小北河出張所附タリシ熊崎計手大連ヲ經テ本職ノ許ニ到着セリ。

同日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後二時二十分 家屯發

天津ヨリハ未ダ返事ナシ。是非實行ノ考ニテ一萬梱丈ハ對岸ニ運搬中○蓋
平ノ品ヲ營口ニ取ルコトヲ下官ヨリ要求スレバ全力ヲ盡シテ送ル様取計ヒ
アリタシ。

右ニ對シ、辻村部長ヨリ返電午後六時三十分 家屯受

答、蓋平へハ電報シ置ケリ○第四軍ヨリ右翼ハ追擊第二軍ハ李家堡附近ニテ

接戰、第三軍ノ一部ハ奉天ノ北ニテ鐵道ノ一部ヲ破壞シ敵ハ撫順奉天間ノ山
地ニ向テ敗退中トノ事ナリ○貴官ノ任務ノ一刻モ早く成效センコトヲ祈ル。
次デ又電報アリ午後九時三十分 家屯受

貴官ノ任務好結果ヲ得バ新民應奉天間ニハ輕便鐵道ヲ布設セラル、答○奉
天ニ支倉庫ヲ設クル意見ヲ大島兵站總監部參謀長ヨリ申シ來リ同意シ置ケ
リ○第一軍ハ已ニ興隆甸マデ渾河ノ右岸ニ渡リ、第四軍モ渾河ヲ經テ奉天ノ
東方ニ出デ、魚鱗堡ニ向ヒツ、アリ。第二軍ハ奉天ノ西方ニ向ヒ、第三軍ハ道
義屯ヨリ左翼ニ延進運動ヲナシツ、アリ。以上ハ今日午前中ノ情況。

同日 蓋平兵站司令官へ電報午後八時十分 家屯發

貴地ニ米、麥、醬油、エキス、粉、味噌、漬物、重燒麵麩、四十分入牛罐、割麥殘ラズヲ成ル
丈明日中ニ營口へ送ラレタシ○返待ツ。

右返電午後十時 家屯受

答、火急ノ御請求ニ依リ車輛其他ノ準備整備セザル爲メ全部前送出來ズ。約

四百車輛ヲ以テ米麥、四十匁入罐詰、重燒麵麩ヲ送ル。

右ニ對シ、左ノ如ク電報ス午後十一時
牛家屯發

貴地ヨリ來ル馬車ハ成ル丈朝早く出發シ、日ノ高キ内ニ營口ニ着ク様御取計アリタシ○營口ノ啓文門ニ來レバ案内者アリ。一般ニ示シ置カレタシ○滿洲軍支庫ハ牛家屯ニアレドモ右糧秣受取場ハ營口ナリ○明後日輸送セラレベキ品目、員數電報アリタシ。

三月九日 辻村經理部長へ電報午後九時
牛家屯發

一件纏マリ、明日カラ輸送ニ掛ル筈。

同時ニ在小北河大江兵站經理部長へ電報。

色々苦心ノ末彌、明日カラ輸送ヲ始メル筈。新民屯へハ出張所ヲ置キ、藤田一等主計ヲ所長トス。貴軍ノ日糧ハ同官ヨリ受取ラレタシ。

同日午後十一時十六分更ニ辻村經理部長へ電報。

今朝庄司通譯先電與倉中佐自ラトセシハ間違ニ停車場監督(英國人)ト打合ハ

サシメ、且ツ三井ノ遠藤ト「ブツシユ」ト「マグリユ」ト三人(三井ノミニテハ迎モ見込ナキ故奔走セシニ、監督ノ獨斷デハ行ヒ難ク、天津ニ聞合セテ答ヘルト云フ。但、見込アル方ナリ。

同九日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報夜十二時二十分
牛家屯受

輸送ノ成功ヲ謝ス○馬廠へ兵站司令部ヲ設ケタ。三井ノ名義ニテ送り方頼ム。車ハ司令部ニテモ守備隊ニテモ心配スル筈。軍ノ兵額ハ約五個師團ナリ。

三月十日 辻村經理部長ヨリ電報午前一時五分
牛家屯受

成功多謝ス○明日新民廳ノ東南約二里半ニアル馬廠へ第三軍ヨリ兵站司令部ヲ開設ス○新民廳ヨリ馬廠マデハ變裝倉庫員ノ助力ヲ以テ請負人ヲシテ輸送セシメラレタシ。輸送ニ關シテハ兵站司令官協議ニ應ズ○興隆甸ニハ一大隊、候家窩甫ニハ二中隊ノ警戒兵アリ。第三軍ノ兵站司令部ハ三家子ト大石橋ニ設ケラル○鐵道ノ實際用キ得ベキ輸送力如何。爲シ得レバ約束

セシ數量ヨリモ多ク送リテハ如何ト思フ○第一回ハ何時新民廳ニ着スル豫定ナルヤ。此後日々ノ豫定ト輸送力ノ詳細返待ツ○蓋平ヘハ全力ヲ以テ陸送ノ專電報シ置ケリ。

右ニ對スル返電午前二時二十分 牛家屯發

答今日ハ米八日、麥二日半、調味品等計約一万梱ヲ二面ニ送ル。今夜遅クモ馬廠兵站部ヘ送り届クル計畫ナリ。藤田一等主計以下今朝四時發午前十時カ十一時迄ニハ新民屯ニ着ク筈○今後品サヘアレバ六百噸ハ確實ニ輸送シ得ル見込。尙ホ千噸迄ハ輸送出來ルナラントノ話○近來ノ天候ハ著シク解水ノ時期ヲ促シ、遼河ノ入口ハ對岸ノ停車場ヨリ下若干ヲ隔テタル處ヨリ下流ハ殘ラズ解水シタリ。此ノ地點ヘハ船ヲ入ル、コトヲ得ベシト云フ。南風一度吹キ來ラバ瞬時ニ對岸停車場前及其上流ニ龜裂ヲ生ズルナラン。サレド全ク牛家屯ニ船ヲ入ル、コトハ今後七日以上十日位カ、ルナラントノ説○解水後關外鐵道ノ利用ニ就テハ對岸ノ棧橋ニハ三個ノ汽船ヲ同時ニ揚陸

シ得ベシ○棧橋ノ附近ニハ約百坪餘ノ倉庫二個アリ。棧橋ト鐵道トハ殆んど接続シアリト云フヲ得ベシ○右鐵道ノ利用ニ就テハ三井ノミデハ到底追付カズ。事ノ此處迄運ビタルハ「ブツシユ」ヲ奔走ニ依ル○秦皇島ヨリノ鐵道利用モ都合能ク行クコト、信ズ。此ノ件ヲモ兼テ今日「ブツシユ」ガ天津ヘ行ク。但、主トシテ該地ノ利用ハ營口解水前タル目下ニ於テ最モ必要ナリ。

若シ英斷ヲ以テ大連灣ニ來レル船ヲ直グニ秦皇島ニ廻ハサルレバ此困難ナル時期ニ一生面ヲ開クコトヲ得ベシ。此ノ事ハ斷ニ在ルノミ。秦皇島ト其以北ノ鐵路使用ニ關シテハ本職身ヲ以テ其ノ實行ノ責ニ任ズ。貨車ハ元來十噸二十噸ノ二種ナリシガ、近來三十噸ヲ交ヘ用キ、汽罐車ノカハ百輛十噸ナラバ二十噸ナヲ曳キ得ル○米、麥ハ二十噸貨車一輛百二十七弗。未ダ實驗ナキ故明言シ難キモ、二十噸貨車ニハ米七百ヲ積ミ、一梱約拾八錢ニナル。但、手數料ト積卸賃ハ別トス○營口ニハ送ルベキモノナシ。

同日 西營口ヨリ藤田主計ノ報告

其 一 八時前

唯今乗車ス糧秣ハ未ダ發送ノ運ビニ至ラザルヲ遺憾トス○糧秣輸送ヲ監視
スル輸卒隊ハ西營口マデ濶歩シアリ。大ニ人目ヲ引ク。

其 二 午前九時
三十分

「マグリユ」ヨリノ御書面正ニ拜讀ス今朝四時ノ汽車ニテ發セザリシハ夜間
氷上ノ走行危險困難ナリケレバナリ。

三月十日 蓋平兵站司令官ヨリ電報午前九時四十分 牛家屯受

本日貴地ニ向ケ米百六十石、麥二千七十石ヲ支那車輛ニテ送ル。

次デ又電報アリ午前十時四十分 同地受

當部常用車頭ノ報告ニ依レバ、昨日貴庫へ送りタル支那車輛清國巡捕之ヲ捕
縛シ歸部セシメザル由。如何ナル理由ナルヤ御取調べ返電アレ。本日歸部
セザレバ明日ノ前送出來ズ。

右ニ付直ニ營口軍政署ニ右等不都合ノ事ナキ様照會方依頼シ置ケリ。

同日 在營口河岸金子支庫長ヨリ報告午前九時四十分受

下流ニ積載シアリタル分ハ先刻送り濟ミ(停車場構内へ)日英ホテルノ傍ニア
ル四百呎ハ橋ヲ以テ一回ニ今送ラントス。輸卒隊ハ今直グ歸レリ。

今朝四時發汽車ニハ三貨車米ヲ送レリ○其他ハ貨車ナキ爲メ送ルヲ得ズ。

同日 辻村經理部長ヨリ電報午後一時十分 牛家屯受

小蒸汽船ニテ「ジャンク」船ヲ營口河口マデ曳行カシメ置キ解氷ヲ待チテ直ニ
入船セシムル策ハ如何。又秦皇島へ同様ノ處置如何。甲ハ海軍デモ曳船ヲ
貸シ呉レル筈。乙ハ遲着シテ時機ヲ失スルヤノ恐レアリ。右意見聞キタシ
○支那米ハ無論前送セラレアリト信ズ、如何。

次デ又電報アリ午後一時二十分受

蓋平ヨリノ陸送ハ約三日分ナリ○貴地ヨリ蓋平へ車輛ヲ差向ケラル、様望
ム。同兵站司令官ヨリハ打合セヲ爲ス筈○目下ノ場合餘リ澤山危險多キ新
民廳へ送り置クモ如何ヲ思フ故、出發ノ際御話シセシ如ク、先ヅ毎日米四日、麥

五日、調味品若干位ヲ標準トシテラレタシノ糧秣廠ノ記名アルモノヲ送ルコト
ハ避ケラレタシノ秦皇島ノ件同感。又天津守備隊ノ分ヲ一時融通ノ件當機
ニテモ調査中ナルモ尙ホ經理長官へ願慮ヲ望ミ置ケル○夫ノ如ク長官ヨリ
電アリ。返待ツ。

左ノ件至急回答アリ。曩ニ臺灣米混用ノ件命令セリ。其實施及各軍ノ意
向並ニ搗精所目下作業ノ情況○本年八月以後所要ノ糧秣ハ不日進送ヲ始
メントス。而シテ其揚陸地ハ新陳交換ノ爲メ凡テ大連トス。之ニ應ズル
倉庫ノ準備ニ付差支ク有無例ヘバ在來ノ物品ハ勉メテ格納場所新古ノ區
分ヲ爲シ則チ新陳交換ヲ容易カラシムル設備

三月十日 辻村經理部長へ電報午後五時二十分 牛家屯發

營口停車場ノ下五丁許リノ處へ汽船ヲ着ケルモノト出來ル。之レガ爲メ河ノ
入口ハ時々氷塊ノ流ル、ニ依リ、少シノ危険ハアレド、熟練ノ水先案内ナレバ
解氷期ヲ俟タズ今直グニ入船出來ルト云フ。水先案内入用ナラバ獨逸人、

一レンズンヲ其地へ遣ル。同人ハ十七年間營口ニテ水先ヲ業トシ一度モ過
チタルコトナシト○「ジャンク」ノ如キ不完全ニシテ小規模ノモノヲ用キルハ
總テニ於テ不利益ナリ。汽船カ又ハ來多ヲ汽船ニ曳カセテハ如何。來多入
用ナラバ塘沽ニ手ヲ廻サバ間ニ合フ見込○今營口ヘノ入船御不同意ナラバ
秦皇島デモヨシ。場所ト船トノ選定ハ寧ロ第二ニ屬ス。更ニ緊要ナルハ時
機ノ問題トス。時ハ今ナリ。逸スベカラズ。速ニ決行セラル、ヲ望ム。

同十日夜、辻村經理部長へ電報。

今日ノ天候ニテ營口、牛家屯間ノ川ハ處々ニ解氷セシ小ナル部分出來、猶豫シ
難キ故取敢ヘズ一萬棚ノ糧秣夕刻迄ニ下流ノ左岸ニ運ビ終リ、夜ニ入りテ其
内ノ二千棚許リヲ對岸ニ運ビタリシガ、三井ノ懸引手緩キ爲ナルカ、明日ノ事
ニナラザル旨申來レリ。鐵道ノ承知ナキニ多クノ荷物ヲ對岸ニ運ブトキハ
面倒ヲ起ス心配アル故、右ニテ控ヘタリ。若シ明後日モ見込ナキトキハ困ル
故、自ラ停車場ニ出デテ盡カスル筈。與倉中佐ト協議ノ末明朝ハ三井ヲシテ

表面ノ懸引ヲ「ブツシユ」ニサセルツモリ(三井ハ勿論協同セシメアルモ)參謀長
ヘ御打合せノ上返待ツ。與倉中佐モ同意ナリ。

三月十日 午前四時西營口發新民屯行ノ貨車ニ第一回ノ積込ヲ終リタルモノ
左ノ如シ。

米 千百二噸

次ニ午後四時四十五分發ノ貨車ニ左ノ如ク第二回ノ積込ヲナス。

米 三千四百七十五噸

麥 六百七十五噸

同日 今朝發車スベキ第三回車ハ西營口停車場ニ於テ發車中止トナリタル
旨漸ク午後三時ニ至リ三井其他ヨリノ報告ヲ得タリ。依テ「ブツシユ」マグリユ
一及ビ三井ノ藤瀬ノ三人ヲ連レ與倉中佐ヲ訪ヒテ協議セリ。
尙ホ此件ニ就キ午後四時三十分西營口ニ渡リ停車場ヲ實視ス。軍政支署附庄
司通譯ニ面會協議セリ。

三月十一日 午前五時在營口西稅關佐野主計ヨリ報告。

一 昨日河向ヘ送リシ米ノ殘リト味噌漬物全部ヲ貨車ニ積ミ終リ今朝四時
ノ汽車ニテ出發ス。貨車數二十噸五臺、十噸八臺計十三臺ナリ。尙ホ今朝
五時空貨車約二十臺到着ノ筈。着次第糧秣ヲ積込ム豫定。

二 搗精所ノ米ハ三井ノ荷車約三百輛ヲ以テ、今ヨリ一時間半以内ニ西稅關
前迄全部送り出ス筈。既ニ三分ノ一以上ハ海岸ニ到着セリ。

三 橋ハ只今七十臺ヨリ多ク集メルコトヲ得ズ。一臺ノ橋ニ十俵ヲ積ミ運
搬シツ、アリ。夜ノ明クルニ從テ増加スル積リニテ、三井ニ奔走セシメア
リ 只今第二回目ヲ渡シ了レリ。

四 橋ノ運搬ハ水上甚ダ困難ナリ。本日ハ漸ク運搬シ得レドモ、明日以後ハ
危険ナラン。

同十一日 蓋平兵站司令官ヨリ電報午前十一時 牛家屯受

本日貴地ヘ米八百五十石、エキス二百八十八貫、味噌三百貫ヲ八十七車輛ニテ
送ル。

次デ又電報アリ午前十一時
五十分受

貴軍ニ日々四個師團分ノ糧秣ヲ前途スベク經理部長ヨリノ電報ニ接セリ。然ルニ昨日及今日ノ運搬力ノ景況ニ依レバ、希望通り前途覺束ナシ、即チ昨日當地ニ歸ルベキ車輛ハ距離遠キ爲メ本日ニアラザレバ歸部セズ。故ニ常ニ二倍ノ車輛ヲ要セザレバ平均四個師團分ノ前途出來ザル譯ナリ。因テ貴庫ヨリモ車輛日々二百臺宛御差向アリタシ。

三月十一日 辻村經理部長ヨリ電報正午
午後五時受

關外ハ猶危險ナシトセズ。餘リ多ク送ルヲ得ザルト、營口ノ入船モ萬一ノ危險ヲ慮リタルト、秦皇島ハ彼是スル内營口解氷ノ方早クナルト、又御用船數隻ハ近日大連ニ集マリ、此處ヨリ營口ヘノ應援ヲ始ムルトニ付、此處當分陸送ノモノニ依ルコト、セリ○右ニ付、毎日凡ソ三個師團(陸送ノ輸送力)ツツ送ルノ外ナシ。實際ハ臺灣白米ヲ加ヘ凡ソ毎日平均幾許ツツ送り出シ得ルヤ。日彼地ニ着スル平均數量ハ第三軍ノ計畫ニ必要ニ付、返待ツ。但、大石橋ヨリ

取寄セラル、モ可ナリ同地及營口ノ糧秣皆無トナラバ、其貨車ヲ大連ニ用キ、又旅順及補充兵モアラ方片付キタル故專ラ糧秣ノ輸送ニ用ユル事ハ交渉中。

同十一日 遼陽前田支庫長ヨリ電報アリ正午十二時
午後二時受

例ノ輸送ハ目的通り實行セラレシヤ。又本日ノ景況ヲ承知シタシ。

右ニ對スル返電午後三時
五分受

答、昨日二度ニ米七、麥一ヲ送レリ。今朝米一、麥二、梅干三十日分ヲ送レリ。午後米、麥ヲ送ル數未定○守備軍デハ新民屯ヲ危險ニ思フノト實行ノ困難ニ幾分カ腰ヲ抜カシタト見エテ時々云フ事ガ變ツテ困ル。新民屯ニハ日糧丈ニスル様申シ來レリ。サレド予ハ出來ル丈多ク送ラントス○妨害ノ風ガ天津ノ支那人側ヨリ吹キ來レリ。此地ノ英國人ヲシテ逆風ヲアビセ掛ケテ居ル最中ナリ。安心アレ。

同十一日 辻村經理部長ヨリ電報午後五時
五分受

十日調べニ依レバ貴地及大石橋ニモ現在品若干アリ。之レニ陸送ノ分ヲ加

へ日々送り出す平均數如何。返待ッ○軍ハ全ク目的ヲ達シ、其最進出師團ハ三窪、王化口ニアリ。第二軍ノ一部モ之ト相隔テ、位置シ、三窪方面ニ混亂敗走スル敵ニ多大ノ損害ヲ與へ夜ニ入レリ。是レ昨夕ノ情報ニシテ敵ハ困憊シテ武器ヲ棄テ、數團トナリ潰走。俘虜約二萬アリ。猶續々増加シツ、アリ。三月十一日 新民屯、藤田主計ヨリ電報十一月六時三十分新民屯電發昨日(九日)ノ米千十二捆着ク。「ブッシュ」三井ノ手ニテ仕事ノ打合セ終ル。米

ハ今ヨリ送ル。第三軍末永司令官ト連絡ス。馬隊ノ橋口中佐及守備隊長(後備五十七聯隊)ト聯絡ス。援護方法確實ナリ。第三軍糧餉部トモ聯絡ヲ取レリ。當地ニ入り込ム商人多シ。此等ヲ取締ル爲メ軍政署ノ如キモノ、必要アリ。溝帮子、當地停車場ニ多クノ荷物アリ。其持主ヲ取調べ、適當ノ處置ヲナスノ必要アリ。

同十一日 辻村經理部長ヨリ電報午後七時五分

本日新民廳へ守備トシテ後備歩兵第十五旅團ヲ派遣セラル。同地ニハ假リ

ニ差押へタル疑ハシキ物品頗ル多シト○第三軍ノ兵站司令部ハ馬廠ニ、其支部ハ敬安堡ニ、又大石橋ノ司令部ハ「エイラホ」ニ移サル。同軍ノ追撃先頭ハ鐵嶺ノ約十里程前迄ナリト。

次デ又左ノ電報アリ午後十時三十分牛家屯受

蓋平ヨリ送リタル支那馬車ヲ貴地ニテ引留メタル爲メ明十二日ヨリ前送出來ズトノ報アリ。爲メニ貴地ヨリ引續キ送り出スニ差支ナキヤ心配セラル。場合ニ因テ大石橋ヨリ取寄スル策ヲ採ラレタシ。尙ホ蓋平へハアラユル手段ヲ以テ前送ノ事ヲ命ジ置キタルモ、支那車ハ速カニ返ス様取計ヒアリタシ。

同十一日 蓋平兵站司令官ヨリ電報午後十一時十分牛家屯受

左ノ事ヲ貴地軍政官ト協議方頼ム○當地ヨリ前送スル軍需品ノ入關稅ヲ免ゼラレタク、又巡捕ノ車輛ニ關セザル事はレナリ。

同十一日 遼東守備軍參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。

遼陽支庫ニ於ケル衛生材料保管ノ爲メ滿洲軍倉庫遼陽支庫へ看護長二名配

屬セラル。

三月十二日 遼陽前田支庫長ヨリ電報分午前二時十五

今日尾野參謀ニ會見セリ。○倉庫ノ位置ハ奉天ノ豫定。但奉天ノ南方ニアル
渾河ノ鐵橋ハ破壊セラレアルニヨリ、其模様ニヨリテ鐵橋以南ノ蘇家屯ニ一
時置カザルヲ得ザルヤモ知レズ。○鐵橋修理ノ程度ハ一兩日ニ分ル豫定。○明
日、橋元一等主計、中村二等主計ヲ蘇家屯及奉天附近へ倉庫地選定ノ爲メ出張
セシム。○總司令部ノ企畫セル補給線ハ現在ノ鐵道ヲ十五日分及遼河ノ水路
ヲ十日分トシ、關外鐵道ヲ補助トセントスルモノ、如シ。○關外鐵道ノ狀況ニ
就テハ詳シク話シ置キタリ。同司令部モ守備軍ト同シ顧慮ヲナシ居ラル、
モノ、如シ。○該鐵道ニヨリ馬廠ニ送ルモノハ直ニ奉天方面へ送り、該地ニハ
品物ヲ殘サザル方針ナリト。○水路輸送ノ件ニ就テハ不日守備軍ノ參謀ガ總
司令部へ來ラル、由。

同十二日 大連本倉庫磐井藥劑正ヨリ電報分午前十時一十一分
分午家屯受

前方ノ情況ニ依リ倉庫員ノ一部ヲ前進セシメラル、トキニハ藥劑官一、看護
長一ヲ加ヘタキ旨前田支庫長ニ通知シ置ケリ。御承知アリタシ。

同十二日 搗精所金子支庫長ヨリ電話ニテ報告分午後一時二十
分營口支庫受

昨夜八時、十四貨車ニ米五千百袋搭載ノ儘交渉中ニテ未ダ發車セズ。

次デ又營口軍政署ヨリ電話ニテ左ノ通知アリ。

在北京青木大佐ヨリ營口軍政署へ電報

溝帮子ヨリ營口及新民屯ニ至ル鐵道昨日ヨリ運轉ヲ中止セリ。右ハ我軍ガ
新民屯及營口ニ於テ鐵道業務ヲ妨害スル爲メトノ事ナルモ、實際ハ露軍失敗
ノ爲メニ利益ヲ失ヒタル鐵道官吏(雇外國士官等)ガ針小棒大ノ報告ヲナシテ
鐵道當局者ヲ動カシ、我軍ニ不利ヲ與ヘル爲メ運轉停止ヲ實行セシメタルモ
ノト思ハル。目下交渉中。

右ハ翌日辻村經理部長へ移電セリ。

同十二日 辻村經理部長へ電報分午後四時
分午家屯發

確カナル報知ハナケレドモ新民屯ニハ米八日、麥二日半、漬物三十三日分ナリ、今日ハ澤山送リツ、アリ○配合ノ都合良ク行カザルハ在庫品ノ關係ト渡河ノ困難ナルニヨル○蓋平ヨリ來ル品ニハ麥不足スルモノ、如シ○昨日天津ノ鐵道總辦ヨリ故障起リ、一時輸送中止トナリ困難ヲ極メタリシモ、英國領事ノ證明ニテ今朝カラ輸送ヲ恢復セリ。何時其他ノ故障生ズルヤモ知レザレドモ必ず恢復實行出來ル見込ミ○三井ノ藤瀬ハ運動ノ爲メ今朝天津ニ立ツタ○氷ハ間々解ケテ渡河ヲ苦シメ、第一日ニハ支那苦力三人死シ、第二日ニハ機ニ米ヲ積ミシマ、氷ノ間ニ落チ込ミ、苦力一人死セリ。本日迄日本人ニハ異狀ナシ。此ノ作業ハ日々困難ニナル○大石橋ノ品ヲ玆ニ廻ハシ、毎日四日又ハ五日分ヲ新民屯へ送り得。

三月十二日 辻村經理部長ヨリ電報午後五時 牛家屯受
 分捕品中第二軍ニ馬糧五萬五千石、麵麩百萬食、第三軍ニ干草一萬五千貫、雜穀二千石、第四軍ニ木炭二百萬貫、薪六百萬貫、雜穀二千石アリ。各軍總計穀物一

萬三千石、麵麩百萬食、馬糧五萬五千石、干草千五百萬貫、木炭二百萬貫、薪六百萬貫、燃料百十萬貫。因テ米、醬油、エキスノ前送ヲ肝要トス。右參考迄。

同十二日 辻村經理部長へ電報午後七時 牛家屯發
 大石橋ノ糧秣ヲ此地へ取ルコト金子支庫長ヨリ提理部へ掛合ヒシニ、未ダ守備軍ニテ決定セズトノ返アリシ由○急ギ營口へ輸送セラル、様御配慮アリタシ。

同十二日 辻村經理部長ヨリ電報午後七時五分 牛家屯受
 初日以來新民屯へ送り出シタル糧秣ノ數量早ク知リタシ○遼陽ヨリ北ハ沙河迄鐵道通シ、日々六個師團分ツツ第一、第二、第四軍ニテ送リアリ。猶一個師團分ハ増加シ得ル見込ミトノ事○俘虜三萬五千五百敵ノ死傷約九萬。

同十二日 關外輸送開始ノ爲メ圓銀ノ必要ヲ生ジ、曩ニ遼東守備軍經理部長へ右交換方請求シ置キタルニ左ノ返報アリ午後八時 牛家屯受
 圓銀ノ件承知ス、今泉主計正へ話し明日此地ヲ出發セシム。着ク迄ノ爲メ貴

地金庫へ五萬圓丈ケ取敢へズ融通方頼ミ置ケリ。成否不明ナルモ貴官ヨリモ交渉セラレテハ如何。

三月十二日 柴遼東守備軍參謀ヨリ電報午後八時二分 家屯發

大石橋ヨリ糧秣輸送ノ件提理部ト交渉稍面倒ナリシモ兎ニ角送ル事トナリタリ。就テハ特別ノ事故貴官ノ名ヲ以テ鐵道提理部へ輸送ノ請求アリタシ。

同十二日 在營口金子支庫長ヨリ電話午後八時四分 營口支庫受

- 一 圓銀交換ノ件ハ經理部長ヨリ未ダ回電ナキモ、銀行ノ中村ヨリ下官へ聞合セアリタル故、至急入用ニ付是非綜合セ吳レト要求セシニ、五萬圓丈ケ要求ニ應ジ、明日ニモ支拂ヒ得ルトノ事ナリ。
- 二 坂本主計ニ計手ニ、庫手三ヲ附シテ變裝セシメ、西稅關ニ派遣セリ。
- 三 蓋平ヨリ馬車百餘輛來レリ。荷物ハ大麥ト麵麩ナル趣ナレドモ、數量ハ例ニ因テ不明ナリ。取調ベテ報告セシム。

同十二日 大連本倉庫ヨリ圓銀拾萬圓送付經理部ト交渉濟ミ明日四時四十分發ニテ發送ス右護衛トシテ士官一、兵卒三名ヲ附ストノ電報アリ午後八時四分 家屯發

三月十三日 辻村經理部長へ電報午前一時三十分 家屯發

發送精米千四十九石、麥千二百九十五石、梅干一萬四百八十五貫〇此外ニ積込ミ終リテ西營口停車場ニアルモノ米五百三十三石、臺灣白米千五百八石、麥百二十三石、エキス三百八十一貫、粉味噌四百二十五貫、鹽干魚五千貫、今朝(十三日)發送ノ筈。

同十三日 辻村經理部長へ電報午前三時 家屯發

營口ニ在ルモノヨリ左ノ報アリ〇我軍ニテ關外鐵道ヲ占領スルナラントノ風評ヲ誤信シ、右停車場ニアリシ機關車ヲ先刻皆溝帮子ニ引上ゲタリ〇本件ニ關シテハ是ヨリ先キ與倉中佐ヨリモ内報アリ〇十二日朝立チシ三井ノ藤瀬ハ十三日晚ニハ天津ニ着シ、鐵道總辦ニ會見スルナラン。サスレバ此故障

モ一兩日ニテ止ムベシト察セラルル〇「ブツシユ」ノ「マグリユー」モ機關車ノ引上
グト共ニ天津ニ出發セリト聞ク。是亦藤瀬ト聯合シテ運動スル筈〇兎角支
那人ハ風聲鶴唳ニ動搖シ易キ風アリ。意トスルニ足ラズ。

三月十三日 遼陽前田支庫長ヨリ電報午後一時
牛家屯受

今日以後十數日間日々四千三百人ノ俘虜ヲ後送セラルル〇俘虜ハ昨日調ヲ以
テ四萬人ナリト云フ〇俘虜ニハ一日分ノ麵麩ト牛糞ヲ遼陽兵站部ニテ渡ス
筈ニテ當支庫ヨリ交付シツ、アリ。

同十三日 關外鐵道輸送途中監視ノ爲メ三等主計米田寛ヲ溝帮子ニ派遣セ
リ。

同十三日 在營口搗精所坂本主計ヨリ左ノ報告アリ。

一 昨夜迄糧秣ヲ運搬セシ營口停車場ト西稅關ヲ見通シタル線上ノ氷床ハ
殆ンド解氷シ、四、五ノ「ジャンク」通ヒアリ。但、氷塊ガ流ル、ニハ至ラズ。

二 上流即チ日英ホテル前ニハ一條ノ水道アリテ通行シ得ベシト云フ(但、糧

秣ヲ渡シ得ベキヤ否ヤハ確カメタルニアラザルガ如シ)

三 牛家屯附近ニハ全ク通路ナシ。

同十三日 在小北河大江兵站經理部長ヘ電報午後一時
牛家屯發

日本軍ハ關外鐵道ヲ占領スベシト誤解シ、昨夜ニ至リ營口ニ在ル機關車及貨
車共殘ラズ持去リ、本日ヨリ營口新民屯間ノ運轉中止トナル。

三月十四日 大連本倉庫ヨリ電報午前二時三十分
營口搗精所受

毎田柳樹屯支庫長ヨリ左ノ電〇露探ノ支那人三名當地ニ於テ逮捕セラル。
其ノ自白ニ依レバ倉庫ニ害ヲ加フル目的ナルガ如シ。又外ニ七名ハ所在不
明ナリト憲兵ヨリ通知アリ。

右ニ付、營口支庫長ニハ電話ニテ、遼陽支庫長ヘハ電報ニテ警戒上一層注意セシ
メタリ。

同十四日 辻村經理部長ヨリ電報午前三時十分
營口搗精所受

銀貨拾萬圓本日(十三日)發送セリ。正金銀行ヨリ五萬圓融通受ケタラバ右拾

萬圓ノ内ヨリ入戻サレタシ。

右圓銀護送ヲ兼ネ大連本倉庫ヨリ三等主計辻晃俊及雇員一同日午後三時本職ノ許へ來着セリ。

三月十四日 辻村經理部長へ電報午前八時四十分 營口稿精所發

關外鐵道營口停車場ト營口西稅關トノ見通シノ線(昨朝八時頃迄結氷シ橋ニテ渡リシ處今朝ハ全ク解氷シ、猶上流千米突迄モ同様トス。但未ダ流水ノ時期ニ至ラズ)三井ノ藤瀬ハ昨日午後四時ニハ天津ニ着セシ筈ナルモ未ダ何等ノ通報ニ接セズ。昨日、瀨川領事ヨリハ事情ヲ盡シテ天津伊集院總領事ト内田公使へ電報セラレタリ。同官ノ見込ミデハ多分今晚カ明日迄ニハ汽車ヲ此地へ廻ス運ビニ至ルナラント。

同十四日 在溝帮子「マグリュ」ヨリ電報十三日午前十時溝帮子發 十四日午前十時營口稿精所受

新民屯汽車引上ダタ。荷物一萬二千此處ニアル。馬車集メツ、アル。途中危險保護出來スカ。如何ニ處置スルヤ。取調べタルニハ天津「リアン」ニ賄ヒ

セバ汽車自由ニナルトノ事。天津ニ行き懸合ヒスベキヤ。若シ行クナラバ金、電信都合頼ム。返電此處。驛長宛急グ。

右ニ對スル返電ハ「ブツシユ」ヲシテ爲サシムルニ如カズ。是レ倉庫長ノ名前ハ此方面ノ者ニ著シク知ラレアルヲ以テナリ。乃チ「ブツシユ」ノ代理人(英人某)ニ示シテ左ノ意味ノ電報ヲ急ギ「マグリュ」ニ宛テ發セシム。于時正午。

荷物ハ溝帮子ニ留メ置ケ支那馬車ヲ備フテ送ルコトハ止メヨ。

同十四日 新民屯藤田主計ヨリ電報

其一 十二日午後三時新民屯發 十四日午前十一時營口稿精所受

後備歩兵第十五旅團ト騎兵一個中隊當地ニ來ル筈。然ルトキハ此處ニテ事實給養ヲ爲サネバナラス。取敢ヘズ左様取計フ筈。

其二 十二日午後五時新民屯發 十四日午前十一時營口稿精所受

今日ノ現在米十日、麥二日、前田支庫長へハ當分移電ヲ乞フ。

其三 十二日午後二時三十分新民屯發 十四日午前十一時三十分營口稿精所受

昨日送ラレタル米到着シタ。今日米四千五百着ク。九百七十一送レリ。遼河モ解ケ初メタ。○連絡線偵察ノ爲メ明日行ク。○新民屯ト馬廠ニ輕便鐵道ヲ敷キタキ考ヘ。○臺車ハ牛家屯ニアル由。軌道ヲ取寄スルコト出來レバ便ナリ。○之モ明日偵察ス。○物價ハ廉イ。白菜十斤六錢、二十斤拾錢ナリ。現狀ヲ維持シタキ考。

其四 十四日午前十一時三十分新民屯發 溝橋所受

汽車不通ノ爲メニ山崎雇員モ溝幫子ニ止リ居ルモノ、如シ。馬廠附近ノ遼河水融ケ始メタリ。作業ノ爲メ工兵モ當地ニ着シアリ。米麥ハ旅團ノ七日分ヲ殘シ、前途シ了レリ。新タノ分ハ毎日出ス等。前途ハ安シ。

三月十四日 在溝幫子山崎雇員ヨリ電報十四日午後一時溝幫子發 溝橋所受

連絡ヲ取ル爲メ昨日新民屯ヲ立テ今着ク。「マグリユー」ニ面會シタ。汽車引上ノ爲メ馬ニテ行ク。

同十四日 與倉營口軍政官ヨリ通牒。

天津坂西少佐ヨリ軍政官へ來電午前十一時頃着

鐵道ノ運轉中止ハ總督ニ於テモ之ヲ爲スニ忍ビザルモ營口新民屯ヨリノ報告ニ依レバ日本軍ノ行動如何ニモ軍事的ニシテ清國ノ中立體面ヲ保ツニ困難ニ至レルヲ以テ止ムコトヲ得ズ日本若シ鐵道ニ對シ軍事上握リ取ラントスルガ如キ事アラバ一時運轉ヲ停止セシムベシト云ヘルナリ。總督トテモ隨分困難ナル位置ニアル故當地ニテハ仙波司令官、伊集院總領事ヨリ總督ヘ鐵道ニ對シ軍事行動ヲ取ラザルコトヲ保證スル手紙ヲ送り直ニ運轉ヲ開始セシムル筈。此總督ノ立場ノ困難ナルコトヲ福島少將、神尾守備軍參謀長ヘ移電サレタシ。然ラザレバ大誤解ヲ來タス恐レアリ。又新民屯ノ守備隊ヲシテ鐵道事業ニ干涉スルコトナク間接ニ監視スル丈ニ止ムル様示サレタシト意見申出デラレタシ。サスレバ軍隊需要品ヲ商品ト見做シテ輸送スルコトハ其數量多額ナルモ圓滿ニ行ハルベシ。

三月十四日 遼東守備軍司令官ヨリ電報午後一時三十分營口稿精所受

奉天支庫ノ要員ハ目下準備中ナルモ、押收糧秣其他ノ整理トシテ取敢ヘズ倉庫員以下同地ニ派遣シ、直接ニ總司令部下ト協議ノ上、同事務ニ従事セシムベシ
○右派遣員及時日決定セバ報告スベシ。

右ニ付、遼陽前田支庫長ヘ電報午後三時三十分營口稿精所發

奉天支庫ノ要員ハ目下準備中ナルモ、押收糧秣其他ノ整理トシテ取敢ヘズ倉庫員以下若干同地ニ派遣シ、直接總司令部下ト協議ノ上、同事務ニ従事セシムベシト、遼東守備軍司令官ヨリ達セラル○貴官ハ必要ナル支庫員及輸卒隊ヲ率キテ、速カニ奉天ニ至リ、倉庫業務ヲ開始スベシ○右派遣ノ士官以上人名下士以下ノ人員ト出發時日電報セヨ。

同十四日 遼陽前田支庫長ヘ電報午後七時三十分營口稿精所發

營口ノ林通譯、大連ノ曾谷雇員ヲ當分奉天支庫附ニスル筈○奉天新民間ノ輕便鐵道ヲ願慮シ、倉塚工學士ト土木技手雇員二、工夫三ニ機械ヲ持タセテ奉天

ニ遣ル積リ○一時不通ニナリ居ル關外鐵道モ一兩日中ニハ必ず恢復ノ見込

米田主計ハ溝帮子ニ藤田ハ新民屯ニ在リ○遼河ハ日々解氷シツ、アルモ、船ヲ入ル、ハ二十日以後ニナルナラン○今泉ハ去四日、三等主計正ニ昇進セリ。右倉塚工學士以下ハ十六日大連出發、奉天ニ向ヘリ。

同十四日 在天津藤瀬ヨリ電報午後十一時三十分營口稿精所受

當局者ハ日本軍ノ該鐵道線路ヲ占領セズトノ日本領事及駐屯軍司令官ノ證明ヲ請求ス。併シ之レハ本國政府ト交渉ヲ要ス。此際鐵道係官ハ如何トモスル道ナカルベシ。支那政府當局者ハ決行ヲ躊躇シツ、アル様子故、小生日本公使ニ面談ノ爲メ北京ニ向ケ出發セリ。

右電報ハ即時辻村經理部長ヘ移電セリ。

同十四日 大連本倉庫ヨリ電報午後十一時五分營口稿精所受

今日、提理部ノ星野少佐ヨリ今度ノ鹵獲品ニハ馬糧ガ多クアルカラ、之ヲ給養ニ當テラレタラ、貨車ヲ減ジテモ善カラウトノコト故、マダソナナ譯ニハユカ

又貨車ヲ減シテ差支ナキ時ニ至ラバ更ニ協議スル其レ迄ハ成ル丈ケ多ク出サレタシト答ヘ置キタリ。

三月十四日 在奉天橋元主計ヨリ電報午後十一時五分營口橋精所受

渾河鐵橋約七十米突全ク破壞セラレアリ。修繕ニハ一ヶ月ヲ要スルナラン。

沙河蘇家屯間ニモ鐵道約一哩ノ破損アリ。修繕ニ十日位ヲ要スルナラン。

右ノ情況故蘇家屯ニ一時糧秣ヲ集積スル方善カラシム○奉天ニ於ケル倉庫ノ位置ヲ選定シタル上直ニ蘇家屯ニ出發ノ豫定。

同十四日 遼陽前田支庫長ヨリ電報午後十一時三十分營口橋精所受

電見タ○橋元(一等主計)中村(二等主計)池上(輸卒隊長)中尉明日奉天ニ着ク豫定

○下官ハ準備整ヒ次第立ツ○總司令部ハ明日同地ニ向ケ立ツ筈○池上ノ報告ニ依レバ鐵橋ハ二橋節間大破壞一橋節間小破壞。但、橋脚ハ無事、修理二十

日ヲ要スルナラシム。又橋元ノ報告ニ依レバ(前項ニ同シ)○岡野少佐ヨリ聞クトコロニ依レバ鐵橋ハ四月中頃迄カ、ルベシト。又奉天停車場ハ規模小

ニシテ汽車直通ノ見込ミナシ。一旦遼陽ニ於テ中繼ギシ、更ニ遼陽、奉天間ヲ運行セシムル外ナカラシム。

右ニ付遼陽前田支庫長ヘ電報午後十一時四十分營口橋精所發

奉天倉庫ノ位置ハ渾河橋梁破壞セラレアル爲メ一時河ノ手前ニ置ク方便利ナル如クナルモ後ノ事ヲ考フルトキハ矢張り奉天ニ選ム方利益ナラン。

同十四日 辻村經理部長ヨリ電報午後九時五十分營口橋精所受

先日電報セシ臺灣米ノ件及八月以降所要糧秣ハ新陳交換ノ爲メ凡テ大連ヘ向ケ追送ス、倉庫ノ準備上支障ノ有無トヲ經理長官ヨリ問合セノ事、返事催促シ來レリ。至急意見ヲ待ツ。

三月十五日 大連ニ於ケル滿倉ホーム延長工事ノ件ニ付、本倉庫ヨリ電報アリ。依テ左ノ如ク返電セリ午前一時二十分營口橋精所發

滿倉ホーム延長ノ事ハ武内中佐ヨリ相談アリシ故倉庫ニテ計畫スル考ナリ。○此件ハ石井建築部長ト協議シテ建設スルコトニスベシ。

三月十五日 新民屯藤田主計ヨリ電報正午營口
搗精所受

米千百三十個、麥三百四十四個在リ。旅團六日分〇明日ヨリ旅團ニ日糧ヲ分配ス。早ク追送ヲ望ム。

同十五日 在奉天橋元主計ヨリ電報午後三時營口搗精所受

奉天附近ニ於ケル鹵獲糧秣(重ニ馬糧)被服、雜品頗ル多數目下第二軍ニテ整理中〇停車場附近ニハ倉庫ニ充ツベキ家屋一モナシ。奉天城内ニハ元露軍ニテ被服ヲ格納セル倉庫十四許アリ。

同十五日 在北京藤瀬ヨリ電報午後八時三十分營口搗精所受

十三日ト昨日電報セシ通り今盡力中。二、三日ノ内開通ノ見込、極リ次第歸ル。午後天津ニ往ク。

右電報ハ即刻辻村經理部長へ移電セリ。

同十五日 午後八時新民屯藤田主計ヨリ派遣セル雇員山崎源逸營口搗精所ニ來リ報告スル所左ノ如シ。

同雇員ハ去十二日午後一時新民屯ヲ發シ、同日午後八時溝帮子ニ着シ、同地一泊、翌十三日午前十一時「マグリュウ」ニ面會シ、始メテ汽車不通ノ事ヲ知リ、夫レヨリ「マグリュウ」ト共ニ同驛員(外國人)ノ間ニ奔走シテ事情ヲ探リ、又輸送ノ方法ヲ講ゼシモ得ル處ナカリシト。
十四日午前十時溝帮子ヨリ馬車ニテ午後八時双臺子ニ着シ、土人ノ家ニ宿泊セリ。

本日午前四時又馬車ニテ出發シ、双臺子ヨリ東南約三里ノ處ニ於テ米田主計ニ邂逅シ、午後二時頃田庄臺ヲ經テ遼河ヲ渡リ、二里許徒步シ、夫ヨリ騎馬ニテ午後七時三十分營口支庫ニ到着セリ。

同雇員ノ齎ラシタル藤田主計ノ報告左ノ如シ。

其一 三月十一日午後六時新民屯ニ於テ

一 關外鐵道ニ就テ

該鐵道ハ頗ル不規則ニテ發車時間ノ如キ當テニナラズ溝帮子ニアル澤山

ノ貨物中ニハ所有者ノ曖昧ナルモノアルガ如シ。

驛長黃ハ廣東人ニシテ能ク英語ヲ語ル我が命ニハ唯々諾々タリ。

二 新民屯ノ物資ニ就テ

此附近ニハ糧秣品(高粱、秣、肉類)トナスベキモノ多シ是レ此地ノ平時ニ於ケル狀況ナリト雖戰爭ノ結果自然多ク收集セラレタルモノアルナラン概言セバ停車場ヲ始メ新民屯ハ糧秣品ヲ以テ充滿セラレ居ルト云フヲ得ベシ以上ノ糧秣品中ニ或ハ露ノ官憲ニ屬スルモノアラン迅速ニ取調ベル必要アラン。

三 關外鐵道ト遼河ノ連絡及其運搬具ニ就テ

此連絡ハ距離ノ近キ(約我二里半)ト一直線ニ道路ノ識別容易ナルトニヨリ困難ナラザルモ運搬具ハ第三軍ガ新民屯ニ於テ徵發シ遼河左岸ニ送ルヲ以テ拂底ナリ去レドモ我が用ヲ缺クガ如キコトハナカルベシ(此件未ダ確カナラズ更ニ調査ノ上確報ス)

本日馬車四十輛(大小共)ニテ米ヲ送ルニ差支ナカリシ。

遼河解氷後ノ交通法ニ就テモ自ラ一度偵察スル考ナリ。

四 小官ハ差當リ同仁機ヲ以テ事務所トシ藤田組ノ商號ニテ營業ス御引立ヲ願フ。

五 糧秣ノ卸下場

直接監視トシテハ軍役夫ト苦力ヲ附シ間接監視トシテハ停車場衛兵ノ掩護ヲ受クルコトニ取計ヒタリ。

六 昨日發ノ米ハ本日午後五時ヨリ着手ス馬廠末永兵站司令部ニ追送ス途中ハ安全ナルベキモ夜間ニ至ルヲ以テ萬一ヲ顧慮シ掩護兵ヲ附セリ。

七 本日早朝中山計手ヲ馬車ニテ馬廠ニ派遣シ連絡ヲ取ラシムルト同時ニ倉庫ノ組織及業務上ニ就テ打合セヲナサシメタリ同地兵站司令部ハ一半臺ニ開設セラレ支部ハ敬安堡遼河右岸ノ小部落ニアリ。

八 各部隊トノ連絡

馬隊長ト連絡シ又第三軍ノ船津主計ト連絡ス同主計ノ任務ハ此地ニ於テ馬車及生物ヲ徵集スルニ在リト。

馬隊長橋口中佐ノ言ニ當地知府ノ曰ク日本軍ハ近々ノ内糧臺ヲ此地ニ置カル、由ナルモ中立ノ關係上大ニ迷惑スルノミナラズ遼河解氷セバ交通困難ナラン依テ成ルベク遼河左岸ニ糧秣ヲ移シ置カル、ガ可ナラント半バ注意的ニ半バ敬遠的ノ言アリシト。

九 新民屯ノ掩護

左側面ノ薄弱ナルヲ遺憾トス。

十 新民屯ト營口、新民屯ト遼陽ノ通信ニ就テ

目下野戰及兵站電信局ニヨリ通信セントスレバ沙河子カ菜不街(大民屯ノ東)ニ行カザルベカラズ故ニ關外鐵道電信線ニ依ル方迅速ナラント思フ又貴官ニ宛テタル電報ハ到着ノ確實ナランコトヲ期シテ營口軍政署宛トス。

十一 狡猾奴ノ防遏手段

電報ニテ申上ゲタル通り日本無賴商人ノ當地ニ入ルモノ日々百ヲ以テ數フベシ此等ハ我が業務ヲ妨グルノミナラズ虎ノ威ヲ籍ル狐ノ輩トテ中立地ニ於ケル渠等ノ專横ナル行動ハ或ハ爲メニ中立地ノ利用ヲ全ク廢スルニ至ルコトナシトセズ故ニ内々の軍政署ヲ設クルノ必要アリ此事ハ貴官ノ御盡力ヲ以テ其筋ヨリ適當ナル處置アラシコトヲ切望ス。

當地ハ大連、營口ト異リドシドシ天津、山海關方面ヨリ何ゾモ持テ來リ誰ニ遠慮モナキヲ以テ若シ一步ヲ過ルトキハ遼河右岸ニ醜業ノ設備ヲ見ルニ至ルヤモ知ルベカラズ寒心スベキコトナリ。

報告其二

連絡ト他ノ用途ヲ兼ネ山崎雇員ヲ貴地ニ派遣ス就テハ左ノ諸件御聽許ヲ乞フ。

- 一 山崎雇員ニ若干ノ前渡金ヲ與ヘ物品ヲ調辨セシメラレタキコト。
- 二 電報料仕拂ニ要スル墨銀參百圓許渡サレタキコト。

三 營口支庫ニアル輸卒ニ、雇川掛次郎ヲ變裝セシメテ此地ニ遣サレタキコト。
一行各官必死ノ盡方ニハ謝スルトコロナリ。

山崎雇員ニ傳ヘタル口頭報告

- 一 大體市街ヲ觀察シタルトコロ主人半信半疑ノ狀態ナルコト。
 - 二 軍用手票ハ若干流通ヲ始メ居ルコト。
 - 三 電報料、汽車賃等ニハ「メキシコ」銀貨ヲ要スルコト。
 - 四 物品ハ新民屯ニ輻湊シ居ルコト。
 - 五 運搬業者ノ割合ニ多キコト。
 - 六 旅館ノ頗ル多キコト。
 - 七 曖昧ナル外國人ノ多キコト。
- 以上ハ具一見シタルトコロノ有様ナリ。

自營口停車場五十六哩餘 至新民屯停車場九十哩餘

三月十五日 營口軍政署濱村中尉ヨリ電話口傳精所受

今手紙が見エヌガ天津總領事ヨリ當地領事へ來タ手紙ノ要領ハ左ノ二點ヲアツタト思フ。

- 一 ドコ迄モ私人ノ商品トシテ輸送スルコト。
 - 二 停車場邊ノ鐵道吏員ニ此方ノ内情ヲ知ラサヌ様ニスルコト。
- 右ニケ條ヲ當事者ニ能ク通告シ置カレタキ希望ヲ有スト。

右ニ付直ニ電請ヲ以テ三井ト「ブツシユ」ニ其旨通告セリ。

同十五日 新民屯藤田主計ヨリ特使ノ齋ラセル報告左ノ如シ。

報告時於新民屯

- 一 汽車不通ニ付溝帮子ヨリ馬車エテ陸運ヲ始メタル由真否ヲ確ムル爲メ「ブツシユ」ノ金子氏行ク筈又一方ニハ「マグリユ」山崎ニ電報エテ問合セ中。
- 二 當地ノ電信ニハ停車場電信、中國電信ノ二種アリ前者ハ安價（一語五錢）ナルモ大ニ輻湊スル爲メ遅クナル併シ我通信技手ノ監督ニ在リ後者ハ高價ニシテ（一語貳拾五錢乃至五拾錢）未ダ全ク信用ヲ置キ難シ要スルニ停車場

其他清國有司ハ全ク露ニ買收セラレ居ルモノ、如シ。

電信ノ遲着甚シキニハ殆ンド閉口關外電信ハ勿論兵站ノ電信モ未ダ開通シ居ラズ。

三 後備第十五旅團ニハ一半臺ニアル末永兵站司令部ヨリ補給ヲ受クベキ命令ナルモ昨日末永司令官ト協議ノ結果倉庫ヨリ渡スコト、ナゼリ。

四 遼河ト鐵道ノ連絡及其運搬具ニ就テ。

此連絡ハ輕便鐵道ニヨルヲ以テ便利ナリトス工事モ簡易ナリ(長サ約十哩ニシテ中間三條ノ細流アリ最モ廣キモノ三十米突)

該地方ニ於ケル馬車ハ日々約四個師團分ノ輸送ニ差支ナキモ運搬賃約左ノ如シ(新民屯、一半臺間)

一車米二十呎 八圓貳拾錢 (一呎四拾壹錢)

但、右ハ十一日午後八時以後ナリシニヨル翌日ヨリ米二十呎參拾錢ト規定セリ。

小官取調ノ結果、ブツシユ「ガ支那人ニ拂ヒ居ルトコロハ一呎貳拾錢ナルコト明瞭ナルヲ以テ若干ノ直下ゲニ着手セントセルモ第三軍末永兵站司令部ノ狀況ヲ見ルトキハ強チ然ル能ハザルモノアリ同部ハ一半臺、沙河子間ニ拾壹圓(一呎五拾五錢)一半臺、新民屯間ニ拾圓(一呎五拾錢)ト規定シ一車ニ米二十呎積ナリ。

馬車ノ供給ハ「ブツシユ」ノミニテ十分ナラザル故爾後約半數ハ三井ニ供給セシメントス御承認アリタシ。

五 輕便鐵道ノ架設ニ就テ。

イ 軌道ヲ購入シ若シクハ柳樹屯、牛家屯ノ一部ヲ撤去シテ臺車二百五十ト共ニ送ラレタシ。

ロ 牛家屯ニアル橋ヲ安價ニ買上ゲ之ヲ以テ急造臺車ヲ造ラレタキコト。是レハ金子氏ノ意見ナリ「ブツシユ」モ其計畫アルモノ、如シ。

ハ 關外鐵道ハ早晚奉天ト新民屯ヲ連絡スルノ必要アリ。

六 一半臺附近ノ遠河解氷ヲ待テ工兵隊ニテ架橋セラル、管工兵ハ既ニ到着シ在リ。

一半臺ト新民屯間ノ道路ハ沙質粘土ニシテ車輪ノ轉滑ヲ妨グ目下約一里ノ間ハ運行困難ナリ雨期ニ至ラバ一層甚シカラシ是レ輕便鐵道ノ敷設ヲ要スル一原因ナリ。

七 仙波閣下微行セラレアル由大ニ搜索セルモ本日ハ遂ニ遇ハズ福島閣下モ不日來ラル、由。

八 未ダ概要ノミ、偵察ナルモ物資ノ豊富ナル實ニ大々的ニシテ驚ク許ナリ若シ現地調辨ヲ以テ給養ヲナサントスルトキハ遠ク白河沿岸ノ地方ヨリ多數ノ物資ヲ集メ得ルナラン御參考ノ爲メ現在高及物價表ヲ呈ス(現在高物價表略ス)但、未ダ盡サザル所アリ後ヨリ補フ等。

白菜ノ價先電ト異リ居ルモ本來ノ市價ハ電報ノ如クナラン本日試験ノ爲メ白菜二百斤ヲ「云」ヒ値「ユ」テ買ヒタルニ百斤壹圓八拾錢ニテ喜ンデ賣レリ

此點ヨリ推測スレバ百斤壹圓五拾錢位ニテ購フコトハ容易ナリ品質ハ遼陽、營口ニ比シ新ラシクシテ上等ナリ。

本日當地ニテ物價平均說ヲ持出シタレドモ是等ノコトハ餘リ腦裏ニ入ラザル如シ安全ナル守備地ニ來リ此等ノ事ニ留意セズバ將ダ何ヲカナヌベキ。

九 軍用手票ハ矢張り二割乃至三割引キナリ、ノミナラズ停車場ニテ切符ヲ買ヒ電信料ヲ仕拂ハントスルニ一切之ヲ拒絕セラル、ハ遺憾甚ダシ。

十 後備第十五旅團到着ス。
伊藤中隊ハ停車場及我が倉庫守備ニ專任セラル同大尉ノ配慮ニヨリ傳令使トシテ歩兵二名ヲ派遣セラレタリ右變裝服(古品支那服)購入ス御承認ヲ乞フ。

十一 一行現在員左ノ如シ。
將校一、下士一、通譯一、技手一、兵二、軍夫五、支那給仕一、計十二名

以上ノ人員ニテ炊事ヲ設クルコトハ不得策ナルト糧ハ敵ニヨルトノ原則ニ從ヒ同仁棧ニテ宿舍給養ヲナスコト、セリ其費用ハ食料家賃ヲ合セテ一人一日九拾錢ナリ御許可ヲ乞フ。

十二 乘馬二頭ノ必要アリ一頭ハ今明日中ニ借入ル筈

十三 當地ノ情況時々通報スル様前田支庫長ヨリモ依託セラレアルモ到底多忙ニシテ貴官ニ呈スル報告同様ノモノニ通調製スルニ違アラズ(報告ニハ秘密ヲ要スル件多々アルヲ以テ自ラ筆記セザルベカラズ)故ニ必要ト認めラル、件ハ貴官ヨリ前田支庫長へ御通報ヲ願フ今少シク整頓スレバ直接通報ス。

三月十五日 曩ニ遼東守備軍參謀長ヨリ示サレタル水路輸送案ニ就テ柴參謀へ左ノ如ク電報ス午後七時五分 營口稿稿所發

水路輸送案ニ對シテハ大體ニ於テ最早異論ナシ。改正ヲ要スル件若干ヲ記シ、明後十七日晝過ぎ貴官ノ許ニ届ク如ク特別便ニテ送ル○營口ハ西税關ヨ

リ上約千米突迄解氷セリ。解氷セシ部分ハ朝夕更ニ薄氷張レリ○流水ハ見エズ、サレド其上流ハ處々小池ノ如キモノ顯ハレアリ○河ニ船ノ入ルハ二十日以後ナルベシ○「ジャンク」ノ水路輸送ハ月末ナラデハ始マラヌデアラウト土人ノ間ニ噂セラル。

同十五日 午後七時、大連本倉庫ヨリ大石橋、營口間ニ使用セシ貨車ノ件ニ付提理部ヨリ照會アリタリトテ電報アリ。

依テ左ノ如ク返電ス午後七時五分 營口稿稿所發

大石橋ヨリハ最早營口へ送ルベキ米ナシ。其貨車ヲ大連ニ使用シ得ル様提理部へ交渉アレ。

右ニ對シテ左ノ返電アリ夜零時三十分受

提理部へ交渉セシモ大連へ此上貨車ヲ増スコト出來ヌ○傷者輸送ノ關係上營口、大石橋ヨリ遼陽へ空車ヲ送ル場合モアル故成ルベク糧秣其他ノモノヲ積マレタシト云フ。

三月十五日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後七時十五分口橋精所受

十四日關外ノ狀況馬廩ニ米四分、麥一分、副食物二分、薪炭八分、敬安堡以東ニ送
レルモノ米六日二分、麥七分、漬物二十八日九分。

同十五日 遼陽前田支庫長ヨリ電報午後七時三十分家屯受

奉天支庫ノ要員ハ準備時期ト鐵道開通後トノ二期ニ分チ出發セシムル豫定
○一期ハ中村二等主計、松野三等主計、遊佐二等獸醫、木口三等藥劑官、下士五、庫
手五ト第二輸卒隊一(隊長堤彦一)第二期ハ坂本三等主計、岡三等主計ト其他増
加員ト第一輸卒隊○下官ハ明日沙河ニ至リ、十七日奉天ニ入ル豫定。

次デ又左ノ電報アリ午後十時受

去ル十二日橋元主計、中村主計、池上中尉ト早田計手、鶴山軍曹、備通譯越智高吉
外ニ從卒二名ヲ奉天へ先發セシメタリ。

右ニ對シ左ノ如ク電命ス午後十一時十分家屯發

其筋ヘノ報告差迫リタリ。故ニ左ノ通り決定ス。實行スベシ。第一期人員

ハ明日貴官ト共ニ出發スベシ。

同時ニ遼東守備軍司令官ヘ電報午後十一時三十分家屯發

奉天倉庫業務開始ノ爲メ差向キ人員ヲ綜合セ支庫長前田主計正ト主計五、藥
劑官一、獸醫一、下士以下三十名及第九師團第一、第二輸卒隊ヲ派遣スル筈○右
ノ内主計一、下士以下五ハ奉天へ公務派遣者ヲ其儘先發者ニ應用シ、支庫長以
下ハ明日出發沙河ニ泊リ、十七日奉天ニ着シ、倉庫業務開始ノ筈○右ノ内主計
二ト第一輸卒隊トハ出發期日未定ナリ。右報告ス。

同夜午前二時前田支庫長ヘ電報。

守備軍司令官ヘ左ノ如ク報告セリ○前項ニ同ジ○大連ヨリ高橋一等主計、倉
塚工學士、土木雇員二、工夫三(此六名ハ輕便鐵道調査ノ爲メ)山崎雇員(建築専門)
庫手五ヲ營口ヨリ林通譯(露語通譯送ル筈)○貴地ヨリ看護長一、從卒、馬卒四ヲ
連レ行ケ○其他必要ノモノハ臨時ニ連レ行キテ報告セヨ○遼陽ハ橋元ニ支
庫長ノ事務ヲ執ラシメヨ。

同時ニ大連本倉庫へ高橋主計ヲ奉天支倉庫附トシテ派遣スベキ旨電命セリ。
三月十五日 午後八時瀨川領事ヨリ電話ニテ左ノ通知アリ。

天津伊集院總領事ヨリ段々盡力ノ末デ汽車ハ明日ヨリ開通スルコトニナレ
ル 尙ホ種々注意スベキコトヲ申シ來レリ。御面會ノ上御話シスベシト。

右ニ使直ニ神尾守備軍參謀長辻村同經理部長へ左ノ如ク電報ス。

天津伊集院總領事ヨリ當地瀨川領事へ只今左ノ電報アリ○營口新民屯間ノ
汽車ハ明日ヨリ通ズルコト、ナル○然ルニ汽車ハ未ダ營口ニ來ラズ。多分
明日來リテ明後十七日ヨリ發車スルコトニナルナラムカトノ事。

次デ又左ノ如ク電報ス同夜零時四分
五分午家屯發

今夜機關車數輛營口停車場ニ來レリ○未ダ極マラザルモ明日(十六日)ハ溝帮
子ニ在ル糧秣ヲ新民屯ニ送ル等。

同時ニ大江第三軍兵站經理部長へモ電報。

關外鐵道ハ彌、明日(十六日)ヨリ開通トナル○新民屯ヨリ貴軍ニ補給スベキ

糧秣ハ米ト「エキス」ノ類デモヨキカ。大麥副食物等ハ必要ニアラザルカ○其
他必要ノモノアラバ電報アリタシ。

右ニ對シ返電十六日午前十
一時四十分受

種々御配慮ヲ謝ス。糧秣ハ米、割麥、大麥ヲ主トシ、若シ主食ノ割當テニ副食物
ヲ送ラレバ好都合ナリ。尙ホ加給品ノ輸送モ頼ム。

三月十六日 在溝帮子米田主計ヨリ電報十五日午後七時溝帮子發
十六日午前十一時午家屯受

今着キ「マグリュート」ニ遇フタ。荷物ハ總テ明日(十六日)送ル。

同十六日 大連本倉庫ヨリ左ノ電報アリ午後一時
分午家屯受

提理部ヨリ左ノ電話アリ。返待ツ○營口ヨリ遼陽へ送ルモノナキ由依テ明
日ヨリハ營口へ車ヲ出サズトモヨキカト。

右ニ對スル返電午後五時
午家屯發

答、營口ヨリハ今後トテモ毎日十車程ヅツハ廻ハサレタシ。支那米モアレバ
副食物ノ送ルベキモノモ少々アリト提理部へ回答アレ。

尙ホ同時ニ左ノ如ク電報ス。

七八

奉天ニハ支庫ヲ置カル、管守備軍司令官ヨリ達アリ。前田主計正ハ其設置ノ爲メ今日出發ノ筈○遼陽及奉天トモ庫手缺乏ノ如ク見受ケラル、故幾人デモヨシ。都合出來ル限リ、同方面へ差向ケラルベシ。

三月十六日 汽船第二、三光丸昨日營口砲臺下ニ入船シ坐礁セシヤノ噂アリ。今日事務員營口ニ上陸シ、荷物ヲ運ブ爲メ小舟ヲ備入中ナリト云フ。

右、午後四時四十分、辻村經理部長へ電報ス。

同十六日 三等藥劑官中野宗一郎、大連本倉庫へ着任ス。

同十六日 柳樹屯支庫附庫手山田作太郎、徵兵検査ノ爲メ内地へ歸還ヲ命ズ。

同十六日 總司令部井口少將ヨリ電報午後十時 牛家屯受

貴倉庫ノ出張所ヲ取敢ヘズ奉天停車場ニ置クコトヲ許可シタリ○各軍ニテ鹵獲セシ糧秣品及被服類ハ便宜此出張所ニ引渡スコトニセリ。又散亂セシ被服類ハ各軍ニテ收集シ能ハザルトコロ又ハ打捨テアル地點ニ出張所ヨリ

人員ヲ出シ蒐集セシムルコトアル旨各軍ニ通知シ置キタリ。

右電報ヲ前田支庫長へ移電スルト共ニ左ノ如ク電訓セリ。

右前項電文ニ對シ貴官ハ積極的主義ニ從ヒ進ミテ事ヲ執ルコトヲ望ム。人ヲ要スレバ申シ來レ。出來ル丈繰合セテ送ル。

三月十七日 在小北河第三軍大江兵站經理部長ヨリ電報午後一時三十分 牛家屯受

關外鐵道ノ輸送力ハ豫定通り日々四百噸ノ運行行ハル、ヤ。若シ増減アリトセバ其變更ノ輸送力承知シタシ。

右返電午後一時四分

答、四百噸ヅツハ送レル見込○新民屯ノ附近ニ軍用電信ヲ架ケテ當地ヨリ新民屯ノ出張所へ通信ノ出來ル様盡力頼ム。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後六時五分

新民屯へノ通信ハ沙河子迄電信、ソレヨリ一半臺迄電話接續其ノ先キハ使ヲ出シ通信スル。

七九

三月十七日 大江部長ヨリ電報午後四時五十分 家屯受

麵麩ハ前方ニ於テ用キスト通報アリ。當分前送見合ハサレタシ。

同十七日 曩ニ經理長官ヨリノ電報ニ基キ本年八月以後ノ所要トシテ大連へ揚陸セラルベキ糧秣ノ新陳交換法ニ付大連本倉庫ニ於テ調査セシメタル所左ノ如シ。

新陳交換計畫

- 一 目下米麥ハ全部倉庫内ニ格納シ副食物及加給品百三十六萬九千二百捆ノ内百十五萬九千二百捆ヲ庫内ニ格納シ其他二十一萬捆ハ野積ナリ。但目下兵器支廠ニ貸シアル四棟ヲ使用スルトセバ副食物加給品ノ全部ヲ倉庫内ニ格納スルコトヲ得。
- 二 薪炭及干草ハ全部野積トシ干草ノミハ雨覆ヲナシアリ。
- 三 本年二月一日ヨリ三月十日迄ノ前送量ハ一日平均一萬七千二百四十九捆ニシテ二月一日ヨリ三月十六日迄ノ揚陸數ハ一日平均一萬六千八百十

五捆ナリ。差引四百三十四捆ノ前送過トナル。

但、薪炭、干草ヲ含マズ。

四 大連營口間ノ輸送專屬船十隻(江陽、四國、愛知、伊吹、住吉、能登、隆盛、北辰、攝陽、賴朝)噸數六千八百十

五噸一日平均二隻弱此搭載量二萬七千捆及汽車輸送ノ分一日平均二萬捆

トセバ追送品一日平均四萬七千捆ヲ揚陸スルモ新陳交換ニ差支ナシ。

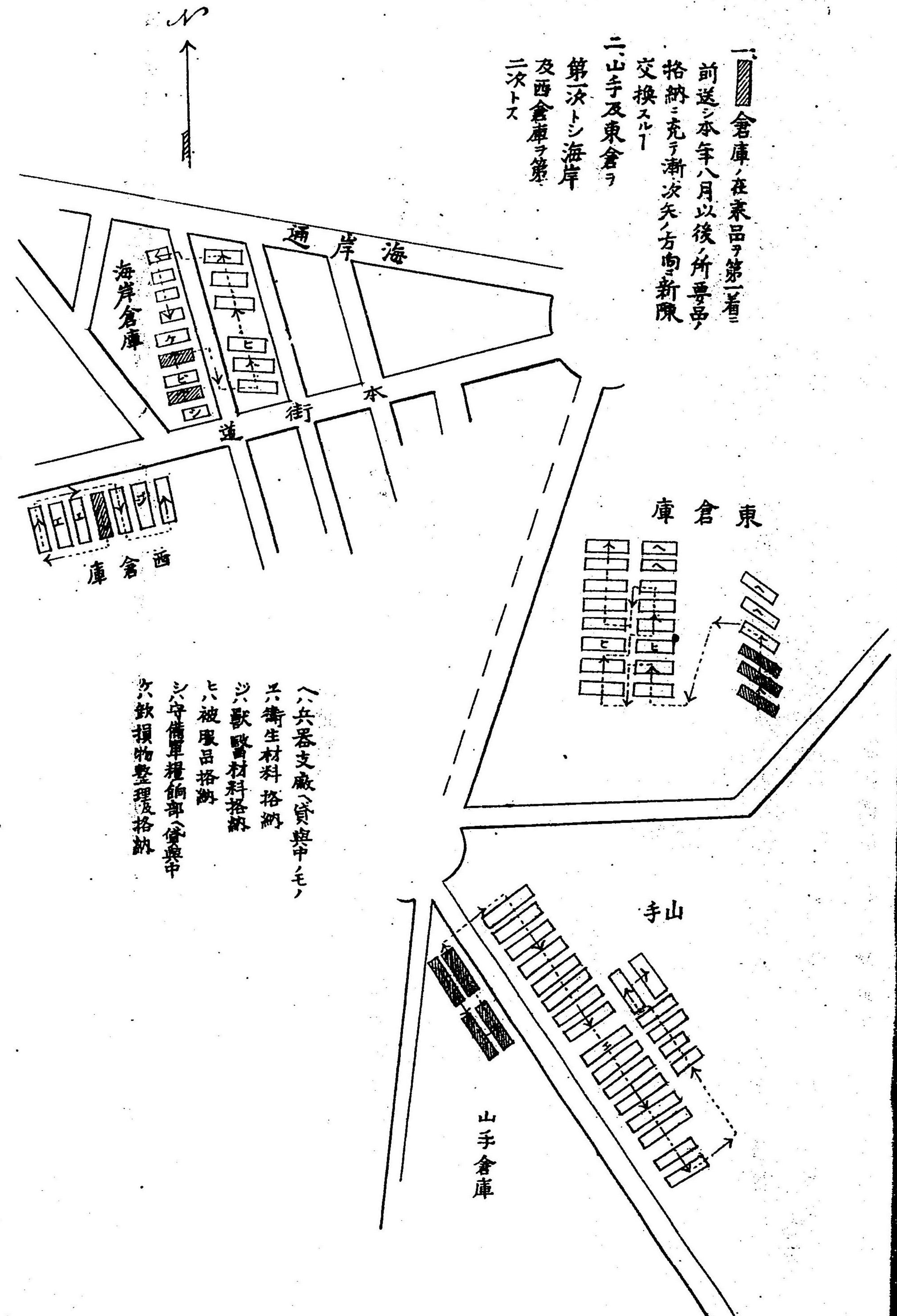
五 新陳交換ノ順序左圖ノ如シ。(参照圖)

三月十七日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後十時五十分 家屯發

經理長官へ回答意見○臺灣米ハ是迄各軍へハ未ダ補給ノ運ビニ至ラズ。此

度第三軍へ補給ヲ始メタルノミ。故ニ各軍ノ意向ハ未ダ報告スルニ由ナシ

○搗精所ハ過日主ナル釜破損ノ爲メ一時停止セシガ、只今デハ残りノ釜ヲ以テ日々百五十石許ヅツ搗精シ、又破損セシ釜ハ目下修繕中ニテ來月下旬頃ヨリ略ホ豫定ノ如ク搗精出來ル見込。臺灣米ノ搗精所ノ如ク遅々タル故ニ倉庫ニ現在セル支那白米ヲ臺灣米ニ準ジテ補給ニ充テントス。此支那米ハ調



一 倉庫、在米品ヲ第一着
 前送シ本年八月以後、所屬品
 格納ニ充テ漸次矢ノ方向新陳
 交換スル
 二 山手及東倉庫
 第次トシ海岸
 及西倉庫ヲ第
 二次トス

ハ兵器支廠(貸與中モノ)
 六衛生材料格納
 シ六獸醫材料格納
 七六被服品格納
 シ六守備軍糧餉部(貸與中)
 六飲糧物整理格納

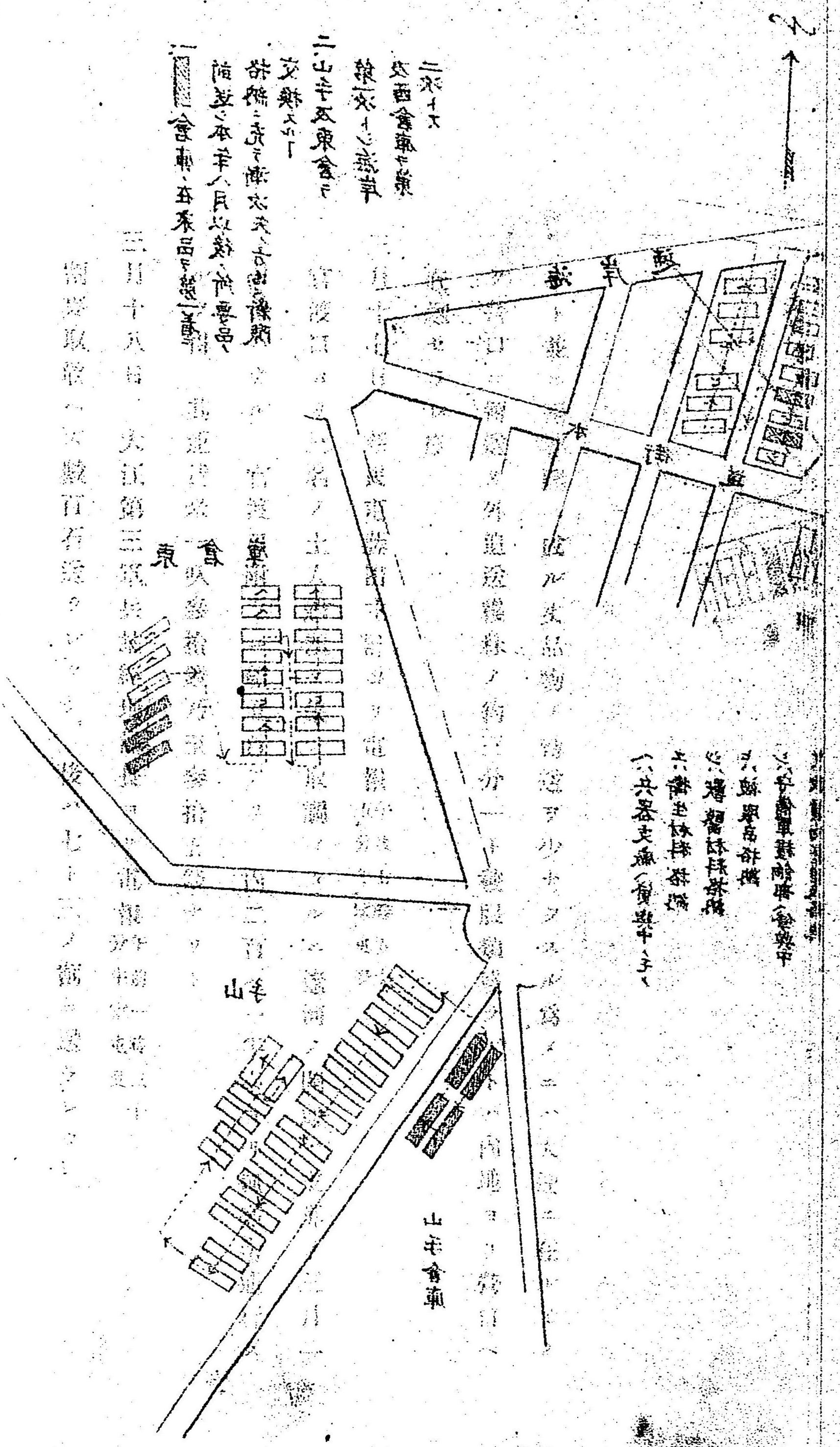
製不良ノモノ多ク且ツ支那一石入ニシテ梱包殊ニ不良ナリ。故ニ調製ヲ改
 メ且ツ梱包改装中ナリ。大連ニ在ル糧秣新陳交換ノ爲メ倉庫ノ準備差支ナ
 シ。營口川開キ後補給線ノ關係上來ルベキ雨期ニ際シ各地ノ倉庫ヲ應用ス
 ルト並ニ雨期間ニ成ル丈品物ノ轉送ヲ少ナクスル爲メニハ大連ニ在ルモノ
 ヲ營口ニ轉送ノ外追送糧秣ノ約三分一ト被服類殘ラズトハ内地ヨリ營口へ
 直送セラレ度。

三月十七日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後七時五十分
 官渡口ヨリ三名ノ土人船頭ヲ集メ取調べタルニ遼河ノ開通ハ支那ノ三月一

日後ニナル。官渡口附近ニ船五百アリ。内二百ハ一半臺ヨリ鐵嶺迄通行ス
 ルヲ得。其運賃米一呎參拾錢乃至參拾五錢ナリト。

三月十八日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午前一時三十分
 割麥取敢ヘズ數百石送ラレタシ。後ハ七ト三ノ割ニ送ラレタシ。

同十八日 辻村遼東守備軍經理部長ヨリ電報午後零時二十分
 電報分午家電受



清國駐屯軍ヨリ營口支庫へ送付スル糶外四點ハ直ニ新民屯へ送付ノ事ニ致シテハ如何ト思フモ品質等ニ付、前途如何ト思ハル、點アリ。貴官ハ熟知ナラント存ズ。依テ新民屯へ送ルヲ便トセバ貴官ヨリ直ニ駐屯軍へ電報セラレ其旨一報ヲ望ム。

右ニ付、其品目員數承知シタキ旨電報セシニ左ノ返電アリ
午後七時三十分 牛家屯發

答、駐屯軍ヨリ送り來ル品ハ次ノ如シ○糶約千四百五十石、麵麩約九千三百貫、玄米約二百三十石、天幕約二百五十枚。

右、經長命令ハ翌十八日大連本倉庫ヨリ送付シ來ル。即チ左ノ如シ。

經長第二六六號 三月九日付

守備軍經理部長宛

野戰經理長官ヨリ

清國駐屯軍貯藏ニ係ル左記物品出征部隊用トシテ滿洲軍倉庫營口支庫へ送付セシメラレ候條受領方取計フベシ。

左記

- 一 糶 約千四百五十石
- 一 玄米 約二百三十石
- 一 麵麩 約九千三百貫
- 一 天幕 約二百五十枚

三月十八日 韓國駐屯軍遠藤經理部長へ電報午後零時四分發

京釜鐵道河川用小蒸汽二隻買入ノ目的ニテ在營口同會社員江南ヨリ仁川ノ谷口技師へ交渉セシニ已ニ他人ニ賣リ渡シ濟ミ。買受人ハ貳萬圓ニテ賣ル由返電アリ○第一、右ハ其レ丈ケノ價値アルヤ、又仁川渡ナラバ何程負ケルヤ、第二、營口へ送ルコト御盡力願ハル、ヤ。

右ニ對シ、同日午後九時三十分汽船買入レ申越ノ件一應問合セノ上返事スト返電アリ。

同十八日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前一時發

第三軍兵站經理部長ヨリ新民屯へ追送品ハ米麥、副食物ト配合シテ送ルヤツ、

又加給品モ成ル丈送ルヤツ、但、麵麩ハ不用ナリト申シ來レル故其通り取計フベキニ付、承知アリタシ。

同十八日 在奉天第三軍兵站司令部ニテ前田支庫長ヨリ電報午前一時三十分發

今着ス○今ヤ渾河解氷セントシ支那馬車ノ通過極メテ困難ナリ。今日十七日午後四時渾河左岸ニ着シ、一輛ノ馬車ヲ通過セシムルニ約五時間ヲ要シタリ。同行ノ馬車四臺ノ内一臺漸クニシテ通過シ、残りハ左岸ニ幕營セシメタリ。猶、解氷ノ度増スニ隨ヒ、一時交通ヲ斷タントスルノ恐レアリ○關外鐵道其後ノ狀況承知シタシ○明日(十八日)ハ總司令部ニ行ク豫定。

同十八日 每田柳樹屯支庫長ヨリ電報午後一時五十分發

當地ヨリ貴地ニ糧秣海上輸送ノ爲メ運送船今入港セシ旨、碇泊場ヨリ通知アリ。其輸送スベキ糧秣ノ品種命令アリタシ○第一次ハ米ヲ送ル。右ニ付左ノ如ク返電ス午後三時三十分發

其地ヨリ營口へ海路輸送スベキ糧秣ハ師團ノ日數ヲ單位トシ、米、麥、副食等ヲ

配合シ(銚ノ鑑詰ヲ除キテ積ミ込ミ其旨本職ト營口支庫長へ電報セヨ。

三月十八日 神尾遼東守備軍參謀長へ電報午後八時四分發

豫テ差押エアリシ第六師團關係ノ糧食品ハ酒保商人竹原ノモノナルコト明カナリシ故軍用ニ適スルモノハ經理長官ヨリ經理部長へ申來レル次第アリ買入レ濟ミ。軍用ニ適セザル品ハ右竹原へ却下シタシ。御意見至急電報アリタシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後十時受

答、竹原へ軍用ニ適セザル品却下ノ件御意見ノ通り。

同十八日 奉天前田支庫長へ電報午後五時發

第二軍兵站經理部デハ此頃多クノ木炭ヲ商人ニ注文シ其商人ヨリハ日本内地ニ注文セルヤニ傳聞ス。我倉庫ニハ七百萬貫以上ノ木炭現在セリ。商人ノモノヲ買ハズニ在庫品ヲ使用スル様第二軍兵站經理部長へ懸合ハレヨ。

右ニ對シ同月二十二日左ノ報告アリ。

電命ニヨリ木村第二軍兵站經理部長ニ會見ス。同經理部長ハ滿洲軍倉庫ヨリ確實ニ木炭ノ補給ヲ受ケラル、コト、信ジ、本月二十日從來ノ契約ヲ解除シ、奉天(遼陽)ヨリ前進ニ來リシト。但、解除取調ノ際一部ノ漏レタルモノ十八萬貫(本月二十日納期)ハ納期ニ至リテ納付セズ。昨日ニ至リ一週間ノ延期ヲ申出デタルニ付、事情ヲ取糺シタル處内地ヨリ木炭ヲ回漕シ營口入口ニ在テ解氷ヲ待チ居ル事情ヲ承知セリ。尤モ當初契約ノ時ニハ當地ニ炭ノ現在スル筈ナリシ。右ノ次第ナル故十八萬貫ハ來ル二十七日迄ニ遼陽ニ納付ヲ了ルモノ、ミヲ取リ同期迄ニ納付ヲ了ラザルモノハ解約スル都合ナリト。

同十八日 大連本倉庫ヨリ電報午後五時四分受

鴨綠江軍兵站經理部長ヨリ大雨覆二千枚野戰經理長官へ請求セシニ當倉庫ヨリ取レトノ指令ニ付、送付セヨト電報アリ。交付シテヨキカ。現在品八千五百枚アリ。

右ニ對スル返電午後六時五分發

雨覆二千枚鳴綠江軍ニ渡スコト承知ス。遼陽ヲ經テノ陸路輸送ハ汽車ノ輸
送力ナキ故差支アリ。海路輸送ヲ碇泊場ニ交渉セヨ。

右碇泊場司令部ニ交渉ノ結果第四共同丸ニテ大孤山ヘ回送スル筈ノ處三月二
十一日付經長命令ニテ取消サレタルヲ以テ遂ニ送付セズ。

三月十八日 宇品貨物廠長ヘ電報午後六時三十分分午後六時三十分家電發

補給上ノ都合アリ。夏服ハ成ルベク營口ヘ直送セラレタシ○下官ハ當分營
口ニ在リ。

右ニ對シ左ノ返電アリ十九日午後二時四十分家電受

答、夏服ハ成ルベク來意ノ通り取計フモ營口行船頗ル少ナシ。依テ大連ヨリ
積ミ替ヘ營口送りノ事ニ取計フベシ。

同十八日 雇員川島義賢大連本倉庫ニ到着セル旨報告アリ。依テ任務ヲ授ク
ル爲メ營口支庫ヘ來ルベキ旨電命セリ。

同十八日 新民屯藤田主計ヨリ電報正午沙河子發午後八時十八分家電受

汽車到着ス。追送ヲ始ム。當地清國電信局ニテハ羅馬字綴リノ電報ハ取扱
ハスコト、ナリタリ。通信ニ困ル。奉天ノ通信モ電信ナシ。「ブツシユ」ニ電
話器アル由。ソレヲ使用スルコト出來ザルカ。鄭家屯、長春附近ノ情況ヲ知
ル必要アリ。此方面ノ地圖至急送ラレタシ。

同十八日 在小北河大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後十一時三十分家電受
一半臺ヨリ消息ナシ。輸送ハ繼續シツ、アリヤ○新民廳ヘノ通信ハ不日奉
天ヲ經テ開通スル由。

同十八日 午後二時四十分辻村遼東守備軍經理部長ヨリ「昨今新民廳ヘ輸送ノ
情況及今後ノ見込ミ聞キタシ」トノ電報アリ。依テ左ノ如ク返電ス午後十二時分家電發

關外鐵道ハ再ビ開通スル様ニナリシモ昨日迄ハ途中ノ滯リ品ヲ送り本日ヨ
リ營口ヨリ汽車ヲ出シタ。サレド本日ハ米八十石、麥千八十石ノミ送付セリ。
明日ノ爲メニハ米百五十石、麥八百二十五石丈積込ミ終レルモ其他ノ汽車ハ

來ルカ來ヌカ未ダ分ラヌ。分リ次第電報ス〇一兩日以後ハ四個師團乃至五個師團分ハ輸送シ得ル見込ミ〇支那人相手ノ事ハ中々氣永ニ掛ラネバナラヌ。少シノ處猶豫アリタシ〇第三軍兵站經理部長ヘハ通報濟ミ

三月十八日 大連本倉庫ヨリ左ノ電報アリ午後十二時 牛家屯受

第三軍大江兵站經理部長ヨリ乙號炊具十組(旅順方面ヨリ北進ノ兵站部隊用破損シ炊事ニ差支エルニ付)急送交付ノ要求アリ。渡シテヨキカ。現在百六十一アリ。

右ニ對シ、同夜一時三十分乙號炊具十組第三軍大江部長ヘ交付ノ事承知ス。此ノ外ニ尙ホ三十組遼陽支庫ヘ送付シ置クベシト電命セリ。

三月十九日 新民屯藤田主計ヘ電報午前一時三十分 牛家屯發

但、沙河子第三軍通信所取次ギ一半臺ヨリ電話。是迄ニ送付セシ總高ハ

米 一、七二八石二斗

麥 二、三八九石二斗

臺灣米 一、五〇八石

鹽 鯤 一、二〇捆

干 魚 三、三二捆

煎 子 一、七一捆

三品小計

八、九三六貫八〇〇匁

味 噌 四〇〇捆

四、九六〇貫

梅 干 二、三三〇捆

一〇、四八五貫

右ノ内米八十石、麥千八十石ハ本日(十八日)午前十時發送セリ。師團日數ニ算セバ

米 一、四四日分

麥 九、五

臺灣米 一、二、五

鹽干魚 一、四、九

干野菜

一二六

九二

味噌

一二四

梅干

五二四

米七分ト臺灣米三分ノ割ニテ補給スベシ。臺灣米ノミ比較的多ク渡ス場合ニハ苦情起ルベキニ付注意スベシ。主食、副食共火急ノ場合ニテ準備ノ都合ト渡河ノ都合ニヨリ斯ク不釣合ノ配合ニナリシモ今後ノ輸送ニテ入レ合セ各品種ノ肩ヲ揃ヘル積リ。本日及明日ハ輸送力乏シキモ二三日以後ヨリハ四個師團乃至五個師團分ツツ送リ得ルコトニナル積リ。

右ト同時ニ大江第三軍兵站經理部長、遼陽支庫長及在奉天前田主計正ヘモ其旨電報セリ。

三月十九日 奉天前田支庫長ヨリ電報午前一時三十分奉天發

今日(十八日)井口閣下尾野參謀ニ面會ス。出張所ノ設備及鹵獲品收集ノ方針ヲ打合セタリ。倉庫地ハ大抵選定ヲ終ヘタリ。各軍經理、軍醫、獸醫部長ヘハ

鹵獲品返納ノ名稱數量及未ダ收集ニ着手セザル地方等ヲ打合セ中、明日(十九日)ヨリハ當地附近及其以北鐵道沿線ヨリ收集ヲ始ムル豫定。關外鐵道ノ狀況ヲ閣下ニ報告シタ。閣下モ該鐵道利用ヲ大ニ望ミ居ラル、モノ、如シ。輸送ノ狀況承知シタシ。片山閣下ニ面會シタ。作戰中ノ給養ハ良好ナリシト。各軍ニハ高粱、豆粕等ノ鹵獲品大分アリシモノ、如シ。依テ之ヲ馬糧ノ一部ニ代用シ、大麥ノ追送ヲ少シク減ジ、其代リ米、副食等ノ量ヲ増加シタキ考ナリ。各軍ノ意向ヲ聞キタル上更ニ意見ヲ具申ス。○藥劑官、蹄鐵工長今朝、第二輸卒隊ノ半部今夕着ク。

ノ要領ヲ神尾遼東守備軍參謀長ヘ電報セリ。

同十九日 在溝帮子米田主計ヨリ電報午後零時三十分家屯受

昨日ノ麥九貨車ハ今朝六時半ニ發送シ、今朝八時半營口ヨリ麥二十噸貨車三、十噸貨車三、米二十噸貨車一、十噸貨車二來ル。此ハ明朝發車ノ筈、時間未定。

右ニ付、辻村遼東守備軍經理部長ヘ電報午後九時家屯發

關外鐵道ニテ米二百石、麥八百二十五石今朝四時營口ヲ發車シ、午前八時半溝
帮子ニ着セシモ、本日ハ同地ニ止メラレ、明朝新民屯ニ發車セラル、旨溝帮子
ノ米田主計ヨリ報告アリ○明日ノ爲メニ營口ニテ米八百三十石、麥三百八十
三石、エキス千九百七十貫、粉味噌八百貫ヲ今積込ミ終レリ○此外百噸ノ貨車
ヲ借入レ、今米、麥ヲ積込ミ中、積ミ終ラバ員數ヲ電報ス。故ニ明日ハ二百六十
噸發送ノ事ニナル。

次デ又左ノ如ク電報ス分夜一時三十分
牛家屯發

本日(十九日)第二回積込ミ米三百二十六石、麥四百八十九石、本日合計米七百五
十六石、麥八百七十二石、エキス千九百六十九貫、粉味噌八百貫ナリ。二十日朝
發車ノ豫定。

三月十九日 遼東守備軍參謀長ヨリ大連本倉庫へ左ノ通牒アリ。

一時旅順兵站司令官ニ配屬相成居候第八師團第七補助輪卒隊ハ貴官ノ指揮
下ニ復シ來ル二十三日旅順ヲ發シ鐵道輸送ヲ以テ營口ニ至ラシメラレ候條

此段及御通報候也

三月二十日 長岡參謀次長ヨリ電報午後零時四十分
牛家屯受

參通一、二〇六奉天ニ支庫設置ノ爲メ貴倉庫へ滿洲軍倉庫編制表備考第二項
ノ支庫要員ヲ增加セラル

右參通一、二〇六左ノ如シ

明治三十八年三月二十日

大本營參謀次長 長岡外史

滿洲軍倉庫長日匹信亮宛

奉天ニ支庫設置ノ爲メ貴倉庫へ滿洲軍倉庫編制表備考第二項ノ支庫要員ヲ
增加セラル

同二十日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後七時三十分
牛家屯受

黃家嶺子ノ物品中支那米ノミ當地ニ移ス。其他ノ給養品ハ第二軍兵站ニ交
付シ、苦、枕木、アンペラハ同地ニ格納シ、上等兵一、輪卒四ヲ殘シ、家屋ト共ニ之ヲ

九六
監守セシメ、其他ノ人員ハ當地ニ引上グルコトニセリ。但、引上ノ事ハ前田ヨ
リノ通知ニヨル。

三月二十日 奉天前田支庫長ヨリ電報午後十時
牛家屯受

松野主計、倉塚工學士ハ昨日高橋主計ハ今日着イタ。倉塚一行ヲ明日線路調
査ノ爲メ新民屯方面へ出發セシム。○新民屯へハ電信開通ス。

右新民屯へ電信開通ノ件ハ後大江第三軍兵站經理部長及新民屯藤田主計ヨリ
モ電報アリ。

同二十日 神尾遼東守備軍參謀長ヨリ電報午後零時四十分
牛家屯受

遼河解氷セバ營口、新民屯間水路輸送ヲ開始シ、馬圈子、太灣、老達房、一半臺第三
軍ヨリ附近ニ兵站司令部ヲ置ク筈故、右各地へ貴倉庫ヨリ主計若クハ計手一
名宛ヲ派遣シ賃金ノ支拂及軍需品ノ受授ニ關スル業務ヲ補助セシメラレタ
シ。一半臺ニハ特ニ敏腕ナル主計ヲ派遣シ置カレンコトヲ望ム。○輸送計畫
書ハ本日郵送ス。○遼河ノ輸送ニ關シ、御意見アラバ電報セラレタシ。

右ニ對シ左ノ如ク電報ス二十一日午後十時
牛家屯發

遼河輸送ニ關スル意見○輸送ノ早着ト經濟ノ點ヨリ途中ノ碇泊場ヲ減スル
ヲ利益トス。太灣(人家甚少ナク土地廣カラザル)故差支ナケレバ土地廣ク人
家多キ右岸ノ達都堡子ノ邊ニ一個所アラバ夫レカラハ直ニ一半臺(ナシ)得レ
バ官渡口ニ達シテ可ナラン。途中ノ老達房司令部ハ不用ナラン(單ニ監視位
ニ止マルナラバ可ナルモ)何トナレバ馬圈子ト太灣間ハ減水ノ時デモ尙ホ百
八十呎積ノ船ハ通フベシ。太灣ト一半臺又ハ官渡口間ニハ減水間百二十呎
積ナラデハ通ハズ。サレドモ太灣ト一半臺(官渡口)間ニ在テハ距離コソ長ケ
レ其間ニ於テ用船ニ差違ハナシ。此間ニ強ヒテ積換所ヲ置クトキハ時ト金
トヲ空費スルノミナラズ來ルベキ雨期ニ於テ積換等ノ爲メニ受クル所ノ物
品ノ損害尠少ニアラズ。○關外鐵道ト此水路ト相應ジテ利用スル爲メニ守備
軍地域ヲ出デテ第三軍ノ地域ニ入ルカラニハ一半臺ヨリハ寧ロ其上流二十
五清里ニアル右岸ノ官渡口若クハ其對岸ノ長山子ヲ便利ナラントス。是レ

新民屯ヨリ奉天ニ達スル途上ニアレバナリ。新民屯藤田主計ノ報告ニ依レバ露軍ハ昨年永ク官渡口ト鐵嶺間ニ軍需品ヲ輸送セリト云フ。官渡口若クハ一半臺ニハ第三軍ヨリ兵站司令部若クハ支部ヲ置クナラン。サスレバ守備軍ヨリハ兵站司令部ノ必要ナシト思フ。糧秣ノ保管ハ受授ノ爲メニハ是非トモ倉庫ノ出張所ヲ必要トス。此ノ出張所ト新民屯ニ在ル出張員ト互ニ相呼應シ、又相連絡シテ作戰軍ニ對スル倉庫業務ヲ確實ニ行ハシムルコトニ致シタシ○右ノ次第故ニ倉庫ヨリハ馬圈子ト太灣ニハ各、計手ノミヲ派遣シ、最後ニ於テ糧秣ノ締メク、リヲ官渡口ノ出張所ニ於テ爲サントス○閣下ノ御採擇ヲ願フ。

三月二十一日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報 午前三時 半家屯發

十九日積込ミノ糧秣ハ本日(二十日)皆發送済ミ。本日米三百九十七石二斗、麥千五百七十五石積込ミ。猶此外百噸ノ約束ヲナセリ○營口ノ驛長以下我ガ荷物ニ對シ昨今餘程好意ヲ以テ待ツ様ニナレリ。是レハ三井及「ブツシユ」等

ヲ以テ大ニ手ヲ廻ハサシメタル結果ナルコト勿論ナリ。此調子ニテ過チナケレバ甚ダ有望ト思フ。

同二十一日 遼陽橋元主計ヨリ電報 午後一時 半家屯受

第一軍經理部長ヨリ左ノ電ナリ○鹵獲雜穀ノ主ナルモノ高粱ニテ馬糧ニ適セズ。其ノ外大麥アルモ數量少クシテ追送品ヲ節スル迄ニアラズ。依リテ糧秣ノ輸送ハ從來ノ通り實行セラレタシ。

右ハ大連本倉庫及ビ營口、柳樹屯兩支庫長へモ通報シ置ケリ。

同二十一日 遼東守備軍司令官へ電報 午後六時 半家屯發

當倉庫新民屯出張所員藤田ノ報告ニ依レバ昨日同所ニ着セル汽車途中ニ於テ失火シ大麥三十噸分ヲ燒失セリ。原因取調中、取敢へズ報告ス。

右同時ニ辻村經理部長へ電報

司令官へ報告シタル大麥ノ失火ハ何レモ他ニ深キ原因ナキ筈ナリ。分リ次第電報スレドモ心配セラレヌ様念ノ爲メ。

三月二十一日 柳樹屯支庫長ヨリ業務打合せノ爲メ派遣セル植田主計來リ曰ク、
 柳樹屯ニハ二萬四千貫ノ銕罐アリテ罐詰中最多數ヲ占ム。右ハ遼陽支庫ヨ
 リモ前送ヲ斷リ來リ、又此度營口ヘノ海路輸送品中ニモ倉庫長ヨリ加フル勿
 レトノ電命アリ。全體是レハ如何ニ處分スレバヨキカト。
 右ニ對シ、本職ハ左ノ如ク答ヘ置キタリ。

銕罐追送ノ事ハ既ニ昨年其筋ヘ斷リ置キタルニ拘ハラズ。其後續々送り來
 リシニ由リ、今日ニ至リテ其處分ニ困難スルコト、ナレリ。故ニ奉天ニアル
 前田支庫長ニ旨ヲ授ケテ各軍ヘ捌キ方ヲ取計ウテ見ルモ、若シ其レガイケナ
 ケレバ内地ヘ還送スルカ、又ハ支那人ニデモ賣却スルヨリ外ナカラシ。

同二十一日 大連本倉庫ヨリ「小蒸汽船買入」ノ件ハ其後ドウナリシカ守備軍
 參謀長聞キタシト「電報アリ。依テ左ノ如ク返電セリ」午後十一時 家屯發

左ノ如ク參謀長ニ答ヘヨ○小蒸汽船ハ已ニ京釜鐵道會社ノ手ヲ離レ、買主ハ
 二隻合セテ貳萬圓以下デハ賣ラストノ事故、貳萬圓ノ價值ガアルカ又之ヲ營

口ヘ輸送ノコト韓國駐劄軍經理部ヘ取調ベテ依頼シ置ケリ。一兩日中ニハ
 何トカ返事アル筈。

同二十一日 大連本倉庫ヨリ電報午後十一時 家屯受

人事局長ヨリ參謀長宛左ノ電アリシ旨電話ニテ通知アリ○奉天支庫要員ハ
 二十日發令支庫長ニ騎兵第二聯隊附赤石一等主計ヲ、支庫附ニ韓國駐劄軍金
 櫃部員木村二等主計、步兵第六聯隊附鈴木三等主計、丙碇泊場司令部一等計手
 村岡半九郎ヲ主計職務取扱トシテ充テラレ奉天ニ集合スベキ様達シ濟ミ。

右ニ付奉天前田主計正ヘ其全文ヲ移電スルト共ニ左ノ如ク電命セリ夜一時三十分 家屯發

○着セバ速ニ本職ノ所在地ニ來ル様傳達アレ。

同二十一日 遼東守備軍司令官ヘ電報午後十一時三十分 家屯受

豫テ上申シ置キタル如ク營口支庫ハ今ヤ大ニ重要ナル關係ヲ有スルモノト
 ナレル故ニ同支庫長ヲ速ニ三等主計正ニ改正セラレタク、又關外鐵道及大遼

河ヲ使用セラル、コトニナリシト殊ニ滿洲軍ノ兵額増加セシ等ニヨリ營口支庫ニ一(二)等主計四、計手六ヲ至急増加相成度稟申ス。

三月二十一日 辻村經理部長へ電報午後十二時 午後二時

關外線へ二十日積込ミノ品ハ今朝迄ニ皆送レリ。本日米五百七十石、麥千七百五十四石積込ミ内米三百二十石、麥七百七十九石發送濟ミ。残りハ明朝發送ス。次デ又左ノ如ク電報ス夜一時三十分 午後三時

滿洲軍ノ兵額増加セルト大遼河及關外鐵道使用ノ結果營口支庫ニ主計四ト計手六増員ヲ要シ司令官へ稟申シ置キタリ。○大遼河ノ輸送計畫ニ關シ、參謀長ヨリノ電報ニ對シ、意見開陳シ置キタリ。○其要點ハ途中ノ碇泊場ヲ減シ、前後ノ到着點ニ滿洲軍倉庫ノ出張所ヲ置キ、糧秣ノ保管又ハ受授ヲ確實ニ爲サシメントスルニ在リ。共ニ御配慮ヲ願フ。

三月二十二日 神尾守備軍參謀長へ電報午前二時 午後二時

新民屯藤田一等主計ヨリノ報告ニ依レバ同官ハ官渡口附近ニ河船約五百隻

直接土人ト契約シ、其使用權ヲ留保シアルモノ、如シ。尤モ馬圈子以北同所以南ニハ河船ヲ繫留セルモノ甚少ナキ由ナル故、藤田ノ爲セシ此機敏ナル處置ニ對シ同意セル旨返答シ置キタリ。藤田ノ見込ミデハ商人輩ノ手ニ落ツルヲ恐レシ故、獨斷ヲ以テ留保シ、猶後備歩兵第十五旅團ニ援護ヲ依頼シアリト。

同二十二日 奉天前田主計正へ電報

其一午前十一時 午後一時

去ル二十日參謀次長ヨリ左ノ電。○奉天ニ支庫設置ノ爲メ貴倉庫ニ滿洲軍倉庫編制表備考第二項ノ支庫要員ヲ増加セラル。

其二同時

貴官ニ奉天支庫長兼務ヲ命ズ。○當分ノ内主トシテ奉天ニ在ルコトヲ望ム。

其三同時

赤石一等主計以下其地ニ着セバ左ノ通り傳達スベシ。○赤石ハ當分本倉庫ニ

在リテ業務ニ服スベシ。木村ト鈴木ニ遼陽支庫附ヲ○村岡ハ此地ニ在リ既ニ營口支庫附ヲ命ゼリ。

三月二十二日 新民屯藤田一等主計ヘ電報午後四時二十分 牛家屯發

貴官ガ新民屯着以來ノ處置ト各種ノ報告ニ就テ大ニ満足ス○官渡口ニ在ル船五百隻ハ別命アル迄、保管シ置クベシ。太子河、渾河ノ水路ヲ廢シ、大遼河水路輸送ヲ行ハル、爲メ、馬圈子、太灣、老達房ニ兵站司令部ヲ置ク爲メ、各官ハ今ヤ出發最中ナリ。第三軍トノ連絡點、一半臺又ハ官渡口ニハ我倉庫ノ出張所ヲ置キタキ旨其筋ヘ上申シ置ケリ。右出張所ニハ一半臺ト馬廠ト官渡口ト長山子ト何レガ便利ナルヤ○奉天ト新民屯間ニハ輕便鐵道ヲ敷設セラル、ナランノ内議アル由故其準備トシテ倉塚工學士以下六名ヲ前田ノ下ニ派遣シ置ケリ○將來ハ勿論鐵嶺ノ方向ニ補給線ヲ取ルコトヲ考ヘ置クヲ要ス○前田主計正ニ奉天支庫長兼勤ヲ命ジ置ケリ○貴官ハ常ニ奉天支庫トノ連絡ヲ保ツヲ要ス○關外鐵道モ大ニ好都合トナリ、目下日々三百噸以上ヲ輸送シ

アリ。今後、ヨリ多ク輸送シ得ルナラン○營口モ二、三日内ニハ船ヲ入レ得ルナラン○蒙古ヨリ牛ヲ買入レルコト同意ナリ。但、値段ヲ上ゲザル様注意スベシ○其他ノ現地調辨モ値段ノ安キモノハ買入レテヨシ。

同二十二日 遼東守備軍經理部長ヨリ電報午後五時三十分 牛家屯受

貴地(營口)ヘノ陸送糧秣ハ明日ヲ以テ終リトシタシ。大麥ノミニテモ尙ホ陸送スベキヤ、返待ツ。

右ニ對シ、直ニ左ノ如ク返電ス。

答、營口河開キモ四、五日以内ノ見込ナル故陸送ハ明日限り一切止メラレタシ。同時ニ大連本倉庫ヘ電報。

柳樹屯ヨリ糧秣ノ陸路輸送ハ明日限り停止セリ○營口ノ河開キハ遅クモ四、五日以内ナラン○海岸倉庫一棟ヲ守備軍經理部ヘ貸シ渡ス約束濟ミ○兵器廠ヘ貸シアル倉庫ハ此際至急返却アル様催促スベシ。

右陸送停止ノ件ハ同時ニ柳樹屯支庫長ヘモ電報セリ。

三月二十二日 神尾遼東守備軍參謀長ヨリ電報午後四時 牛家屯受

遼河輸送ニ關シ〇太灣ト一半臺間ハ距離遠大ニ過ギ輸送開始ノ當初船ノ徵集等困難ニシテ且ツ航行ニ多クノ日數ヲ要シ輸送ニ從事スルモノモ不慣故老達房ニ一ノ司令部ヲ置キ繼立ヲナサシムルコトニ決シ既ニ出發セシメタリ。將來輸送ノ順序立チ十分習熟スルニ至ラバ此司令部ヲ撤シ更ニ前方ニ進ムル時機ヲ生ズルナラン。終末點ノ事ハ第四區ノ兵站司令官ニ命ジ輸送ノ狀況之ヲ許サバ一半臺ヲ官渡口ニ改ムル様訓示シ置キタリ。藤田主計ノ契約シ置キタル船ハ星田司令官ヨリ請求アラバ引渡ス様取計ヒ置カレタシ。右ニ對シ左ノ如ク電報ス午後六時二十分 牛家屯發

答、昨年太子河ノ輸送デモ小北河ト黃家嶺子ニ出張所アレバコソ辛ウジテ整理ツキタリ。其レモ後デ餘程ノ時日ヲ費シ苦心ヲナセリ。故ニ終末ノ場所ニテ守備軍ノ兵站司令部ヨリ第三軍ノ兵站司令部へ直接ニ糧秣ヲ引渡サレテハ到底整理ノ見込ミナキ故此處ニハ是非共倉庫ノ出張所ヲ置キタシ 御

承諾ヲ願フ〇星田司令官ノ請求アラバ船ヲ引渡ス様藤田へ電報セリ〇輸送案見タ。意見書ハ使ニテ出ス。

尙ホ同時ニ辻村經理部長へモ右參謀長へ發電シタル旨電報セリ。

右ニ對シ神尾參謀長ヨリ返電同夜零時二十分 牛家屯受

水路輸送ノ終末點ニ倉庫ノ出張所ヲ設クルコト差支ナシ。去二十日正午發貴官宛電報ハ右ノ趣旨ヲ含ム〇右派出所ニハ若干ノ補助輸卒ヲ倉庫ヨリ派遣シ揚陸等ノ業務ヲ掌ラシメラレタシ。而シテ揚陸地ニテ使用スベキ苦力或ハ馬車等ハ該兵站司令部ニ請求セラレベシ。

同二十二日 新民屯藤田主計へ電報午後六時二十分 牛家屯發

貴官ノ契約セシ官渡口附近ニ在ル船舶ハ不日其附近ニ行クベキ守備軍星田兵站司令官ノ請求アラバ引渡スベシ。

同二十二日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後六時 牛家屯受

橋口中佐ガ當地ニ於テ中立地ニ於ケル禁制品トシテ押收セル牛百二十頭ハ

今日倉庫ニ貰ヒ、支那人ヲ附シテ飼ヒ置ク。此牛ヲ基礎トシテ牧畜ヲナセバ生牛補給上都合良シ○第一梯進騎兵百三十今日當地ニ來ル。糧秣一日分ノ請求アリシヲ以テ渡シ置ケリ。

右ニ付守備軍經理部長へ電報午後七時三十分 牛家屯發

新民屯藤田ヨリ左ノ電アリ。就テハ同官ニ於テ生牛ニ限ラズ其他糧食品ヲモ現地調辨シ軍ノ補給ニ供スルコトアルヲ以テ御承認置カレタシ。又騎兵隊へ直接ニ糧秣ヲ交付セシ事ハ聊カ穩當ヲ缺ケル處ナキニアラザルモ、格段ナル事情アリテ止ムヲ得ザルモノト見テ是亦御承認アリタシ○以下前項電報全文。

三月二十二日 奉天前田支庫長へ電報午後七時三十分 牛家屯發

各軍ニ對スル補給上遼陽ハ既ニ中繼ギノ關係トナリシガ如シ。遼陽、奉天間倉庫品輸送ノ狀況ト、奉天ニ於テ現地調辨セシモノト、追送ヲ受ケシモノト、鹵獲ニ屬スルモノト各軍ヨリ納付シ來レルモノトノ大略ヲ知リタシ。又日々

各軍へノ補給モ如何ニナリ居ルカ○新民屯へノ鐵道輸送ハ今デハ好都合ニ運ビツ、アリ。第三軍ノ爲メニハ此方面ヨリ十分補給シ得ル見込ミ○遼河開通後ハ三日以上十日以内分ヲ日々一半臺又ハ官渡口邊ニ輸送セラル、見込ミ○官渡口又ハ一半臺邊ニ倉庫ノ出張所ヲ置クベキ意見ヲ以テ守備軍參謀長ト今往復中○奉天新民屯間ニ輕便鐵道ヲ架設セバ非常ナル便利ナラム。貴官ハ總司令部ト協議シ、鹵獲品ニテモ引渡シヲ受クル様盡力アレ。

同二十二日 午後九時沙河、奉天間ノ鐵道及奉天、新民屯間ノ道路等ニ就テ遼陽橋元主計、奉天前田支庫長、新民屯藤田主計へ其狀況ヲ報告スベキ旨電報シタルニ各々左ノ電報アリ。

橋元主計ヨリ返電同夜零時二十七分 牛家屯受

答、沙河ヨリ蘇家屯迄開通其ヨリ奉天迄ハ四月十日頃ニ通ズル見込ミトノ事、但、蘇家屯ヨリ渾河及五里臺迄ハ鐵道用車ノミ運轉ス○發着時間表ハ今夜ノ特使ニ附ス。

藤田主計ヨリ返電同夜一時四分受

電三ツ共見タ。奉天ト新民屯ノ距離十三本邦里強。兵站司令部ハ沙河子ニアリ。道路可ナリニシテ中間ニ一泊セズトモ左迄困難ナル旅行ニアラズ。併シ遼河ハ氷融ケ始メ頗ル危険ナリトノ報アリ。其レガ爲メ糧秣ノ輸送ハ遼河ノ右岸迄トシ、架橋ノ完成ヲ待ツ筈。架橋ハ尙ホ五日ヲ要スルナラン。倉塚工學士今夕來タ。明日直グ奉天ニ歸ル由ナルモ下官ハ氷上通過ノ危険ヲ心配シ居ル。○今日(二十三日)現在

米十四日半 麥七日五分

同追送セル分ハ

米十日七分 麥四日七分

○大江部長ト連絡ス

前田支庫長ヨリ返電同夜三時十五分受

答、奉天へ汽車ノ開通ハ來月二十日ノ豫定。○遼陽蘇家屯、渾河ノ南約二里ハ去

十九日ヨリ開通ス。○蘇家屯ニハ機關庫モナク、大連ヨリ直通セズ。目下遼陽ニテ中繼ギシ、遼陽ヨリハ糧秣ノ爲メ第一軍ハ二日半、第二軍ハ二日、第四軍ハ四日ヅ、各個ニ輸送セリ。跡ハ陸送ス。○提理部岡野少佐ノ言ニ依レバ奉天ニモ機關庫ナク直送六ツカシカラント。輸送力ニ大關係アル故是非直通スル様提理部へ掛合ヒアリタシ。○當地ニテハ未ダ現地調辨セズ又追送ヲモ受ケズ。○鹵獲糧秣ハ第一軍ハ行進中ニテ取調ベ遅延ス。第二軍ハ今整理中三軍ハナシ。第四軍ハ前進中ナレドモ人ヲ殘シ今整理中近々納付ノ筈。○官渡口トハ一半臺ノ上流約一里ノ處ナルガ其地ニハ是非出張所ヲ要ス。○新民屯、奉天間輕便鐵道ハ去二十日尾野參謀ノ話ニ第二軍ト第三軍ト提理部デ調査中トノ事ナリシモ、今日有田參謀長ノ話ニ提理部デ本鐵道敷設ノ事ニナリタリト尙ホ慥カメテ報告ス。○今朝報告ヲ持セテ立タセタ。右奉天支庫設置ニ關スル前田支庫長ノ報告左ノ如シ。

明治三十八年三月二十一日

於奉天 前田主計 正

日匹倉庫長殿

一一二

三月十六日 遼陽出發同日沙河ニ幕營同十七日渾河解氷ノタメ渡河ニ時間ヲ要シ午後十一時奉天停車場第三軍兵站司令部宿舍ニ着ス。
三月十八日 奉天城南門裡ニアル總司令部ニ出頭井口閣下ニ面謁出張所ノ開設及鹵獲品整理ニ關スル大要ヲ承リ尙ホ尾野參謀ト詳細ノ事ヲ打合せタリ司令部ノ意圖大要左ノ如シ。

- 一 奉天ニテハ各軍ノ日量補給位ノ程度ニ止メ度見込ミナルヲ以テ大ナル設備ヲ爲サザル方針ナリ。
- 二 鹵獲品ハ各軍ニ於テ供用シ得ルモノハ使用セシメ其他ヲ滿洲軍倉庫ヘ返納セシムル方針ナリ。
- 右ニ對シ下官ハ直ニ左ノ意見ヲ申シ述ベ置キタリ。
- 一 各軍ノ補給ハ日量位ニ止ムルト雖日量ヲ補給スル爲メニハ少クモ全軍四五日位ノ貯藏ヲ爲サザルベカラズ且ツ雨ノ顧慮ヲ増加スル時期トナル

故一ト通り倉庫ノ設備ヲ要ス。

二 鹵獲物ノ整理ニ就テハ各軍經理部長、軍醫部長及師團獸醫部長ト打合せノ上追テ必要ナル指示ヲ仰グ可シ。
右ニ付本官ハ直ニ鹵獲品返納ノ品目、數量及其所在地ト尙ホ收集未着手ノ地方トヲ通知セラレンコトヲ各軍經理部長、軍醫部長ニ照電セリ。
又鹵獲高粱、豆餅ハ馬糧ニ代用スルヲ目下ノ狀況ニ適當ト認メタルヲ以テ之レガ利用ト同時ニ馬糧ノ追送量ヲ若干減少シ其代リニ精米ト副食物ノ追送ヲ増加セントシ各軍經理部長ニ其意見ヲ求メタルニ

第四軍ヨリ左ノ返電アリ(三月十九日午後)

當軍ニテ鹵獲ノ高粱、豆糟等ハ馬糧トシテ夫々利用シ居レリ依テ追送ノ大麥ノ量ヲ減ズルコトハ見合サレタシ高粱、豆糟ハ目下ノ處當軍ニ不用ナリ。

第三軍ヨリ左ノ返電アリ(三月十九日午後)

一一三

若干收集セシモノハ給養ニ充テタリ。

第二軍ヨリ左ノ返電アリ(三月二日)

鹵獲雜穀ノ主ナルモノハ高粱ニシテ馬糧ニ適セズ其外大麥アルモ數量少クシテ追送品ヲ節スル迄ニ至ラズ依テ糧秣輸送ハ從來ノ通り實行セラレタシ。

第二軍(直接面談)

停車場ニ多數ノ高粱其他雜穀アリ目下整理中之レヲ第二軍ノミニ引宛受クルコトハ困難ナル故各軍ヘ分配シテ貰ヒタイ。
要スルニ高粱、豆糟等ヲ馬糧ニ代用スルコトハ當倉庫收容量ニ依リ各軍ニ割當テ其使用法ヲ上申致ス可シ停車場露軍糧秣集積地ニテ第二軍ノ占領セル概數目擊量左ノ如シ。

大豆 二百捆

高粱 一万八千捆(五斗入)

燕麥 三百捆

大麥 七千捆

石炭 二十萬斤

麥粉 二千捆

小麥 百八十捆

茶 一萬斤

三月十九日及二十日 附近地方へ鹵獲品ノ收集隊ヲ派遣セリ。

漬物 六百捆

出張所ノ事務所配當ヲ受ク。
總司令部ニ至リ左ノ報告及要求ヲナス。

一 倉庫地選定ノ報告

別紙略圖甲、乙ノ場所(挿圖參照)

答、右同意(總司令部)

二 麵麩製造所燒ケ跡ヲ讓リ受クルコト

答、第三軍林兵站司令官ト協議ノ上受ケ取ラレタシ。

三 倉庫用輕便鐵道材料約二哩ヲ讓リ受ケタキコト

答、承知セリ第二軍ヨリ交付方取計フベシ。

四 第二軍占領保管中ニ屬スル停車場南方ニアル露兵假小屋(約四十棟)ノ大部分ト停車場附近ニ散亂セル木材若干倉庫用トシテ譲リ受タシ。
答、承知セリ第二軍へ交渉スベシ。

本件ハ下官モ亦直接第二軍經理部ニ出頭シ約半數ヲ倉庫へ譲リ受ケタキ旨申込ミ置キタリ。

三月二十一日 鹵獲品收集隊二隊ヲ派遣セリ。

第一隊 中村主計ニ輸卒隊一小隊ヲ附シ奉天、鐵嶺街道ヲ搜索シ歸路ハ撫順、鐵嶺街道ヲ取ルコトヲ命ゼリ。

第二隊 木口藥劑官ニ輸卒一小隊ヲ附シ奉天ヨリ福陵、王家勾ヲ經テ歸還スルコトヲ命ゼリ。

附記

一 戰後ニ於ケル奉天

奉天城内外支那市街ノ秩序ハ整然トシテ維持セラレ街上ニハ日章旗ヲ黃

龍旗ト交叉シテ宛モ祭日ノ如シ商舖ハ開店シ市民ハ男女打交リテ往來雜沓セル様、大戰後ニ於ケル市街トモ思ハレザル觀アリ物資ハ關外鐵道ノ便アルヲ以テ遼陽ノ比ニアラズ和洋雜貨モ處々ニ見受ケタリ。
奉天停車場ハ之レニ反シ所謂露西亞流ノ燒拂ヲ勵行シ居レリ停車場ハ殆ンド燒ケ、燒ケ殘レルハ假設病院ト官舎様ノ洋建物ノ一部ナリ同停車場ノ建物ハ總司令部ノ直轄トシ第四軍兵站司令部之ヲ管理セリ。
奉天停車場ニハ露軍ノ赤十字病院アリ露ノ負傷者及之ニ要スル醫官、看護婦(約三十名ア)アリ此病院ハ目下我第四師團ニテ使用シ日露兩國ノ傷者ヲ收容シ兩國ノ醫官、看護婦ニテ共同業務ヲ爲セリ此役員タル露ノ赤十字社員ハ赤十字章ヲ附シテ市ノ内外ヲ濶歩シ居レリ。

二 奉天遼陽間ノ鐵道

遼陽、蘇家屯間ハ去ル十八日ヨリ試運轉ヲ始メ奉天へハ四月二十日頃開通スル由ナリ。

倉庫設備計畫

一一八

一 倉庫ノ位置

別紙圖面甲、乙ノ地(一、二頁次 挿圖參照)

甲地 東清鐵道ニ係ル輸送糧秣等收容ノ爲メ。

乙地 遼河ノ水路及關外鐵道ノモノヲ收容スル爲メ。

二 倉庫ノ設備

在來倉庫 一モナシ兵舎様ノ燒跡一棟ト基礎二、三アリ是レハ修繕スレバ被服、衛生材料獸醫材料ヲ收容シ得ル見込ナリ。

移築倉庫 露軍カ兵舎ニ充ントシテ建設シタル半成ノ假小屋約五十棟(長二間乃至十八間 幅六間高約一尺)アリ内十二、三棟ハ燒失シ残り約四十棟アリ此ノ建築物ハ第二軍ノ占領ニ屬スルヲ以テ總司令部及第二軍經理部ニ交渉シ約其ノ半數ヲ讓リ受クル筈ナリ。

此ノ外若干ノ分捕木材ヲ讓受クルコトヲ第二軍經理部へ交渉中多分實

行シ得ルナラン。

輕便鐵道材料

倉庫地内用トシテ約二哩讓受ノコトヲ總司令部へ要求シタリ是レハ多分第二軍ヨリ讓受クルコト、ナルナラン。

鐵道引込線ノ補修

是レハ復線工事及從來ノ引込線ノ位置ヲ若干變更スルヲ要ス。

麵麩製造所

從來露軍ノ使用シタルモノ、燒跡アリ之ヲ修繕シテ再用シタキ見込ミナリ。

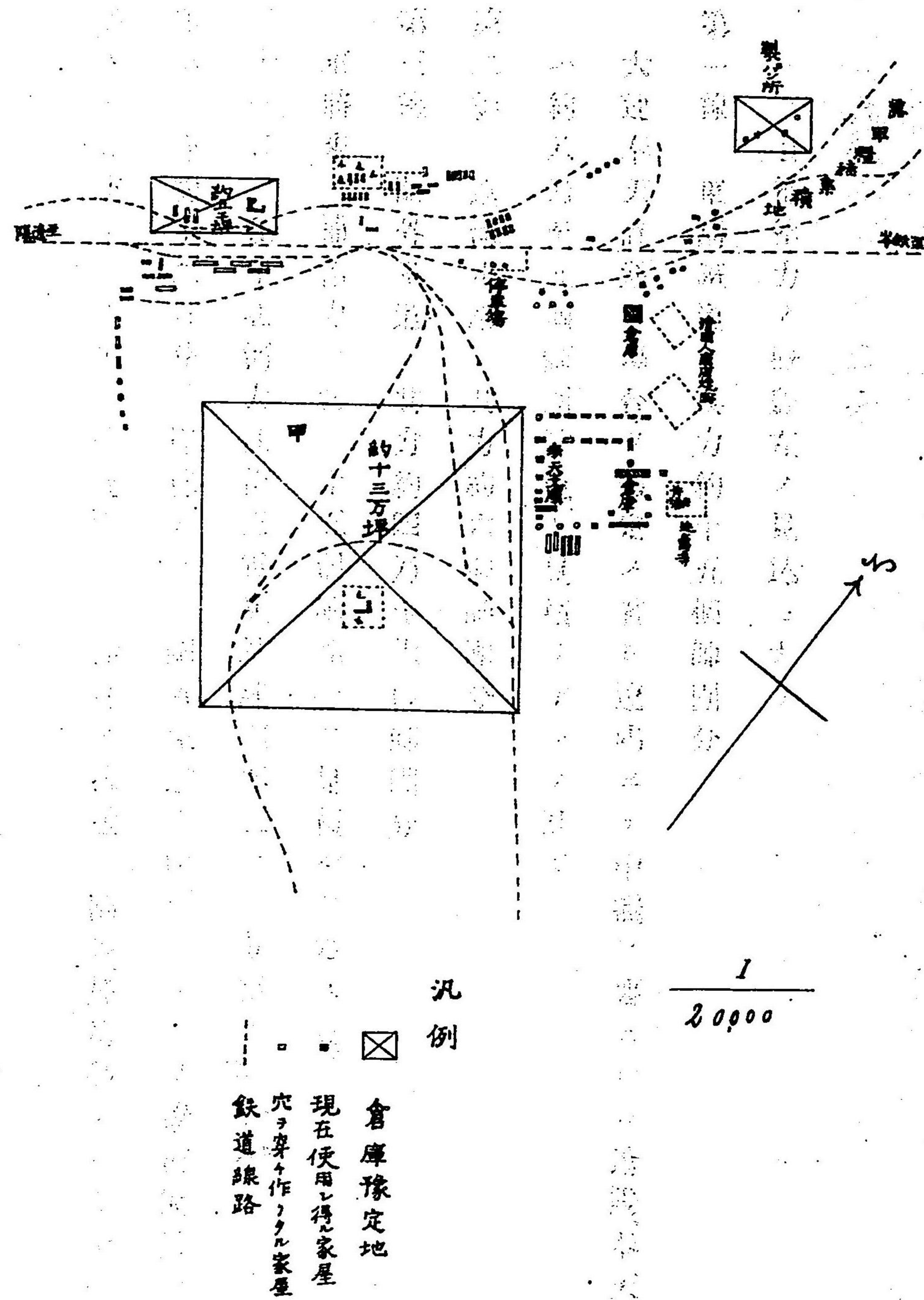
右ノ爲メニ要スル處置

- 一 建築本部長へ移築修繕ノ助力ヲ要求スルコト。
- 二 鐵道提理部へ線路ノ改修ヲ要求スルコト。
- 三 倉庫地トシテノ奉天ト鐵嶺

一一九

奉天支庫倉庫地豫定之略圖

明治三十八年二月二十日

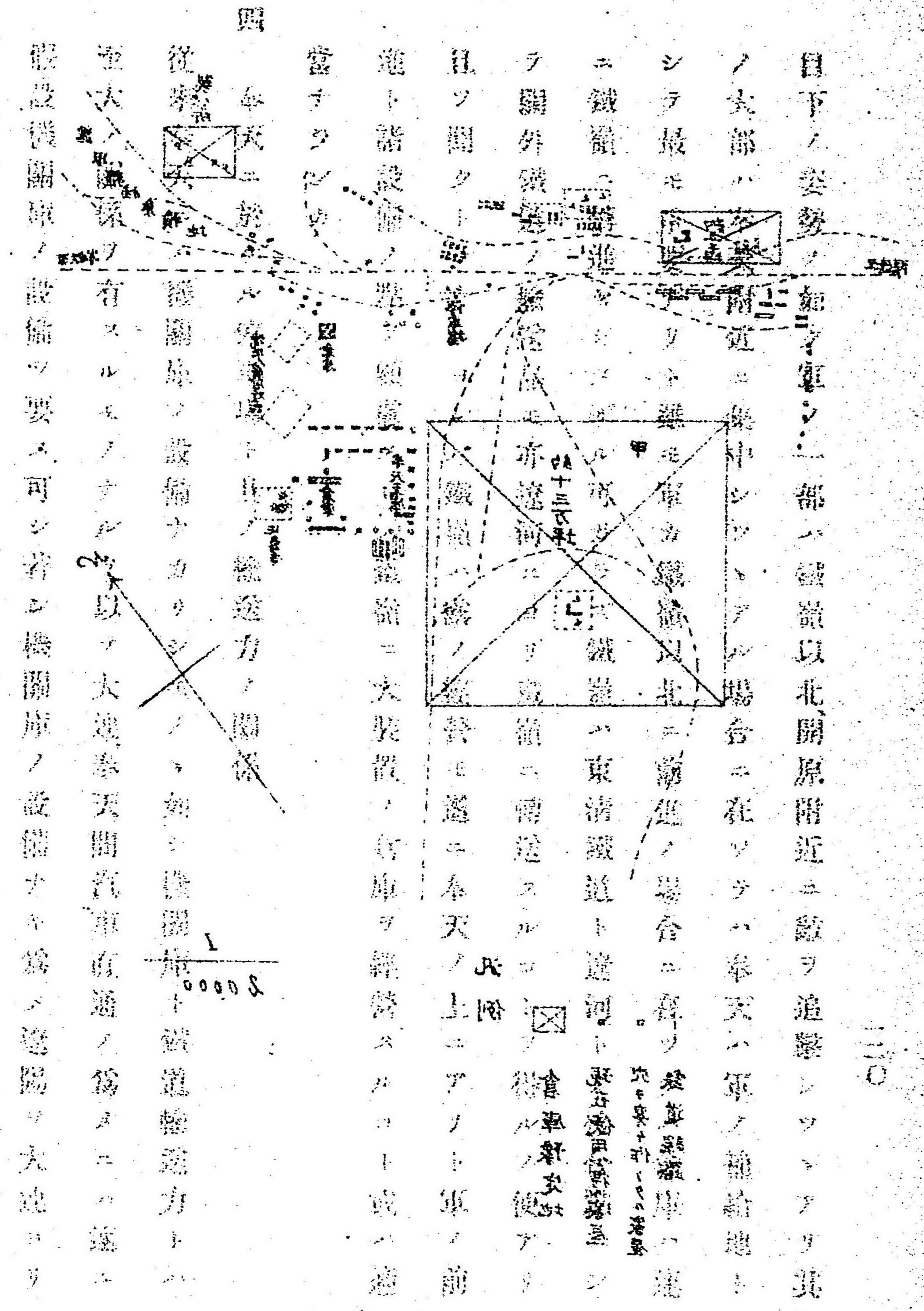


目下ノ姿勢ノ如ク軍ノ一部ハ鐵嶺以北開原附近ニ敵ヲ追撃シツ、アリ其ノ大部ハ奉天附近ニ集中シツ、アル場合ニ在ツテハ奉天ハ軍ノ補給地トシテ最モ重要ナリト雖モ軍カ鐵嶺以北ニ前進ノ場合ニ在ツテハ倉庫ハ速ニ鐵嶺ニ轉進セシメザル可カラズ鐵嶺ハ東清鐵道ト遼河トノ接合點ニシテ關外鐵道ノ輸送品モ亦遼河ニヨリ鐵嶺ニ轉送スルコトヲ得ルノ便アリ且ツ聞クトコロニヨレバ鐵嶺ハ露ノ經營モ遙ニ奉天ノ上ニアリト軍ノ前進ト諸設備ノ點ヲ顧慮スレバ鐵嶺ニ大裝置ノ倉庫ヲ經營スルコト或ハ適當ナランカ。

四 奉天ニ於ケル停車場ト其ノ輸送力ノ關係

從來奉天ニハ機關庫ノ設備ナカリシモノ、如シ機關庫ト鐵道輸送力トハ至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ大連、奉天間汽車直通ノ爲メニハ速ニ假設機關庫ノ設備ヲ要ス可シ若シ機關庫ノ設備ナキ爲メ遼陽ヲ大連ヨリノ終點トシ更ラニ遼陽、奉天間ノ汽車運行ヲ爲スモノトスレバ其ノ力ハ非

奉天支庫食糧供給之詳細圖
昭和二十六年三月二十日



常ニ減ズルノミナラズ奉天倉庫ノ價值ハ甚ダ微少ナリ故ニ奉天倉庫ノ眞價ヲ高メンニハ鐵道ニ必要ナル諸設備ヲ快速ニ決行スルニアリ。

五 奉天支庫ト其ノ補給線

三トス其補給力ノ概數左ノ見込ミナリ。

第一線 東清鐵道 其力約十五個師團分。

大連奉天直通ノ場合ヲ假定ス若シ遼陽ニテ中繼ヲ要スレバ遼陽奉天間

ハ約八乃至九個師團分位ト見積ラザルヲ得ズ。

第二線 遼河水路 其力約六個師團分。

第三線 關外鐵道 其力約四乃至六個師團分。

軍將來ノ補給力ハ約二十五個師團分ヲ見積ルヲ要ス。(終)

三月二十三日 在小北河大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午前三時 午後三時 家屯受

當軍ニハ今約十二日分ノ糧秣アリ。關外輸送ノ便モアリ。又遼河開通マデ

喰繋ギニ差支ナシト思フ故遼陽ヨリ糧秣ノ輸送ハ割麥加給品ノ外二十四日

ヨリ止メラレタシト遼陽支庫へ電報シ置ケリ○當參謀長今日馬廠附近ヨリ
歸リ其話ニ依レバ遼河ハ新民廳ヨリ奉天ニ通ズル交叉點迄ハ營口ヨリ同ジ
船ニテ輸送出來ルトノ事ナリ。同地點迄ノ輸送ヲ希望ス。

右ニ付左ノ如ク電報ス午前五時
午家屯發

答當倉庫ノ出張所ヲ一半臺附近ニ置キ主トシテ貴軍ニ對スル補給業務ヲ開
始スル考ナル故御來意ト一致ス○出張所設置ニ關シテハ該地兵站司令官ノ
助力ト保護アル様貴監部ヨリ御示シヲ願フ○出張所ノ位置ハ一半臺ニテヨ
キカ。他ニ好キ處ナキカ。參謀長ト御協議ノ上返待ツ。

三月二十三日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前三時
午家屯發

關外線ハ二十一日積込ミノ米二百五十石、麥九百七十五石ハ今朝(二十二日)發
送濟ミ。本日積込ミシハ米八百五十四石、麥千二百八十三石内米三百三十八、
麥九百發車濟ミ。二十三日ニハ幾車ヲ得ベキカ分ラザルモ米、麥各四日分ヲ
積ミ、餘リアラバ皆副食ヲ積ム豫定。

同二十三日 奉天前田支庫長ヨリ電報午前四時
午家屯受

答(前日)ノ發電ニ對シ奉天、新民屯間約十五里、一半臺ト馬三家子ニ兵站アリ。

早朝馬ヲ飛バセバ九時頃ニハ到着ス。道路可ナリ○下官ハ當地ノ事少シ片

付ケバ新民屯及鐵嶺方面へ出張シタシ。

右ニ對スル返電午前五時
午家屯發

貴官鐵嶺及新民屯調査ノ事同意ス。本職ハ不日新民屯ニ行キ、都合ニ依レバ
奉天へ廻ハリタキ考ナル故、新民屯ニテ會合ノ事ニシタシ○一半臺附近ニハ
倉庫ノ出張所ヲ設クル筈。

同二十三日 新民屯藤田主計へ電報午前五時
午家屯受

倉庫ノ出張所ヲ一半臺附近ニ設置スル目的ヲ以テ調査スベシ○出張所員ト
シテ主計職務心得村岡半九郎ト若干ノ輸卒ヲ送ル。但、出張所ノ人員ハ所長
一等主計一、所員主計一、計手以下二十名位ト輸卒隊二分隊位トニテ先ヅ百人
許トス○本職ハ近日貴地ニ行ク○一半臺ノ外ニ適當ノ場所アラバ申シ來レ。

右ニ對スル返電午後十時
家屯受

一半臺官渡口ノ情況ヲ今一度偵察スル必要アリ。今出發シ、今夕歸リ電報スル。此地度量衡ノ調査ヲナス必要アリ。本邦ノ枳ト秤ヲ本日出セル使ニ渡サレタシ。枳ハ一斗、一升、一合ノ三種。衡ハ大小二種。

三月二十三日 韓國京城遠藤經理部長ヨリ電報午後一時
家屯受

汽船ノ件取調ベタルトコロ次ノ如シ。汽船ハ七十噸ト三十噸ノ二隻ナリ。河川曳船用トシテハ馬力弱クシテ不適當ナリ。専門家ノ評價ニテハ二隻ニテ貳萬圓以上ノ價值ナシト云フ。目下協同ノ持主ニテ容易ニ賣リ放サザルベシ。仁川碇泊場司令部ノ言ニ依レバ小蒸汽ノ必要ナラバ他ニ適當ナルモノナキニアラズ。營口ヘノ回航ハ困難ナシト云フ。

同二十三日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ返電午後二時二十分
家屯受

答、遼河ノ輸送始マレバ一半臺ヲ止メテ官渡口(遼河ト奉天新民廳街道トノ交又點)司令部ヲ置ク筈。出張所ノ位置ハ官渡口ニセラル、方可ナラン。同

地ニハ今、小野崎兵站司令官待命シアリ。

同二十三日 大野宇品貨物廠長ヨリ電報午後九時
家屯受

夏服類第二軍七千六百五十六捆、第四軍四千六百六十七捆領班ヲ附シ、末廣丸ニテ貴地ヘ向ケ本日發送ス。

右ニ付第二、第四軍經理部長ヘ左ノ如ク電報ス午後十時三十分
家屯發

貴軍用夏服(第二軍ハ七千六百五十六捆、第四軍ハ四千六百六十七捆)本日宇品出帆、營口ニ來ル筈。右品ヲ確實ニ貴軍ニ交付スルニハ如何ニセバヨキカ。御意見承リタシ。

翌二十四日、黒川第四軍經理部長ヨリ電報午後一時
家屯受

答、夏服營口ニ到着ノ上ハ營口ヨリ當軍兵站監部所在地迄輸送ノ爲メ何日間ヲ要スル見込ミナルヤ。

右ニ對スル返電午後三時三十分
家屯發

答、夏服輸送ハ遅クモ四月一日ヨリ始マリ十日ニハ終ル見込ミ。貴軍兵站監部ハ遼陽ヲ引揚グラレタリト聞ク。何レニ轉ゼラレシヤ。夏服ハ當倉庫ヨ

リ兵站經理部へ送り届ケ其以上ハ同經理部長ノ責任トシテハ如何。返待ツ。
右ニ對シ左ノ電報アリ二十五日午前十一時 牛家屯受

夏服輸送ノ期日了承。成ルベク速ニ送付セラレンコトヲ望ム。當軍兵站監
部ハ昨日(二十四日)奉天ニ移轉セリ。故ニ營口ヨリ奉天迄ハ貴倉庫ニテ輸送
セラレタシ。

三月二十三日 大連本倉庫へ電報午後十一時 牛家屯發

三、四日以後ニハ營口ノ河開クナラン。其時機ヨリ營口ノ發車數ヲ増加セラ
レタシ。ドシナ順序ヲ増加セラル、カラ提理部ニ打合ハスベシ。○倉庫ノ希
望ハ最初一兩日ハ比較的少ナクシ、漸次ニ増加セラル、様ニセラレタシ。其
レモ提理部ノ都合ニ依リ多クノ車ヲ出ストアラバ異存ナシ。其ノ豫定列車
ト各列車ニ屬スル貨車數ヲ聞キタシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ二十四日午後三時 三十分 牛家屯發

答、河開キ後營口ノ發車數ヲ増スコト、又漸次ニ増加スルコトモ提理部ニテ

承諾ス。此列車ト車數ハ輸送物ノ都合モアルベケレバ倉庫ノ希望ヲ聞キ計
畫ヲ立テ、返辭シタシト云フ。

三月二十四日 遼東守備軍經理部長へ電報午前零時三十分 牛家屯發

本日(二十三日)米八百一石、麥千八百十三石、罐詰二千三百四貫、生味噌千八百六
貫送り濟ミ。

同二十四日 奉天前田支庫長ヨリ電報午前二時三十分 牛家屯受

本日尾野參謀ニ會見シタ。輕便鐵道ハ目下第三軍ニテ着手中ノ由。該鐵道
終末及經過地同軍へ問ヒ合セ、内報アリタシ。本線敷設ノ事ハ上申濟ミトノ事
○總司令部ノ命ニヨリ當地總司令部保管鹵獲品(十五ヶ所)ヲ明日ヨリ倉庫ニ
テ整理ニ着手ス。○假小屋二十一棟本日受取り。明日ヨリ木材ヲ運ブ筈。之
ヲ應用シ約二千坪ヲプラットホーム的ニ線路ニ沿ヒテ建テル積リ。御考如何。
之レガ爲メ亞鉛板ト不足ノ木材ヲ要ス。今、山崎ヲシテ設計セシメツ、アリ。
同二十四日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前二時三十分 牛家屯受

馬廠ハ一半臺ヨリ輸送揚陸共ニ便利ナルモ船頭ノ家屋ノミニテ事務所等ニ充ツベキ家屋ニ乏シ。併シ全ク無キニアラズ。要スレバ宿舍ハ一半臺ニ設ケ、出張所ヲ馬廠ニ設クルモ差支ナシ。○官渡口ハ船着キ良ケレドモ宿舍ハ巨流河城(二千米)ニ置カネバナラヌ害アリ。○馬廠ト一半臺ハ地圖ニテハ隔タリ居ルモ實際ハ遼河ヲ挾メル兩部落ナリ。○若シ遼河左岸ノ地ニ於テ輕便鐵道ノ布設ニ大差ナケレバ下官ハ官渡口ヲ最モ便利ナリト考フ。○當地ヨリノ發起點ハ其西端ニ設クルヲ可トス。○第八師團ノ大田黑參謀ニ左ノ電ヲ發ス。

○今日貴官ノ命ニ依リ兵卒鈴木、田中ノ兩名馬廠ニアル百三十隻ノ船ヲ備入ニ來リ居ルモ、該船ハ已ニ滿洲軍倉庫ノ手ニ備入レアルヲ以テ、該船ノ使用ニ關シテハ一應滿洲軍倉庫長ニ御協議煩ハシタシ。又當方ニハ官渡口附近ニ五百五十隻ノ船ヲ集メアリ。御承知アリタシ。石佛寺方面ニハ昨今當倉庫ヨリ船舶徵集委員出タ筈。

河ハ三分ノ二融ケ、今日ハ大ニ危險ヲ冒シテ偵察セルモ水ノ深サハ彼ノ地

點ニ就キテ知ルコト能ハズ。平均四尺位。○今日ノ現在米十四日三分、麥十日二分、追送セルハ米十二日一分、麥三日八分ナリ。當地ニ置ク糧秣ハ勉メテ少ナクスル方針。

同二十四日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午後三時三十分 家屯發

昨日及本日共遼河營口ト西營口間ヲ指ス(流水アリテ或ル時間ヲ限ル)外交通稍、危險ナリ。

同二十四日 大連本倉庫ヨリ電報午後八時十分 家屯受

先日敵ニ破壞サレシ大石橋、海城間ノ橋、解氷ノ爲メ浮キ上リ、昨日大連發十三列車ヨリ不通トナレリ。依テ積載糧秣ハ大石橋ニ卸スコトニナルナラン。其時ニ受ケ取ル様取計ハレタシト今提理部ヨリ通知アリ。

次デ又大石橋派出所ヨリ電報午後八時三十分 家屯受

海城附近線路故障ノ爲メ大連發糧秣二列車分約百貨車今卸シツ、アリ。○線路開通未定。

三月二十四日 大連本倉庫今泉主計正へ電報午後九時三十分家屯發

大石橋ニ止マリシ糧秣ヲ兵站司令部へ卸セト參謀長ヨリ電報アリシ趣ナレドモ、右糧秣ハ我倉庫ノ保管ナル故、同所ニ在ル我出張所ニテ一時管理セシムルコト當然ナリ。○保管品ハ保管者トシテ責任アル倉庫長ニ任サレタキ旨參謀長へ協議セヨ。○返待ツ。

右ニ對スル返電夜零時二十分家屯受

答、參謀長ニ協議セシニ大石橋ニ止マリシ糧秣ハ差支ナキ様輸卒其他ヲ以テ卸スコトニ電報セシ迄ニテ保管セヨトノ意味ニアラズ。倉庫ニハ該地ニ出張所モアル故倉庫ノ保管ニ屬スルコト勿論ナリト。尙ホ間違ヒナキ様兵站司令官ニ電報セラル、コトニ協議濟ミ。

同二十四日 奉天前田支庫長ヨリ電報午後九時五十分家屯受

鈴木主計着イタ。明日第二軍ノ鹵獲糧秣ヲ受取ル約束故、當地ノ業務ニ服セシム。○遼河輸送ハ何時頃ヨリ始マルヤ。○遼陽、奉天ノ爲メ輸卒隊二隊ノ増加

ヲ要スル見込ミ、御計畫ヲ願ヒ置ク。○輕鐵線ハ新民、奉天街道上ノ由。然ルトキハ巨流河城附近ニ出張所ヲ設クルコト必要ナラン。

同二十四日 遼陽橋元主計ヨリ電報午後十時五十分家屯受

大石橋、海城間鐵道ノ故障ハ當地提理部出張所ニ就キ取調べタルトコロ。○明日午前九時頃迄ニ通ズル見込ミノ由。○渾河ノ鐵橋ハ修繕材料ノ關係上開通迄ニハ四月一パイ掛ルベシト云フ。

同二十四日 韓國駐劄軍遠藤經理部長へ電報午後十一時家屯發

吃水淺キ川、蒸汽船二隻ヲ壹萬五千圓位ニテ營口支庫ニテ買入レノ件、過日守備軍司令官ノ許可ヲ得タルニ付、若シ貴地ニテ適當ナルモノ買入レ營口へ廻送セラル、ヲ得バ此上モナキ仕合セナリ。至急御配慮願ヒ度シ。

右ニ付左ノ返電アリ二十七日午後六時五分家屯受

御依頼ノ小蒸汽船ハ目下取り調べ中ナルガ、之レニ付其使用ノ目的及ビ噸數其他希望ノ事項承知シタシ。

右返電 二十八年午家電發一時

答、小蒸汽ハ遼河ニ用キラルベキ傳令船ナリ(曳船用ニアラズ)噸數ハ別ニ選ブ所ナシ○速力ハ成ル丈大ナルヲ望ム。遼河ノ流レハ八哩ナリ。故ニ少ナクモ九哩ナルヲ要ス○船ノ代價ハ安キヲ望ム。サレド堅固ニシテ用ヲナスモノヲ得タシ○河ハ今明日ニモ開カレン。小蒸汽必要迫ル、急ギ御周旋ヲ願フ○萬事御委任ス。買入レヲ決行セラレ、營口ヘ廻送セラレタシ。

三月二十四日 大連本倉庫ヘ電報午後十一時五分午家電發

大連、柳樹屯ヨリ營口ヘ轉送スルト、又汽車ニテ遼陽ヘ送ルトニ拘ラズ、副食物ハ必ズ検査ノ上ナラデハ積込ムナカレ。之レガ爲メ柳樹屯ヘモ曾谷雇員ヲ出張セシメ、同様ノ取り計ヒヲ爲サシメヨ○關外鐵道ヘ積込ム爲メニ蓋平ヨリ營口ヘ陸送シ來レル副食物ヲ本日親シク検査セシニ、福神漬及鮭ノ罐詰中全部腐敗ノ函アリ。故ニ蓋平ヨリノ追送中止ヲ掛ケ合ヒ中。

同時ニ辻村經理部長ヘ電報。

蓋平ヨリノ副食物ニハ損敗品多シ。詳シクハ未ダ調査ニ違アラザルモ、予ノ實見セシ處ニ依レバ、福神漬ノ内鮭罐ノ内ニハ全部腐敗ノ函アリ。故ニ副食物ノ陸路輸送ハ止メラレタシ。

三月二十五日 新民屯藤田主計ヘ電報午前二時二十分午家電發

二十四日積込ミ米五百五十石、麥千七百二十五石、罐詰千五百三十六貫、エキス三百九十一貫、粉味噌三百五十貫、二十五日朝迄ニハ皆營口發車ノ筈○罐詰等ハ其地ニテモ猶簡單ニ検査ヲナシ、萬一腐敗ノ恐レアルモノアラバ、前送ヲ見合スベシ○村岡ハ貴地ニ行ク爲メ今朝、關外線ニテ出發ス。

同時ニ辻村經理部長、大江第三軍兵站經理部長ヘモ前項第一節ノ如ク電報セリ。
同二十五日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前十一時二十分午家電受

昨日來糧秣貨車入り來ラズ。故障ヲ生ジタルニアラザルカ○一昨日(二十三)

日)大田黑參謀ニ船ノ事ニ就テ電セシニ第八師團參謀長ヨリ左ノ電アリ。
當師團(第八)ヨリ新民屯、石佛寺等遼河ニ於ケル船舶ノ員數調査ニ出シタル

ハ、全軍ノ爲メ後來ノ作戰ヲ慮リ、輸送材料知リ置ク爲メニシテ、敢テ直ニ當
師團ニテ使用スル譯ニアラズ。故ニ調査ニ就テハ引續キ便宜ヲ與ヘラレ
タシ。又兵卒ニモ此旨傳ヘラレタシ。

石佛寺附近ニハ誰カ派遣セラレタルヤ。○營口ヨリ糧秣積出シノ品種ト數量
豫メ電報ヲ乞フ。

三月二十五日 在小北河大江第三軍兵站經理部長へ電報午後三時三十分 牛家屯發

貴參謀長ヨリ守備軍參謀長へ電報ノ中ニ官渡口司令官へハ出張所ノ請求ニ
應ジ、苦力等ノ請求ニ應ズル様命令セラレタリトアレドモ、當方ノ願フトコロ
ハ倉庫ノ守備ト宿舍ノ供給ヲ受ケタキニ在リ。苦力馬車ノ如キハ打テ明ケ
テ申セバ心配ノ少ナキ方ナリ。貴官ノ御含迄ニ○藤田主計へ命ジテ官渡口
ニ出張所ヲ設クル筈ナリ。

右ニ對シテ左ノ返電アリ午後九時三十分 牛家屯受

答、申越ノ宿舍、守備ノ件承知ス。倉庫員該地へ至ラバ兵站司令部へ協議シ、適

當ノ位置選定セラレタシ。兵站司令部へ申込ミ置キタリ。參謀長モ承知セ
リ。○都合附カバ一度貴地へ往キ關外ヲ通過シテ新民廳ニ至ラントス。貴地、
新民廳間軍服ノ儘ニテ旅行差支ナキヤ。

右ニ付關外鐵道ハ變裝ヲ要ス(當倉庫ニテ貸ス)○下官ハ二十七日朝八時出發新
民屯ニ行ク豫定ト返電セリ。

同二十五日 旅順要塞經理部附一等計手中村勇雄當倉庫附ニ轉入。當倉庫雇
員計手代用建部貞彦旅順要塞經理部へ轉出ス。

同二十五日 新民屯藤田主計ヨリ、糧秣下敷用トシテ柳ノ生木經六寸長サ十尺
一本貳圓ノモノ三百本、經七寸長サ十尺參圓ノモノ二百本計千貳百圓買入レテ
ヨキカノ電報アリ。依テ直ニ買入レテヨシト返電セリ。

同二十五日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後七時三十分 牛家屯受

官渡口ニアル船ノ仕譯終リタルニ四百二十五艘、内二百艘ハ小牛ナリ。「滿倉」
ノ札ト番號ヲ附シ置ケリ。船ノ數ニ差ヲ生ジタルハ大ニ遺憾ナリ。○今汽車

六貨車來ル。

三月二十五日 大石橋佐野主計ヨリ電報午後八時二十分 當地ニ止マリシ糧秣貨車百一内八十一ハ昨夜卸シ、三十ハ今日夜迄ニ卸シ

終ル見込ミ。其品目麥、米、割麥、麵麩、牛糞、其他副食、繩ナリ。○當運輸部ニテハ明日中ニ積ミタルマ、留リ居ル兵器、彈藥、貨車百輛ヲ出シ、其跡ハ都合ノ出來ル丈(毎日十車乃至二十車)糧秣ヲ送ル。但、當地大連間十四ヶ所ノ新設停車場ノ材料ヲ運ビ來ルトキハ百輛ヨリ増スト。○提理部ヘハ百一十一貨車ヲ請求シ、運輸部ヘハ成ルベク急送スベク申込ミタリ。○當地發遼陽行ハ今七列車ニシテ一列車約五十五車ナリ。

同二十五日 每田柳樹屯支庫長ヨリ電報午後九時五十分 牛家屯受

二十五日汽車送リ四十二車二百六十二噸、米五百二十二石、割麥三百十四石、副食一萬三千七百六十八貫、遼陽ヘ○大麥二千百石、北辰丸ニテ營口ヘ送ル。

同二十五日 奉天前田支庫長ヨリ電報午後十時二十分 牛家屯受

本日第二軍經理部ヨリ次ノ鹵獲糧秣ヲ目分量ニテ受取ル。明日ヨリ整理ニ着手ス。

大麥	一八二石	大豆	三二石	小麥	二八五石
高粱	一一、一八〇石	粟	二、五一〇石	麥粉	二、二一七石
蒸麥	一五三石	蕎麥	八七〇石	鹽	五七〇石
黑麵麩	一〇、〇〇貫	豆粕	二五〇、〇〇個	石炭	五〇、〇〇貫

同二十五日 遼陽橋元主計ヘ電報午後十二時 牛家屯發

夏服七千六百五十六梱包ヲ第二軍ヘ、同四千六百六十七梱包ヲ第四軍ヘ至急送付ノ必要アリ。品ハ當月末頃ヨリ日々四十乃至五十梱ヅツ貴庫ヘ送ル筈。貴庫ヨリ奉天支庫ヘ送ル準備セヨ。○第二軍兵站監部ハ未ダ其地ニアルカ。○第二軍兵站經理部ニテハ木炭入用ノ由傳聞ス。然ルトキハ我倉庫ノモノヲ入用丈交付セヨ。

右ニ對スル返電同夜三時 牛家屯受

答、第四軍用夏服輸送ノ件奉天へモ打合セ至急準備シ置クベシ○第二軍兵站
監部ハ當地ニ在リ、又倉庫ニテ炭ヲ渡スコト通知濟ミ。

三月二十五日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前九時三十分 家屯受

經理長官へ電報セリ○三月二旬第三軍へノ交付高ヨ(米三千二百三十石支那
米千五百三十石ヲ含ム)麥二千三百七十九石、二十日現在ヨ(米)二日半ム(麥)一
六ナリ。

三月二十六日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前一時 家屯發

本日(二十五日)關外ニハ米百二十五石麥千八百石積込ミ終リ、猶米二百石、麥六
百石、副食二百四十八梱今積込中ニテ皆明日(二十六日)發送ノ豫定。

右ハ大江第三軍兵站經理部長並ニ新民屯藤田主計へモ同時ニ發電セリ。

同二十六日 大石橋佐野主計ヨリ電報午前十一時五分 家屯受

今日到着シタル輸送計畫ニ依レバ、兵器ハ明日午後五時發ニテ皆送り、其後ハ
糧秣ヲ送ル。其貨車數一日三十、故ニ全部送ルニハ三日半ヲ要ス○一昨夜卸

セシ糧秣ハ百五車ナリシ○糧秣ハ一部ヲ線路側ノ倉庫ニ入レ、一部ヲ線路側
ニ積ミ「アンペラ」ニテ覆ヘリ。

同二十六日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後三時十分 家屯受

當地ニ白菜五萬斤アリ。百斤壹圓四拾錢乃至六拾錢(麻袋ヲ除キテ)品質良好
買入ルベキヤ。

右ニ對スル返電。

答、白菜五萬斤第三軍へ補給ノ見込ミナラバ買入レテヨシ。

同二十六日 宇品貨物廠長へ電報午前十時 家屯發

夏服一萬二千三百二十三梱來ルコト(二十三日記事参照)承知ス。後ハ何時來
ルカ至急送ラレタシ。返待ツ。

右ニ對スル返電午後七時二十分 家屯受

答、二十六日出帆舞子丸ニテ五千二百二十三梱。第三軍ノ分貴地へ向ケ發送セ
リ。第一軍ノ分ハ兩三日中ニ送ル見込ミ。

三月二十六日 辻村遼東守備軍經理部長へ左ノ意見書ヲ送付ス。

明治三十八年三月二十六日

於營口

日 匹

信 亮

辻村經理部長殿

各軍用追送夏服ハ外被ノ補給法ノ如ク總數量ヲ滿洲軍倉庫へ送り來リ倉庫ニテハ各軍ノ位置ト時トノ關係ニ應ジ指示サレアル員數ヲ敏速確實ニ各軍へ届クル方法ニ依リタキ事。

一 マダ夏服ハ到來セヌ、サレド案内ハ宇品貨物廠ヨリ來リアル故指折リ數へテ見レバ本月二十九日カ三十日頃ニハ營口ニ着クナラン貨物廠ヨリノ案内ニ依レバ第二軍七、六五六梱第四軍四、六六七梱ナルガ如シ倉庫ノ望ム處ハ、品ニ區別ヲセズシテ梱包ノ總數ヲ以テ送り來リ書面ニテ仕譯書ヲ示サルレバ其員數ヲ間違ヒナク各軍へ交付スベシ被服デモ肩ニ番號トカ印シノアルモノハ各隊毎ニ品デ區別ガ入ルケレドモ夏服一同じ色ノ「カーキ」ノ夏服、コレハ第二軍へヤルトカ、コレハ第四軍へヤルジャト本國カラ極

メテ來ル必要ハナカラウト思フ、此ノナ事ヲキメテ來ル結果トシテ出先キデ非常ニ面倒ヲ見ル、且ツ其結果ハ好機會ニ各軍ニ適當ニ分配ガ出來ヌ事ニナル、例へバ此度來タ夏服ハ第二軍ト第四軍へ行ク品デアアル第二軍ハヨロシイ遼陽ニアルケレドモ第四軍ハト言へバ其兵站監部ハ奉天デアアル今遼陽カラ奉天へ運搬スルニハ危険ナル渡河ノ不便ガアル夫レヨリモ第四軍ニ引充テ、アルモノヲ第一軍へ渡セバ其監部ハ遼陽ニアル故世話ナシニ渡サレル而シテ今少シク渡河ノ容易ニナリシ時歟又ハ鐵道ノ全通ノ時ニ第四軍へ渡セバ補給ノ仕事ハ甚ダ安イケレドモ品ヲ特定セラレテハ其働キガ付カナイ又第二軍ニ幾個、實際不用ニナリテモ融通ヲ附ケルコトハ出來ナイ故ニ此各軍へノ分配高ハ大概ノ數ヲ示サレテ品ニハ特定ヲ爲サズ時ト場所ニ應ズル計ラヒノ出來ル様ニ改メラレタイ。

二 各軍行ヲ本國ヨリワケテ、ソレニ率領ヲ付シテ先方マデ送り届ケル仕方ハ被服ノ扱ヲ爲ス特別ノ道具立ノナイ時分ノ事デアアルガ滿倉ハ勤務令ニ

モアル通り他ノ糧秣ヤ衛生獸醫ノ材料等ヲ扱フト同様ニ被服ヲ扱フ役目
 デアル其役目ノ者ガ建物モアレバ輸卒モアリ庫手モアリ又鐵道トカ何ト
 カモ大層好都合ニ連絡ノ取リテアルモノガアリ不肖ナガラ吾々幾十人ノ
 經理部ノ人員モアルニ其上心配デ本國ヨリ宰領ヲ付シテ先方ノ軍マデ届
 ケルトアリテハ吾々ハ顔ノナイ話デアル貨物廠長ヨリ來レル電報ニハ「サ
 イリヨウハン」ヲ付シテトアリ其宰領班トデモ謂フモノガ先方ヘマデモ行
 ク事デモアランカ甚ダ不穩當ノ事ト思フ故ニ萬一ソナ事デモアラバ當
 方デハ斷リテ責任ハ當方デ引受ケルカラ又宰領ガ入用ナレバ當方デ附ケ
 ルト申テ其宰領ハ内地ヘ歸ツテ貰フ事ニ可致候間若シ御不同意ナレバ御
 來示ヲ願フ倉庫長ハ其職務ノ示ス處ニヨリ被服ヲ取扱フハ當然ナリトス
 而シテ倉庫デハ被服ヲ製作スルノデハナイ故時機ニ遅レズニ又間違ナク
 ニ現物ヲ交付スル事位ハ出來ズテハ義務モ立タズ又何ニガ爲メニ被服ヲ
 取扱フト言フトコトカ分ラナイ先日貴官ヨリ夏服ガ來ルガ準備ハヨイカト

ノ事故大喜ビデ大急ギデ倉庫ノ準備ヲモナシ其他ノ手筈ヲモ爲シタルニ
 拘ラズ宰領ヲ付シテ各軍ヘノ分ヲ別ニシテ送り來ルト申來レリコレデハ
 丸切リ「ダメ」デアル戰地ノ事情ガ其筋ヘ疎通シテ居ラナイノデアル故ニ左
 ノ事ニ改メタシ。

(イ) 現物ニヨリ區別セラレタル各軍別ケハ之ヲ眼中ニ置カズシテ只夏服
 トシテ滿洲軍倉庫ヘ送り來レルモノト見ルコト。

(ロ) 内地ヨリ來リシ宰領ハ營口迄トシ今後宰領ヲ付ケルト否トハ倉庫長
 ノ任意ニセラレ度キコト

(ハ) 被服ヲ各軍ヘ追送スルニハ時ト場處ヲ顧慮シ迅速ニ且ツ確實ニ送達
 スルヲ目的トスル故次ノ主旨ニ據ル。

第一 現在遼陽ニ兵站監部ヲ有スル軍ヘ先ヅ補給スルコト。

第二 其他ノ軍ニ對スルモノハ其兵站監部ノ位置我補給線ニ對スル難

易ト今後其監部ノ移動ヲ豫測シ得ベシトセバ其豫測セラレタル新位

置ト被服ヲ該監部ニ送ルベキ時日ヲ顧慮シ、總計勞力ニ於テ利益アルモノヲ取ル。

第三 以上ニ判斷セバ實際ニ左ノ如クナラザルベカラズ。

第一回追送夏服ハ第一ト第二ノ兩軍ニ交付シ

第二回以下ノモノヲ第三、第四軍ニ交付ス。

更ニ説明スレバ第一、第二兩軍兵站監部ノ遼陽ニアル内ニ右兩軍ニ對スル夏服ヲ故障ナク渡シ第四軍ヘハ奉、遼間ノ交通自在ニナリテカラ少クモ渾河ノ氷融ケ渡河ノ危險ガナクナリ又ハ鐵道ノ方モ幾分ニテモ前方マデ利用ノ出來ル様ニナリテカラニシタシ又第三軍ノ監部ハ其内ニモ萬一移動スルモ遼河ノ上流カ奉、鐵間ノ鐵道上ノ附近ナラン甲ナレバ關外鐵道ヲ利用シテ(ドウアリラモ)乙ナレバ第四軍ト同ジ考ニテ少シデモ跡ニナル方ガ利益デアルト云フコトナリ。

三月二十六日 辻村遼東守備軍經理部長ヨリ電報午後十一時三十分牛家屯受

滿發一、九九二號ニ依レバ夏服ト着換ヘタル冬服ノ大部分ハ内地ヘ還送スルコト、ナリ、又防寒服モ悉皆同様ノ定メナリ。右ヲ當地ニ止メ置キ洗濯等ノ手入ヲナスハ經濟上モ軍事上モ有利ナラント考フ。貴官ハ右ニ付豫メ考案アル様聞キ及ブ。依テ其意見及方法等詳報アリタシ。書面ニテ可ナリ。

右ニ付奉天前田支庫長、遼陽橋元主計ヘ電報同夜一時十五分牛家屯發

滿發一、九九二號ニテ夏服ト着換ヘタル冬服ノ大部ハ内地ヘ還送スルコト、ナル。防寒服モ同様○右ヲ此地ニ止メ置キテ洗濯又ハ手入セバ經濟上、軍事上共ニ有利ナラン。貴官ノ考案電報アレ。

右ニ對スル橋元主計ノ返電同夜三時三十分牛家屯受

答、中々大問題ニシテ十分ノ研究ヲ要スル事ナルガ、前方ヨリ來ルベキ冬服ノ大部ハ殆ンド修理ヲ加フル價值ナキモノ多カラシ。故ニ寧ロ内地ニ還送スル方經濟上有利ト考フ。防寒服ノ大部ハ洗濯ノミニテ可ナラン。依テ皆還送スルニモ及バザルベシ。但、消毒等ノ設備ハ必要ト思フ。

同上前田支庫長ノ返電四十七日午後一時

冬服防寒服ノ返納品ハ概シテ其ノ破損ノ程度甚シク毛皮類ハ更ニ糝メシ換ヘヲ要スベシ。冬服ノ如キモ一旦解キテ洗濯手入ヲナシ裏地ノ如キハ全ク取換ザルヲ得ザルモノアラン。大多數ノ者ヲ短期間夏期ニ再用ニ供セシムル如クスルニハ非常ノ職工力ヲ要スルヲ以テ速ニ本國ニ還送スルヲ可ナリト思考ス。下着類ニテ洗濯ト若干ノ手入ニテ濟ム者ハ此地ニテ整理スルヲ得ベシ。

右冬服及防寒服ノ件ニ就テハ金子營口支庫長ノ意見ヲモ徵シ、尙ホ當日營口支庫ヘ來合セタル大江第三軍兵站經理部長ニモ協議シ、左ノ如ク返電セリ日午八時四十分
牛家屯發

冬服ト防寒服ノ洗濯ト手入ヲ此地ニ於テ今カラ準備ニ取掛ルモ成算覺束ナシ。故ニ速ニ還送シ内地ニ於テ手入セシムルニ如カズ。委細手紙。
右防寒被服及冬服ノ手入ニ關スル意見書左ノ如シ

防寒被服及夏服ト交換セラルベキ冬服ハ洗濯手入等ノ爲メ速カニ内地ニ還送ヲ要ス。

理由

一 防寒被服及冬服ノ返納セラルベキモノヲ見ルニ概シテ破損甚シク其皮類ハ「ナメシ」替ヘヲ要スルモノ多シ又冬服ハ一旦解キホドキテ洗濯手入ヲ爲シ裏地ノ如キハ全ク取替ヘザルヲ得ズ大數ノモノヲ短時間ニ仕直スコトハ頗ル多數ノ職工力ヲ要ス此職工力ハ戰地ニ於テデモ必シモ得ラレザルニハアラザルモ内地ニ於テ求ムルニ如カズ。

二 此地ニハ被服修理所ノ設備ナキ故此大數ノ洗濯及手入ヲ爲サンニハ是非共蒸汽仕掛ケノ工場ヲ要ス此工場ヲ造ルニハ二ヶ月半ノ日子ナカルベカラズ而シテ九月末迄ニ仕上ゲルモノトセバ左ノ如クナル

$$9 - \left(\frac{3 + 2 \frac{1}{2}}{2} \right) = 3 \frac{1}{2} \text{ 月 即三個月半約百日トス。}$$

四月初メヨリ掛リ工場設備ニ二ヶ月半ヲ引キ夫レヨリ九月末迄ニ於ケル約

百日間ニテ全軍ノ被服ノ洗濯及手入等ヲ仕上グザルベカラズ全軍ノ被服ヲ三十萬人分ト假定シ一人毎ニ衣袴襦袴袴下胴着及外套ノ六種トスレバ其個數ハ $300,000 \times 6 \times 100 \parallel 18,000$ トナル。

工場ヲ遼陽奉天鐵嶺ノ三ヶ所ニ置クトセバ一ヶ所ニテ $18,000 \parallel 6,000$ 毎日平均六千個ヲ仕上グザルベカラズ今カラ設備ヲ始メテ此業務ヲ完フスルコト甚ダ困難ニシテ成算覺束ナシ故ニ斷然内地へ還送スルニ如カズ。
右御問合ニ對シ意見申進候也

明治三十八年三月二十七日

於營口

滿洲軍倉庫長日匹信亮

遼東守備軍經理部長辻村楠造殿

同時ニ前田支庫長橋元主計へ左ノ如ク電報スルト共ニ大連本倉庫へモ其旨通セリ。

冬服防寒服ノ洗濯ト手入ハ貴官ノ意見ノ如ク内地ニテ爲サシムルコトニ決シタリ。故ニ右被服ハ集リ次第小口カラ至急還送ノ取計ヒアレ。

三月二十六日 第三軍兵站經理部池田主計ヨリ電報午後十一時四十分

關外線ノ輸送ニ割麥ナシ。都合シテ若干送ラレタシ。其數量日取承知シタシ。

右返電同夜午前一時十五分 牛家屯發

答割麥百石明日荷出シテ二十八日新民屯ニ送り二十九日ニハ馬廠へ送付スル豫定○跡ハ二十八九日頃營口へノ入船ニ積ミ來ル筈。其レカラ以後ハ續イテ新民屯へ送ル見込ミ。

三月二十七日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前一時三十分 牛家屯受

二十六日現在ヨ米八日九分、麥四日四分、牛罐二日、エキス二日、粉味噌一日九分前送、ヨ米十二日五分、麥五日一分ナリ。

星田守備軍兵站司令部ヨリ明日船ノ受取ニ來ル由、渡シテヨキヤ。直グ返○馬廠ニ在ル船百三十モ我手ニ入レタ。

右ニ對シ午前十時二十五分予ハ明日貴地ニ行ク。船ハ其時星田司令官ニ直接

面會シテ渡スト回答スベシト返電セシニ、同二十七日又左ノ電報アリ午後八時
受電

今、星田司令部ノ副官、司令官ノ代理トシテ來ル。電報ノ旨傳ヘタリ○司令官
ハ目下對頭灣(日本)ニ在リテ不快ナリ。

依テ直ニ副官デモヨロシイ渡セト返電セリ。

三月二十七日 大連本倉庫ヨリ電報午後一時三十分受

陸軍省人事局長ヨリ守備軍參謀長ヘ電報○進藤初太郎ハ滿洲軍倉庫附、海城

兵站司令部附小牧伊三郎ハ同支庫附主計職務取扱命ゼラル。辭令ハ後ヨリ、

右ニ付進藤計手ニ遼陽支庫附ヲ命ジ、其傳達方ヲ遼陽橋元主計ヘ、又小牧計手ニ

營口支庫附ヲ命ジ、海城兵站司令官ヘ傳達方ヲ電報セリ。

同二十七日 辻村遼東守備軍經理部長ヨリ電報午後六時五分受

今朝七時當地ヨリ營口ヘ糧秣船十艘出帆セリ。依テ陸送ハ金子ノ注文アル

モ之ヲ止ムルコトニセリ。尙ホ金子ヘモ傳ヘラレタシ○星田兵站司令官ハ

老達房ノ對岸對頭灣ニ位置セリ。司令官ハ今明兩日ハ一半臺ニアリ。

同二十七日 在奉天第四軍兵站監部ヘ電報午後四時十分發

此度到着スベキ貴軍用夏服梱包ヲ遼陽支庫ヨリ同地ニ殘置セラレアル貴兵

站司令部ノ職員ニ交付シタシ。

右ニ對スル返電午後九時五十分受

答、今度到來スベキ夏服ノ件、來ル三十日迄ニハ遼陽殘留經理部員ハ全部奉天

ニ移轉セシムル筈ニ付、其以前ナラバ同地ニテ受領シテ差支ナシ。

又在奉天第二軍經理部長ヨリモ左ノ返電アリ二十八日午後八時受

夏服類ハ來ル四月十五日迄ナラバ在遼陽當軍兵站經理部ニ、十五日以後ナラ

バ在奉天軍經理部宛ニ、二十五日迄ニ儘ニ到着スル如ク取計ヒアリタシ。

同二十七日 奉天前田支庫長ヨリ遼陽ニ於ケル味噌製造設備費ノ件ニ付電報

アリ。依テ左ノ如ク返電セリ午後六時三十分受

釜、煙突等設備ノ爲メ貳千圓入ルコト承知、實行取計ヒアレ。

三月二十七日 奉天前田支庫長ヨリ停車場附近ニ建設スベキ假小屋二千坪ニ要スル材料(亞鉛板)購買方ニ付承認ヲ求メ來レリ。依テ左ノ如ク返電セリ。

答、貴官ヨリ假小屋二千坪建設ノ件總司令部へ申出デ其許可ヲ得タル上、貴官ノ見込ミ通り實行セラレヨ。總司令部ノ許可ヲ得レバ、其旨本職へ通報セヨ。

三月二十八日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報午前一時三十分 家屯發

本日(二十七日)關外ニテ米五百五十石、副食七百八十四貫八百、エキス百八十貫發送セリ。

同二十八日 大石橋佐野主計ヨリ電報正午 家屯發

今迄ニ積ミタル四十六貨車豫定通り發送済ミ。跡ハ今日四十車明日十九車積ム筈。三十日午前六時ニハ全部済ミトナル豫定。

次デ又電報午後二時三十分 家屯發

唯今提理部ノ命ナリトテ第二軍經理部行ノ品鐵板約一萬二千五百枚ヲ送ルニ付、貨車二十一ヲ營口ニ送ル爲メ、今日ハ二十車丈トナリ、全部送り済ミハ三

十日午後六時トナル。

同二十八日 庫手唐橋民治曩ニ病氣後送ノ處全快ノ上本日再ビ大連本倉庫へ到着ス。

同二十八日 倉庫長大江第三軍兵站經理部長ト共ニ變裝シテ營口ヨリ關外鐵道ニヨリ午前八時四十五分新民屯ニ向ヒテ出發ス。

三井ノ藤瀬「ブツシユ」マグリユ「モ」同行セリ。

同二十八日 正午溝帮子ニ着シ、同地派遣ノ倉庫員米田三等主計ト共ニ停車場其他ヲ巡視シ、午後四時三十分發車同八時新民屯ニ到着ス。

同二十八日 遼東守備軍司令官へ電報午後十一時 新民屯發

下官ハ今朝營口ヲ發シ、今夕新民屯ニ着セリ。去ル二十六日滿洲軍倉庫出張所ヲ官渡口ニ置キ、一等主計藤田順ニ同所長兼務ヲ、主計職務心得村岡半九郎ニ同所員ヲ命ゼリ。村岡ハ同日既ニ官渡口ニ着シアリ。營口ニアリシ第九師團第四輸卒隊ヨリ曹長ノ指揮スル一小隊(輸卒八十)ヲ官渡口出張所ニ派遣

セシムル爲メ去二十五日出發。遼陽、小北河、沙河子ヲ經テ明日頃ハ官渡日ニ着ク筈。右報告ス。

報告ノ事ハ大連本倉庫ヘ電報シ、尙ホ守備軍經理部長ヘモ通報セシメタリ。

三月二十八日 糧秣船米、麥、副食搭載四隻營口ヘ入港シ、明日揚陸スル旨、金子支庫長ヨリ新民屯ヘ報告アリ。

三月二十九日 三等獸醫中島龍夫倉庫附命ゼラレ、辭令到着セル旨、大連本倉庫ヨリ電報アリ。右ハ萩原獸醫正ノ希望ニヨリ着任ノ上ハ遼陽支庫附ヲ命ズベキ旨電報セリ。

同二十九日 金子營口支庫長ヘ電報午後十時新民屯發

目下新民屯ニテハ精米拂底ニ付、支那人ニ我ガ在庫品ノ一部ヲ賣渡ス目的ヲ以テ「マグロユ」ニ取調ベサセタル結果見本ノ必要アリ、西貢米一升許「ブツ」ニ商會ヘ交付スベシ。此見本ハ明日營口ヲ發シ、新民屯ニ來ルベキ同店ノ支那人ニ持參セシムル筈ニ付、今晚ノ内ニ電話ニテ同商會ヘ打合セ置ク可シ。

三月三十日 金子營口支庫長ヨリ電報新民屯受

今日午前十一時ヨリ陸揚ダ開始ス。隆盛、福山、愛知、能登ヨリ麥五千、割麥四千三百、副食、加給品等一萬一千ヲ收容セリ。昨夜來雪降リノ爲メ苦力ノ集マリ惡シク稍、困難セリ。

同三十日 大石橋佐野主計ヨリ電報午前十一時三十分牛家屯着

今四貨車ニ牛糞ヲ載セテ遼陽ニ送ル。是ニテ全部發送濟ミ。下官ハ十時發ニテ營口ニ歸ル。

同三十日 宇品貨物廠長ヨリ電報午後一時牛家屯着

夏服類第一、第二軍ノ分六千七百六十九梱、大本營直屬部隊六十三梱、宰領班ヲ附シ、盛航丸ニテ貴地ヘ向ケ本日(三十日)發送。

同三十日 大連本倉庫ヨリ電報午後八時三十分牛家屯着

今日、武内副提理ヨリ左ノ口頭通知アリ。四月一日以後ノ貨車請求ハ急ニ多數ノ變更ヲ爲スコト、ナルノテ運轉上差支エル故、四月四日頃ヨリ營口百車

兼勤執務シテモ優ニ業務ヲ取り得ル。○小北河ノ出張所ヲ其儘高力屯ニ移ス
ハ前田支庫長モ同感ナルガ如シ。○雨覆五十枚大連へ請求シ置ケリ。

三月三十一日 奉天前田支庫長へ電報午後三時三十分 家屯受

經理長官ヨリ外被ヲ第一軍へ五千八百二十、第五師團へ六千交付セヨト電アリ。第五師團ノ方ハ濟ミシ由。第一軍ノ方ハドウナリシヤ。○夫連ニアル茶褐色外被一萬餘其支庫へ送レト命ジ置キタリ。

遼河ノ水路輸送ハ二三日内ニ營口ヨリ積出シ始メル筈。小北河ノ位置ハ今後必要ナラザル故、適宜引揚方取計ヒアレ。第三軍ノ監部モ明日迄ニハ馬三家子へ移ルトノ話。關外ノ輸送ハ困難ナガラモ實行シツ、アリ。サレド何時ゴタゴタガ起ルモ知レズ。起ツテモ輸送ハ實行シ得ル見込ミ。

右ニ對シテ左ノ返電アリ同夜一時三十分 家屯受

答、遼陽ニ在庫品アリ。第二軍へハ同地ヨリ交付セシム。第五師團へハ渡シ濟ミ。○黄家嶺子、小北河引揚ノ事拜承ス。

今後ノ補給業務ニ付、指揮ヲ受クル爲メ兩三日内貴地ニ行ク。

同三十一日 在沙河子大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後八時五十分 家屯受

出張所倉庫ハ高力屯ニ改メタ。是レハ所謂官渡口ヨリモ一里半程下流左岸ナリ。小野崎司令部モ此處ニアリ。即チ奉天新街道上ノ地點ナリ。○一日迄ハ一半臺、二日以後ハ高力屯へ糧秣ヲ送リテ貰フコトニシタ。當分ノ内水陸ヨリ來ル糧秣ハ皆三面船へ送ルコトニセリ。○當經理部ハ來ル二日前心臺子ニ移ル。

同三十一日 大連本倉庫ヨリ電報午後五時三十分 家屯受

追送計畫上左ノ事ヲ聞キタキ旨、經理長官ヨリ守備軍經理部長へ電アリ。○遼陽營口ニテ味噌ハ幾許出來ルカ。又今後製造増加ノ見込ミアラバ其時期數量共聞キタシ。其外醬油ヲ造ル計畫ハナキカ。アレバ時期數量モ。

同三十一日 遼東守備軍經理部長へ電報午後十二時 家屯發

左ノ件守備軍司令官へ申請ス。

目下新民屯ニ於テ支那白米非常ナル高價ニテ販賣セラレアリ。營口支庫ニ在ル同品ノ幾分ヲ此際賣却スルコトハ第一、關外鐵道使用ノ名義ヲ作ルニ益アリ。第二、國庫ノ收入ヲ増シ、第三、目下ノ狀況支那白米ノ補給ヲ成ル丈少ナクスルコト各軍ニ於テモ望メルモノ、如シ〇右ニ付、只今新民屯方面へ掛合中ナリ。若シ高價ノ買手アラバ機ヲ失セズ賣却シタシ。依テ電報ニテ豫メ許可シ置カレタシ〇營口支庫現在支那白米約二萬六千石。

右ニ對シ左ノ返電アリ四月二日午後九時五十分牛家屯受

支那白米賣却ノ件ハ機ヲ見テ實行セラレ差支ナキ意見ナリ。猶認可ニ就テハ目下取計ヒ中ナリ。

四月一日 鴨綠江軍第十一師團經理部長へ電報午後一時牛家屯發

遼陽支庫へ返納ノ稍、古服多數集マリ來レリ。中ニハ修理用ニ用キ得ベキモノアラシ。過日ノ御照會モアル故通報ス。

右ニ對シ、左ノ返電アリ同夜一時三十分牛家屯受

古品絨衣五百、絨袴千修理用トシテ受領シタシ。奉天へ向ケ汽車輸送頼ム。

四月一日 滿發第一、九九二號ヲ接手ス。同第五條ハ我倉庫ニ關係ナキモノ、如シ。倉庫ニテハ同第三條保管ノ委托ヲ受ケタルモノニ對シ取扱フノミト解釋セラル。其他ノ事ニ手ヲ出スハ寧々越權ナルガ如シ。依テ辻村經理部長へ左ノ如ク電報ス午後二時二十分牛家屯發

滿發第一、九九二號見タ。今後ノ追送被服ニハ我倉庫ハ一切關係ナシ。只不用被服防塞被服ヲ除クノ一部ニ於テ保管ノ委托ヲ受クルモノヲ取扱フノミ。念ノ爲メ。

尙ホ同時ニ大連本倉庫及遼陽橋元主計へ右ノ件ニ付電報セリ。

(參照)滿發第一、九九二號

季節ノ變遷ニ依リ出征部隊ニ於テ著裝換ノ爲所要被服ノ追送及不用被服ノ還送ニ關スル手續左ノ通定ム

明治三十八年三月九日

陸軍大臣 寺 內 正 毅

第一條 季節ノ變遷ニ依リ出征部隊ニ於テ著裝換ノ爲所要ノ被服ニシテ内地ヨリ送付ヲ要スルモノハ適當ノ時期ニ於テ貨物廠ヨリ追送セシム

第二條 季節ノ變遷ニ依リ出征部隊ニ於テ著裝換ノ爲不用トナリタル被服ハ當該部隊ニ於テ調査ノ上其儘再用ニ適スルモノト否トニ分チテ梱包シ其ノ品種數量及梱包數ヲ記シタル調書ヲ作り戰時補充令第六十一請求ノ區分ニ依リ當該經理部ニ報告シ現品ハ該部ノ指示スル場所ニ送付スベシ但シ防寒被服ハ明治三十七年陸達第九十七號ニ依リ總テ還送ノ手續ヲナスモノトス

各經理部ハ前項被服ノ集積場所ヲ定メ豫メ之ヲ各部隊ニ指示スベシ

第三條 各經理部ハ前條被服中其儘再用ニ適スルモノ(防寒被服ヲ除ク)ハ當該兵站經理部若ハ滿洲軍倉庫(支庫)ニ其保管ヲ委托シ置キ後次ノ所要ニ充用シ其他ハ速カニ還送ノ手續ヲ爲スモノトス

兵站經理部及滿洲軍倉庫(支庫)ハ成ルベク前項保管被服ノ手入ヲナシ後

次所要ノ時期ニ於テ委托經理部ノ請求ニ應ジ指定ノ場所ニ送致スベシ

第四條 追送及還送被服ノ率領及授受ニ任セシムル爲メ通常各軍ニ一個ノ率領班ヲ派遣ス

前項率領班ハ某軍率領班ト稱シ其人員派遣部隊、時期及集合地ハ其都度之ヲ指定ス

第五條 率領班ニハ往路貨物廠ニ於テ追送被服ヲ交付シ歸路各經理部及兵站司令部等ニ於テ還送被服(防寒被服ヲ含ム)ヲ交付スベシ

率領班ハ前項被服ヲ受領シ追送被服ハ貨物廠指定ノ部隊ニ送致シ還送被服ハ貨物廠ニ引渡スモノトス(以下略)

四月一日 辻村守備軍經理部長ヨリ左ノ返電アリ午後十時三十分 牛家屯受

滿發一、九九二號夏服ハ率領者ヨリ直接各軍ニ引渡スベキ規定ナルモ、倉庫長ノ承諾アラバ倉庫ニ引渡シ配付セシムベシト、特ニ經理長官ヨリ率領者ニ對シ内訓アリタル由。本職ニ於テモ過日書面ニテ御示談アリタル方法ニ由ル

ハ各軍ノ爲メ便益ト認メ同章ニ於テ所ナクヲ以テ然ルベク御取計トアリテ各シ。
率領者ハ難テ其地ニ到着スル筈。

右ニ付、大連本倉庫及遼陽橋元主計ハ其後ノ事情ニ依レバ或ハ倉庫ニテ扱フ事
ニナルカモ知レズ故送付シ來ルモノハ先ヅ受取り置クベシト電命セリ。

四月一日 遼陽支庫橋元主計ヨリ左ノ報告アリ三月十日付

兼テ御配慮ノ難點ハ各部隊ヨリ當部ヘ送付シ來ルニ前報モオケレバ送付状
モ不完全ニシテ梱包ノ仕方杯ハ御話ニオラヌ始末ナリ。即チ一梱包ニ頭巾
モアレバ襦袢モ入り又袴下モアルト云フ始末故先ヅ開梱シテ整理シ之ニ貨
物廠行ノ札ヲ附シ來月早々大連迄送り出ス手順ニ致居候。

同日 遼東守備軍參謀長ヘ電報午後二時二十分 午後三時二十分

倉庫業務益々頻繁トナリタルヲ以テ附屬輸卒隊ノ増加ヲ要ス。此際少ナクト
モ五百人隊ニ隊ヲ至急増加セラル、様御取計ヒアリタシ。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後三時三十分 午後三時三十分

大江部長ノ報ニ依レバ第三軍ニテハ關外及ビ遼河水路ニ依リテ來ル糧秣ハ
主トシテ水路ニテ輸送ヲナス由○第三軍小野崎司令部ニテ五十隻未永ニテ
三十隻使用シタモ旨申來レリ。此般ハ星田司令部ヘ條件附ノ譲リ渡シ故右
船融通ノ事ハ下官星田司令部ニ對シ協議ニ應ゼシムベシ。

同日 每田柳樹屯支庫長ヘ電報午後五時三十分 午後五時三十分

貴地ヨリノ汽車輸送ハ提理部ヨリ通告アリ次第之ヲ止メ總テ海路ニ依ルコ
ト、承知アレ。

右、柳樹屯ヨリノ汽車輸送ハ同日限り止メトナリタル旨、每田支庫長ヨリ電報
アリ。

尙ホ此件ニ付、同日遼陽橋元主計ヨリモ問ヒ合セアリ。依テ柳樹屯ノ代リニ
ハ營口ヨリ發車セラル、旨返電セリ。

同日 奉天前田支庫長ヨリ電報午後十一時四分 午後十一時四分

井口少將ヨリ今左ノ電アリ○鐵嶺ニ糧秣、雜品ノ戰利品アリ。同地軍政委員

ノ通知ニ應ジ受領アリタシ。但、一時同軍政委員ニ保管セシメ、大范河迄鐵道
開通後之ヲ受領セラル、コト經濟上有利ナリ○右ニ付、矢野主計ニ輸卒三十
名ヲ附シ、明日出發急行セシム。

後、矢野主計出發ノ件ニ付、電照セシニ前田支庫長ヨリ左ノ返電アリ午後九時三分、
答、補給業務及ビ鹵獲品整理打合せノ爲メ今朝ヨリ總司令部及ビ各軍ニ至リ、
今歸リ、電見タ。

小北河糧秣受領ノ件ニ付、明後四日第三軍ヨリ出會ノ旨、照電アリタル故、矢野
主計ヲ今日小北河へ出發セシメ、其代リ中村主計ニ輸卒三十名ヲ附シ、今朝鐵
嶺ニ急行セシメタ。

右ニ付、遼東守備軍司令官へ左ノ如ク電報ス二日午後十時、
總司令部ノ指示ニ由リ、鐵嶺ニアル糧秣、雜品等ノ戰利品受領ノ爲メ、中村二等

主計ニ輸卒三十名ヲ附シ、本日鐵嶺ニ向ケ出發セシメタル旨、奉天支庫長ヨリ
電アリ。右報告ス。

四月二日 午後七時大連本倉庫磐井藥劑正ヨリ前田支庫長ノ請求モアリ。遣
棄セラレタル衛生材料整理旁狀況視察ノ爲メ、齋藤藥劑官ヲ奉天支庫へ派遣セ
シメタキ旨、電報アリ。依テ直チニ承認ノ旨、返電セリ。

同日 韓國遠藤主計監ヨリ電報午後四時四分、
御依頼ノ小蒸汽船ハ買上ゲニ應ズベキモノ四艘アリ。一ハ五十噸、速力十哩、
堅牢ナルモ目下修繕中ニテ尙ホ二週間ヲ要シ、他ハ五十噸、二十噸、十噸、速力八
哩内外ニシテ要求ノ速力ナシ。價格ハ速力速キモノト二艘ニテ指定額以内
ニテ出來ル見込ミナルガ、買入如何ニスベキヤ。

右返電午後十時五分、
答、小蒸汽船ハ速力最モ速キモノ一ト、他ノ三艘ノ内吃水最モ淺キモノ一トヲ
願ヒタシ。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後六時二十分、
今日ヨリ高力屯ニ於テ第三軍へ糧秣ノ交付ヲ始メタ。今朝ヨリ下官モ出張

セリ。第三軍兵站經理部ヨリ木村主計受領ノ爲メ高力屯司令部ニ出張シテ受渡シノ都合上糧秣ハ右岸ニテ受授ス。道路ノ情況先ヅ可ナリ。一半臺ヨリ稍近キ感アリ。○事務所ト輸卒ハ張家窩棚ニ適當ニ舍營シアリ。○新民府出張所常當番トシテ輸卒五名ヲ要ス。右變裝料支那服トシテ參拾圓許支出許可セラレタシ。

右ニ付、辻村守備軍經理部長ヘ電報午後八時二十分 牛家屯發

新民屯藤田主計ヨリ報告ノ要領。○本日ヨリ高力屯(官渡口ノ下流一里半)ニテ第三軍ヘ糧秣ノ交付ヲ始メタ。○以下前項ニ同シ。但、末節變裝服ノ事ヲ省キ次ノ一節ヲ加フ。

倉庫ノ出張所ハ官渡口ヲ止メテ高力屯トセリ。念ノ爲メ。

尙ホ同時ニ藤田主計ヘハ輸卒五名ノ支那服適宜調辨ス可キ旨返電セリ。

四月二日 奉天前田支庫長ヨリ電報午後十時四分 牛家屯受
赤石主計今着ク。明日立チ、貴地ヘ行ク。

四月三日 奉天前田支庫長ヨリ電報午前一時三十分 牛家屯受

本日(二日)尾野參謀ニ會見ス。○來ル四日ヨリ撫順線開通ニ付各軍ノ糧秣補給ハ第一軍ト鴨綠江軍ノ一部ヲ李石寨撫順ノ西方鐵道ノ終點第二軍ノ一部ヲ蘇家屯ニ於テスルコトニ決シタリ。關係各軍ヘハ總參謀長ヨリ左ノ通り發電ノ筈。貴官ヘハ下官ヨリ傳ヘ吳レトノ事。

從來遼陽以北糧秣諸品ノ輸送ハ各軍ニ列車ヲ分配セラレシモ、來ル五日ヨリハ滿洲軍倉庫ニテ此輸送區分ヲ引受ケ、列車到着地點ニテ各軍ニ交付スルコトニシタリ。承知アリタシ。

右、神尾參謀長ヘモ打電セラル、筈。

右ニ對スル返電午前十時四分 牛家屯發

答、李石寨ト蘇家屯ニ出張所ヲ置クコト承知ス。赤石一等主計ヲ存ノ内ノ出張所長ニ命ズル故傳達スベシ。○輸卒二隊増加ノ件、守備軍司令部ヘ請求中。○倉塚着イタ。書面見タ。

右前田支庫長ノ書面(四月一日付)左ノ如シ。

奉天倉庫ノ價值モ鐵道ノ關係上大ナル設備出來兼テ候現今ノ狀況ニ鑑ミ別紙計畫案ノ如ク實行致度總司令部ヘハ内議中ニ御座候同部ノ意圖決定次第下官ハ御指揮ヲ受クル爲メ一度貴地ヘ可罷出候。

追而倉塚工學士ノ奉天新民屯間輕便鐵道線路踏查報告書ハ去ル三月二十六日總司令部ヘ差出置候。

(別紙)

一 奉天ニ於ケル鐵道ノ價值ニ付倉庫業務ヨリ觀察シタル處左ノ如シ。

甲 二十個師團ニ補給センニハ

奉天ニ機關庫或ハ之ニ充用スベキ設備ヲナシ、大連、柳樹屯、營口ヨリ從來ノ如ク日々約三百乃至三百五六十貨車ヲ直通セシムルヲ要ス。

此場合ニハ各軍ノ補給ハ左ノ如クナスコトヲ得。

鴨綠江軍及第一軍ヘハ奉天ヨリ撫順線ニ依リ、第四軍、第二軍全部及ビ第

三軍ノ一部ハ奉天ニ於テ直接交付ヲナス。

乙 十四個師團分ノ補給ニハ

奉天ヲ普通ノ通過停車地ト同一ノ價值トスルコト。

此場合ニハ別紙糧秣補給計畫案ノ如ク、遼陽ヲ大停車場トシ、鴨綠江軍及第一軍ノ爲メニハ遼陽ヨリ撫順線ニ、第四軍ノ全部及第二軍ノ一部ノ爲メニハ遼陽、奉天間及其以北ニ輸送スルコト。

丙 將來ニ於ケル理想ノ鐵道力

鐵嶺附近ニ大停車場ノ設備ヲナシ、同地ヘ二十五個乃至三十個師團分ノ糧秣輸送力ヲ整頓スル事。此時期ハ成ルベク急速ナルヲ要ス。

二 奉天ニ設備スベキ現時ノ倉庫。

鐵道力等ノ關係ニ依リ奉天ニ設備スベキ倉庫ハ前項乙ニ屬ス。從テ其ノ規模モ小ナリ。

奉天ニ於ケル鐵道ノ價值乙ノ如クナルヲ以テ現今ノ狀況ヲ以テ軍將來ノ作

戰ヲ願慮セバ東清鐵道ト遼河水路ノ集點タル鐵嶺附近ニ大停車場ヲ設備シ
 速ニ遼陽ノ根據地ヲ轉進セシムルヲ急トス故ニ鐵嶺ヘハ日々二十五個乃至
 三十個師團分ノ糧秣ヲ輸送シ得ル如ク整頓スルコト此時期ハ急速ナルヲ要
 ス
 以上ノ理由ニヨリ奉天ニハ軍前進開ノ一時的補給ノ設備ヲ爲スニ止ムルモ
 ノトス。

右ニ基キ滿洲軍ノ糧秣補給ヲ計畫スルコト左ノ如シ。

明治三十八年三月十八日

於奉天 前田支庫長

滿洲軍糧秣補給計畫案

- 第一 滿洲軍ハ昨年九月ヨリ遼陽以北ニ在テ敵ト對峙中ナリシモ奉天附近
 ノ大會戰後軍ハ奉天附近及其以北ニ前進シツ、待機ノ姿勢ニ就カントス。
- 第二 補給線 軍ノ利用シ得ベキ補給線ハ三トス。
 - 一 東清鐵道 軍ノ糧秣ハ從來主トシテ東清鐵道ニ依リ大連、柳樹屯、營口

ヨリ遼陽ニ追送シ遼陽支庫(黃家嶺子、小北河)ヨリ各軍ニ直接交付セリ當
 時遼陽以南ノ鐵道力ハ日々約三百乃至三百五六十貨車ヲ運轉セリ今此
 貨車ヲ奉天ニ直通セシムレバ將來ニ於テモ同一輸送力ヲ維持スル割合
 ナリト雖モ鐵道技術及其他ノ理由ニ因リ直通セシムル事ヲ得ズ故ニ一
 且遼陽ニ於テ中繼ギヲナシ遼陽以北ハ更ニ運轉ヲ爲サザルヲ得ズト云
 フ鐵道當局者ノ言ニ依レバ遼陽以北ノ鐵道力日々約二百二十貨車ニシ
 テ内糧秣ノ爲メ約百七十貨車ヲ供用スルコトヲ得ト。

- 二 遼河ノ水路 輸送計畫ニ依レバ先ツ三個師團分ヲ輸送シ漸次其力ヲ
 増加ス。
- 三 關外線 日々約四乃至六個師團分ヲ輸送シ得。

右補給線ヲ利用スルコト左ノ如シ。
 東清鐵道 約十四個師團分
 鳴綠江軍 二個師團補給地 大連、柳樹屯

第一軍

五個師團 中繼地 遼陽 李石寨附近

第四軍

四個師團 補給地 大連 柳樹屯

第二軍

三個師團 中繼地 遼陽 奉天

但、鐵道奉天以北ニ開通スレバ其終末地點ヲ以テ交付地トスルコト。

遼河ノ水路

約三個師團分

第二軍

三個師團 補給地 營口 馬三家子

關外線

約四個師團分

第三軍

四個師團分 補給地 營口 馬三家子

右ノ内鴨綠江軍ノ給養ヲ要セザル時ハ右補給線中二個師團分ヲ減ズルコトヲ得。

第三 補給地、交付地、中繼地相互ノ關係。

交付地倉庫ハ軍ト連絡ヲ保チ常ニ其需用ヲ知悉シテ倉庫品ヲ補給地ニ請求スルモノトス。

補給地倉庫ハ其在庫品ヲ整頓シ追送品ニ付遺憾ナキヲ期スルモノトス。中繼地倉庫ハ東清鐵道線路上ニ於ケル一種ノ調節地ニシテ交付地倉庫ノ所要數ニ應ジ後方補給地ヨリ到着セシ列車ノ編合貨物ノ卸下、積載ト兼テ前方ノ補充ニ任ズルモノトス。

第四 豫備糧秣。

大連及柳樹屯

約若干月分

營口

約若干月分

遼陽

十日乃至二十日分

李石寨

奉天

二日乃至五日分

馬三家子

第五 本計畫ハ奉天ニ鐵道開通後直チニ實行ス但、李石寨ハ撫順鐵道開通後、

馬三家子ハ遼河ノ水路開通後ニ於テ實施スルモノトス。

本計畫ノ實施ニ至ラザル間ハ現今ノ如ク遼陽ニ於テ各軍ニ交付スルモノ

トス。

右計畫案及奉天ニ於ケル倉庫設備ニ關スル意見並ニ該計畫案ニ就キ必要ナル處置ヲ左ノ如ク同司令部ニ上申セリ。
別紙計畫案ニ基キ要スル處置左ノ如シ。

一 李石寨、馬三家子、官渡口ニ出張所ヲ設クルコト。

但、官渡口ノ出張所ニ於テハ遼河及關外線ニ依ル糧秣ヲ收容シ之ヲ馬

三家子方面へ送出ス業務ニ任ゼシムルコト。

二 糧秣品收容ノ爲メ假倉庫ヲ必要ニ應ジ左ノ通り設備スルコト。

李石寨

馬三家子各約五百坪

官渡口

但、在來家屋等ノ利用スベキモノアラバカメテ之ヲ應用スルコト官
渡口ニアリテハ殊ニ然リトス。

奉天 約一千坪

三 李石寨、奉天、馬三家子、官渡口ニハ請求ニヨリ所要ノ倉庫衛兵ヲ配置セラ
ル、コト。

遼陽以北ノ鐵道力及其運轉ニ關シ遼陽鐵道提理部出張所トノ往復書類參考
ノ爲メ添付ス。

遼陽鐵道提理部出張所トノ往復書類

問 遼陽、奉天、撫順間ノ糧秣鐵道輸送ノ爲メニハ大連ヨリ遼陽ニ到着セシ列

車ヲ編合シ直シテ運轉スルコトヲ得ルカ(三月二十九日)

答 大連ヨリ着セシ列車ヲ編合シ直シテ運轉スルコトヲ得之ガ爲メ確實ニ
到着スルコトヲ知ラザル可ラズ若シ豫定シタル列車故障ノ爲メ着セザレ
バ當該列車ハ止メザル可ラズ又目下當地(遼陽)以北ノ列車少ナキ故各軍ヨ
リノ請求ヲ多少減セザルヲ得ズ(三月二十九日)

問 當奉天ニ支庫ヲ設ケラレタリ○奉天、撫順ニ鐵道開通後ハ遼陽以北ノ運

轉貨車數ハ約二百二十貨車ナリト云フ右時期後ハ遼陽以北ノ糧秣貨車ハ總テ遼陽支庫ヘ配當ヲ受ケタキ希望ナリ之ガ爲メ右總貨車數ノ内糧秣ノ爲メ何貨車ヲ使用シ得ルヤ今後ノ計畫上必要ニ付返待ツ(三月三十日)

答 奉天マデ開通ノ曉ニハ二百二十輛ハ運轉シ得ベク内百七十輛ハ糧秣ニ使用シ得ル見込ミ此ノ車ハ各軍ニ配當シテ尙ホ不足ノ傾キアリ各軍ノ糧秣ヲ奉天ニ於テ支給セラル、ナラバ糧秣ニ使用シ得ベキ車輛ハ貴庫ニ配當シテ差支ナシ車輛數ニ就テハ未ダ確實ニ返答シ難シ(三月三十日)

尙ホ同時ニ接手セシ倉塚工學士ヨリ提出ノ奉天、新民屯間輕便鐵道線路實地踏查報告左ノ如シ。

奉天、新民屯間輕便鐵道線路踏查報告書

明治三十八年三月二十一日ヨリ同二十五日ニ至ル五日間ニ於ケル奉天、新民屯間輕便鐵道線路踏查ノ結果左ノ如シ。

一 線路

本踏查ニ於テハ適當ト思惟スルニ線路ヲ選ビ調査ヲ遂ゲタリ一ハ奉天ヨリ大石橋、馬三家子、板橋、老邊、興隆店ヲ經、官渡口上流ニ於テ遼河ヲ渡リ新民屯ニ達スルノ線路ニシテ假リニ之ヲ甲線ト稱シ他ハ新民屯ヨリ東南ノ針路ヲ取リテ馬廠ニ至リ遼河ヲ横ギリ一半臺ニ達シ路ヲ東方ニ取リ欄干堡、董家屯、大荒地、温義中、敬安堡、曹家臺、破堡子、吳家子、陳家子、古家子、洪家子、丁香屯、塔灣ヲ經テ奉天ニ達スルノ線路ナリ今之ヲ乙線ト稱ス是ヨリ此二線ヲ比較スベシ。

二 地質

地質ハ兩線路共ニ大差ナク遼河以東ノ地ハ概シテ粘土質ノ冲積層ナリト雖モ甲線興隆店以西ノ地ハ遼河流域ニシテ粗糙ナル砂濱ヨリナリ高低起伏スルヲ見ル遼河以西新民屯ニ至ル地質ハ兩線路共ニ多クハ粗糙ナル砂質ニシテ線路布設ニ對シ好良ノ土質ニアラズ。

三 地形

地形ハ兩者共ニ無論茫漠タル平原ニシテ諸所ニ凹凸ノ散在セルアルノミナレドモ全體トシテ此兩者ヲ比較スレバ遼河以東ニ於テハ乙線ハ甲線ヨリモ平坦ニシテ線路敷設ニ便ナレドモ以西ニアリテハ甲線ハ乙線ヨリモ平坦ナリ。

四 沼澤及河川

甲線ノ塔灣ヨリ大石橋ニ至ルノ地乙線ノ吳家子洪家子間ニ於テハ各所ニ沼澤ノ散點セルアリト雖モ共ニ其區域小ナルヲ以テ線路ノ敷設ニハ大ナル妨害トナラズ川ハ甲線ニ於テ遼河ノ外七個ノ河流アリテ其幅五六間ヨリ二十間ニ至ル線路ヲ敷設センニハ皆橋梁ヲ架設セザル可ラズ乙線ニアリテハ遼河ノ外一個ノ川幅八間アルノミ排水設備トシテ要用ナル暗渠ノ數ニ至リテハ精密ナル實地測量ノ結果ニヨラザレバ知ル可ラズト雖モ甲線ハ乙線ヨリモ多數ヲ要スベシ其他排水工事トシテハ共ニ殊別ナル設備ヲ要セザルベク地勢ニ應ジ適當ナル處置ヲ施スニ難カラズ。

五 距離

距離ハ大略十七里内外ニシテ兩者ノ間逕庭アルヲ見ズ。

六 遼河横斷點

輕便鐵道トシテ苟クモ一時的ノ小規模ノモノニアリテハ遼河ヲ横ギルニ橋梁ヲ以テスルハ事情ノ許サザル處ナルベシ況ンヤ遼河タル其汎濫區域頗ル廣大ニシテ平時ハ少量ノ流水ナリト雖モ其雨期ニ入ルヤ遠ク兩岸ニ汎濫スルニ於テヤ故ニ一時的ノ粗末ナル假橋ハ以テ雨期流量ノ多大ナルニ堪フル能ハズ故ニ輕便鐵道用トシテ兩岸ノ連絡ヲ取ランニハ船橋若クハ船ヲ以テ爲スヨリ外途ナカルベシ一半臺官渡口間ノ遼河流域ヲ見ルニ水ハ右岸ニ沿ヒテ流ル、ヲ以テ右岸ニハ適當ナル船着場ニ乏シカラズト雖モ左岸ハ多クハ洲ナリ官渡口馬廠ハ共ニ船着場トシテ良好ノ地ナリ而シテ船橋若クハ渡場トシテ此兩者ヲ比較スルニ馬廠ニアリテハ流身官渡口ニ於ケルヨリモ狭ク其兩岸(殊ニ左岸)ノ地形線路ヲ河邊ニ延長シ來ルニ便ナルヲ以テ寧ロ馬廠

ノ官渡口ニ勝レルコトヲ断定スルニ難カラズ。

結論

以上諸項ヲ綜合シテ之ヲ考フルニ其距離ニ於テハ兩者大差ナク工費ノ大小即チ工事ノ難易ヨリ論スレバ乙線ノ甲線ニ勝レルコトヲ断定スルニ難カラズ其遼河橫斷ノ上ヨリ見ルニ馬廠ヨリスルモノハ停車場ノ西端官渡口ヨリスルモノハ東端ニ連結スルヲ可トス而シテ新民屯停車場ノ設備上ヨリ見ルバ車輛ノ連絡運搬等所謂鐵道運用上西端ニ連結スルノ頗ル便ナルヲ見ル以上ノ結論ハ單ニ奉天、新民屯間ノ糧秣輸送上ヨリ見タルモノニシテ若シ遼河ヲ利用シテ官渡口ニ輸送シ又新民屯ヨリ陸路官渡口ニ送り新民屯ヨリ來ル糧秣及ビ水路輸送物ノ一部ヲ割キテ奉天ニ送ルモノトセバ又別問題ナリ漠然難易ト言フ是レ比較的ノ語ニシテ程度ノ語ニアラズ以上ノ兩線路ヲ比較スレバ工事ノ施行等乙線ハ甲線ヨリモ容易ナレドモ共ニ廣漠タル平原上ニ設クルモノニシテ之ヲ内地ノ如キ山岳河川多キ地ニ敷設スルニ比スレバ

其難易日ヲ同ウシテ語ルベカラズ。

單線及複線ノ問題ハ輸送スベキ糧秣ノ分量動力ノ種類及經濟的ノ考慮ヨリ決スベシト雖モ假リニ人力ヲ以テスルモノトセバ複線ヲ最上トスベシ左レドモ若シ經濟上其他時間上之ヲ許サザレバ單線トシテ適當ノ距離ニ停車場及ビ待避線ヲ設クレバ相應ノ輸送ヲ全ウスルコトヲ得ベシ最後ニ臨ンデ一言スベキハ人力ヲ用キル輕便鐵道ハ其數哩ノ如キ短距離ニ於テコソ便益ナレドモ數十哩ニ渉ル長距離ニ於テハ輕便鐵道用機關車ヲ用キルニアラザレバ輸送上經濟上或ハ多クノ利益ナキヲ覺悟セザル可ラズ。

奉天、新民屯間永久的鐵道連絡上ヨリ見レバ其他考慮スベキ他ノ事項アリ即チ奉天、新民屯間ハ其距離十七里ノ長キニ涉レリ故ニ是非共ニ箇所位ノ停車場ヲ要スベシ。

凡ソ鐵道ハ貨物輸送ヲ以テ其主ナル目的トスレドモ又旅客ノ便宜ヲモ願慮セザル可ラズ從ツテ中間主要ノ都市ヲ連絡スル爲メ時トシテ迂路ヲ取ルノ

煩ヲ避クルコトヲ得ザルコトアリ故ニ其見地ヨリスレバ永久的鐵道ハ寧ロ
甲線路ヲ取リ大石橋老邊等適當ノ場所ニ停車場ヲ置キ少シク南下シテ候家
窩甫附近ニ於テ遼河ヲ渡リ新民屯ニ連絡セザル可ラズ遼河ハ勿論鐵道橋ヲ
全流域ニ架ス可ク其他小ナル河川ヲ多ク横ギラザル可ラザル如キハ斯カル
大規模ノ設計ヨリ見レバ素ヨリ論ズルニ足ラザルナリ。
右及御報告候也。

明治三十八年三月二十六日

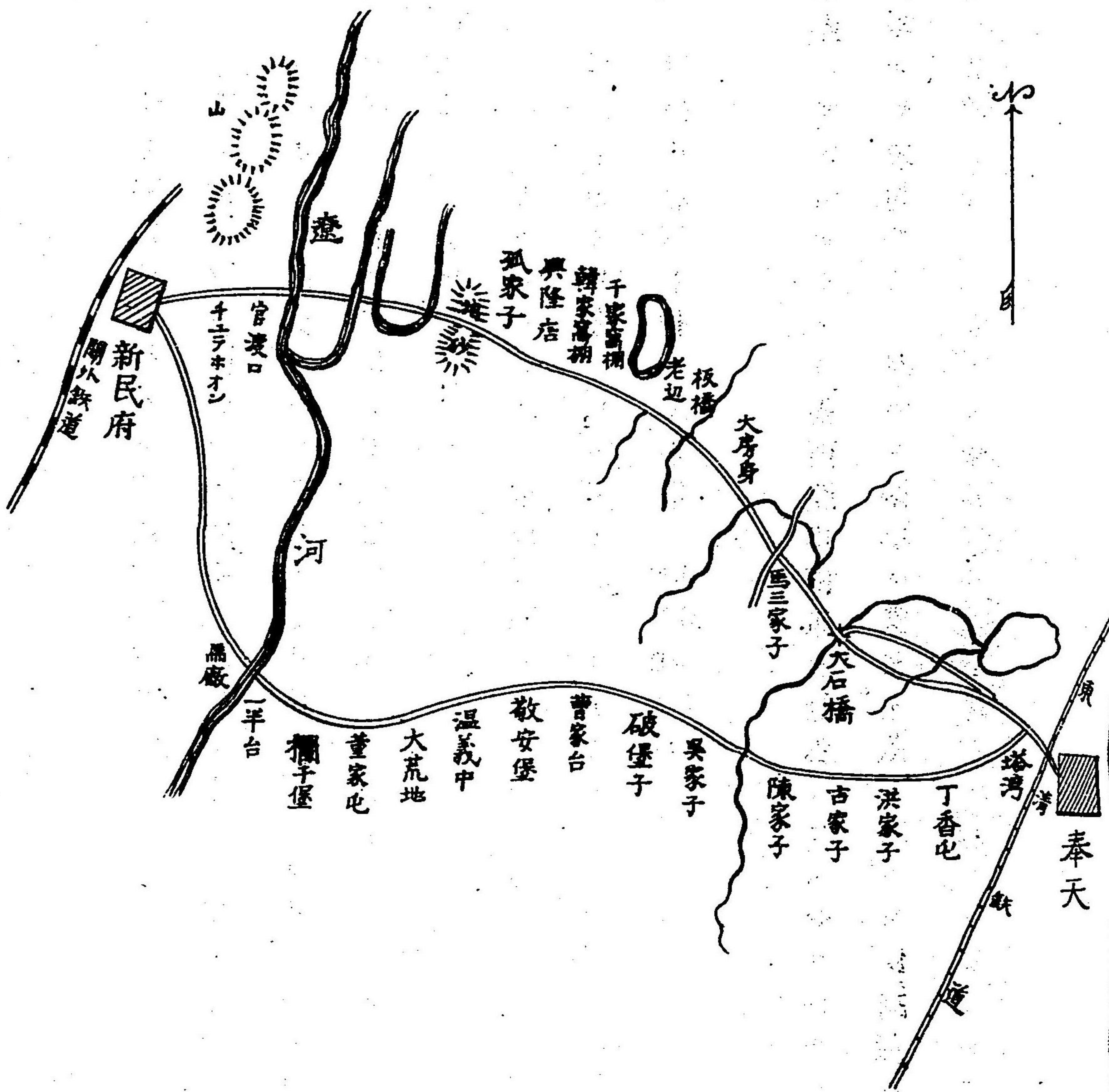
倉塚良夫

日匹倉庫長殿

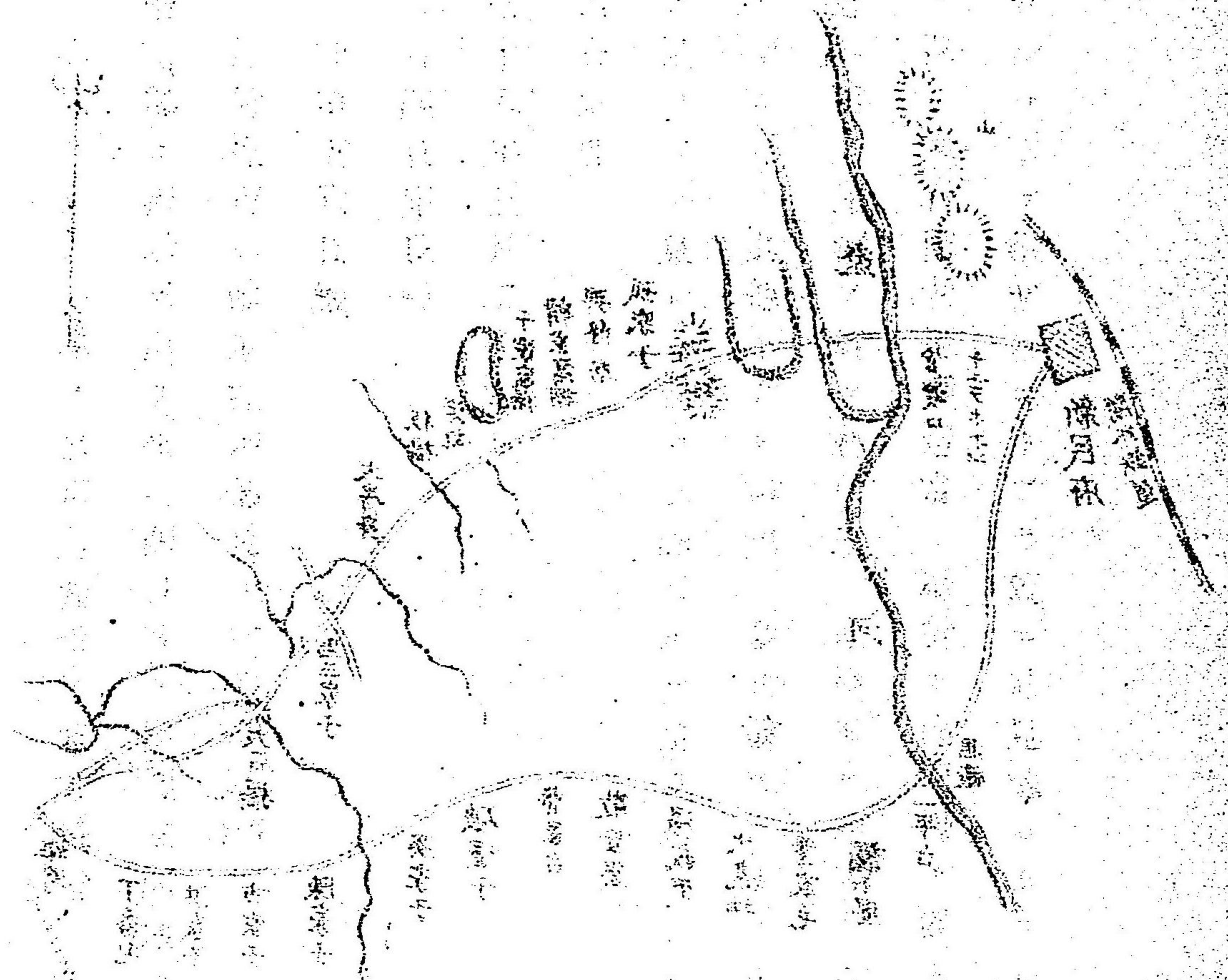
前田支庫長殿

四月三日 辻村遼東守備軍經理部長へ電報正午發

滿洲軍參謀部ノ指示ニ由リ來ル四日ヨリ撫順線開通ニ付各軍ノ糧秣補給ハ
第一軍ト鴨綠江軍ノ一部ヲ李石寨撫順ノ西方鐵道ノ終點ニ第二軍ノ一部ヲ
蘇家屯ニ於テスルコトニ決定セシ旨前田支庫長ヨリ報告アリ○予ハ今ヨリ



1
40,000



遼陽ニ行ク。今後ノ補給ニ關スル意見ハ遼陽ヨリ出ス。

同日 大連ニ於ケル輕便鐵道線路及臺車等若干約二箇月間借用シタキ旨、鐵道提理部ヨリ交渉アリ。然ルニ臺車ハ業務上差支アレドモ、軌道ハ約一哩許貸與ノ協議ニ應ズルコト、シ、露西亞町附近ニ敷設シアル分ヲ取外ツシテ之ヲ貸與セリ。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後二時二十分牛家屯受

先キニ橋口中佐ヨリ貰ヒタル生牛九十七頭アリ。飼養料一頭貳拾五錢ツ、ヲ要ス。右ハ成ルベク各軍ヘ分配セラレタシトノコト故、大江部長ニ各軍ヘ交付方取計ハレ得ルカ。問合セ中。

同日 倉庫長ハ豫テ營口支庫滞在中ノ處、辻庄計等ヲ率キ當日午後三時四十分汽車ニテ牛家屯ヲ出發シ、同日午後九時四十分遼陽支庫ヘ到着セリ。

同日 遼陽ニ於テ野上彌市郎、米原幸之助ヲ庫手ニ採用シ、奉天支庫附ヲ命ズ
四月四日 金子營口支庫長ヨリ電報午後一時五分遼陽受

木村主計今朝着ク。遼藤閣下ノ傳言アリ。左ノ如シ○小蒸汽船買入レハ調
査中。代價ト速力ニ制限セラレ、買上グ困難ナリ。五年以上保存ニ堪ヘ得ル
モノハ今少ナシ。高價ナレドモ壹萬五千圓ニテ十分價值アルモノヲ買入レ
ル見込ミ○船員ハ乗込マシム。其給料及ビ船ヲ營口ヘ廻送スル費用ハ壹萬
五千圓ノ外ナリ。

右ニ付木村主計ノ傳言ニヨル船ノ件、拜承スル旨即時遼藤主計監ヘ電報セリ。

四月四日 在前心臺子大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後二時四分遼陽受

當軍ニハ今野戰倉庫七、兵站倉庫十五アリ。現在ノ雨覆五百枚ニテ迎モ足ラ
ス。更ニ大五百枚追送頼ム。何レノ線ヨリ送ラル、ヤ。

右返電午後六時十分遼陽發

答、雨覆三百枚、松原兵站司令部(遼陽)へ本日渡ス。残り二千枚ハ大連ヨリ着キ
次第渡ス。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後五時四分遼陽受

第三軍ハ高力屯ヨリ上流三面船迄ノ輸送ハ全部水路ニヨル方針ナリト○昨
日同軍ニ渡シタル糧秣二千、今朝三面船ニ向ケ初航行ヲナセリ。

同日 辻村遼東守備軍經理部長ヘ電報午後六時三十分遼陽發

遼河ノ輸送ハ二日營口ヨリ初航出帆、罐詰肉一萬四千九百七十六貫、乾物野菜
四千九百五十貫、大麥四百四十石積込メリ。水路輸送ノ分量ハ當分總數日々
三個師團分トセリ○米ハ成ル丈ケ關外鐵道ニヨル事トシ、彼此相通ジテ日々
七個師團ヲ標準トセリ○只今、藤田ノ報告ニハ(以下前項藤田主計電報ノ通り)

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後六時五十分遼陽受

遼陽支庫長ヨリ貨車ニ雨覆スベク要求アリ。貨車用雨覆ハ鐵道提理部ニモ
若干ノ準備アルモ、十分ナルコトハ望ミナシ。當分、アンペラヲ覆フ積リ。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後九時二十分遼陽受

目下内地ヨリ送り來ルモノハ薪炭、清酒ガ多クシテ大連灣ヨリ來ル船ハ一日
平均二隻ノ割合ナリ。此模様ニテハ關外鐵道ト水路ニテ送レバ、東清鐵道ハ